

研 究 紀 要

第 11 集

- 生徒のらくがきについて……………新 穂 高 史 (1)
- アメリカにおける Summer Institute に学んで …………… 森 井 実 (13)
— 教員研修の実態報告 —
- ハーディの小説における人間像(1) …………… 林 達 男 (22)
— The Return of Native の Diggory Venn —
- 奈良盆地における集落の都市的萌芽についての一考察……………寅 貝 和 男 (33)
- アラビの乱前後(下) — 帝国主義とエジプト —……………松 村 正 樹 (51)
- 高校における変換を軸とした図形指導について(その2)……………数 学 科 (63)
- 「高村光太郎」ノート その五 …………… 井 田 康 子 (1)
詩稿検討 — 詩の推敲について

1969

奈良女子大学文学部
附属中学校・高等学校

生徒のらくがきについて

新 穂 高 史

1 はじめに

狭い路地を歩いて行くと、幼児達が、路面一杯に、頭でっかちの人形とか、車の絵などを、せっせと描いている光景に、ぶつかることがある。こんな時、大部分の人は、これをほほえましく感じることであろう。しかし、学校の正規の授業中に、生徒が机に向って、せっせとらくがきをしていたならば、これは果してどうであろうか。

本校（奈良女子大学文学部附属中学校・高等学校）に於ては、普通教室・特別教室（特に理科教室）を問わず、その机の上には、おびただしいらくがきが見られる。そこに見られるらくがきのほとんどは、取るに足らないものであるが、単に、机を汚すのみならず、時には、多くの生徒に悪影響を及ぼすと、危惧されるものさえある。それ故、大清掃のあるたびに、合わせてらくがき消しも行なって来たが（第1図）、効果は上らなかった。或る時たまりかねて、理科の教官一同で次のよ

うな申し合わせをしたこともある。即ち、「各時限終了毎に、生徒の眼前にあるらくがきの全てを責任をもって消させる」ということである。しかし、これも長続きはしなかった。いつの間にか以前同様、机の上はらくがきで満ちて行ったのである。

「生徒達は何故らくがきをするのだろうか。」「このらくがきを無くすにはどうすればよいのだろうか。」これらの問題と取り組む事は、教師にとって、決して無意味ではなからうとの判断から、筆者は、らくがきに関する調査を始めてみた。



（第1図）

2 調査方法

資料の蒐集は、主に普通教室及び新旧両館の特別教室（なかんずく理科教室）の机上から行なった。またノートや下じき、黒板や掲示板、建物の壁、更には校庭の樹木までも調査の場としたが、らくがき調査では欠かせないと云われるトイレの調査は、気が進まなくて省いた。これらの資料蒐集に当っては、できるだけ隠密裡に事を運ぶよう心がけた。その理由は、教師がらくがき調査をしている事が生徒達に判明すれば、らくがきの内容に、不自然さを生じさせるのではないかという危惧を感じたからである。

以上のように既成のものを拾い集める方法とは別に、白紙を与えて無記名でかかせたらくがきや、質問紙法による調査結果なども、資料として用いた。

3 らくがきの実状

生徒達はどんな所に、どの様ならくがきをしているだろうか。

筆者が資料を蒐集するに当って、主に理科室及び普通教室の机の上に注目したのは、次のような理由がある。一つは、これらの場所ではらくがきの蒐集が容易であるということである。そして、もう一つの理由は、中学二年生（昭和42年度入学生）を対象として行なったアンケートの結果によるものである（調査日は昭和43年10月下旬）。即ち、中学入学後、調査日に至るまでに、どんな場所にらくがきしたかを聞いたのであるが、第1表に見られるように、普通教室の机にらくがきの経験ある者は44.1%、理科室の机にいたっては、実に83.5%の者がその上にらくがきをした覚えがあることになり、これらの場所におけるらくがき経験率は、他の場所の場合に比べて、非常に高い

(第1表) らくがきされる場所及びそこでのらくがき経験者数

場所	組別	A		B		C		合計
	性別	男	女	男	女	男	女	
	被検者数	25	24	24	24	23	25	145
理科室の机		19	18	20	20	22	22	121(83.5%)
普通教室の机		13	10	12	9	10	10	64(44.1%)
その他の教室の机		0	0	0	0	1	2	3(2.1%)
ノート		3	6	4	5	0	5	23(15.9%)
黒板		4	3	3	2	3	1	16(11.0%)
教科書		0	3	1	2	0	1	7(4.8%)
その他(壁、下じき、トイレ等)		5	6	2	3	3	6	25(17.2%)

旧生物教室に於いて蒐集したらくがきの一部を紹介したものである。

第2図及び第3図は、ほぼ極盛期の状態を示したものである。第2図を見ると、左上隅に横文字が見られるが、これは多分、中学一年生の所業だろう。左下の所には、マンガの陰になってはいるが、「東大・京大めざして頑張ろう」という意味のらくがきがなされている。これは高校生の所業と思われる。中央から右下にかけては、ガールフレンドやボーイフレンドの募集に関するらくがきがなされている。ここで注目したいこととして、この〇〇フレンド大募集に関するらくがきは、同一人物が同一時刻になしとげたものではなく、他にも数名の者が、恐らく時刻を異にして、関与した結果できあがったものと考えられることである。筆跡の具合からみて、「ガールフレンド大募集」を書いた者と、「ボーイフレンド大募集、条件は」を書いた者とは別人であり、「条件は」以降を書いた者は、更にこれらとは別人と考えられる。つまり、あるらくがきがなされていると、そのらくがきは、それを見た人に、更につけたしのらくがきをしてみたいという気持を誘起させる場合があることを示している。第3図の左半分には次のようなことが書かれている。

“生きていくということは、恥の連続を意味している。しかも、更に恥とせねばならぬのは、その恥に反応する鋭敏さを失ってしまっているという事実である。”

また右上の所には、次のような詩が書かれている。

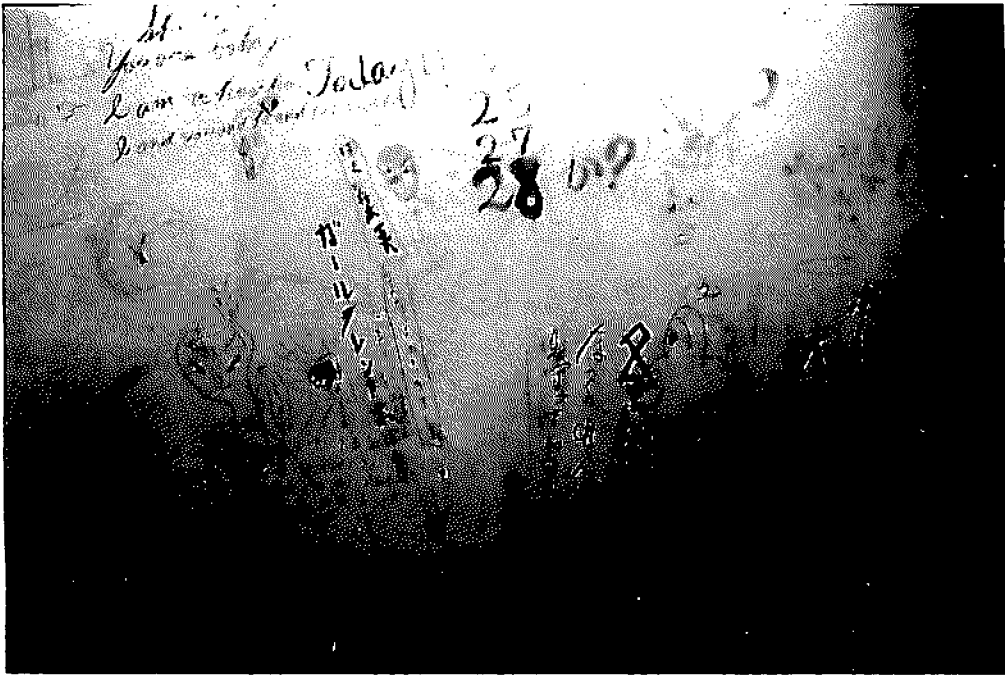
“ 青い空の白い雲

なぜかマッターホルンを想い出す

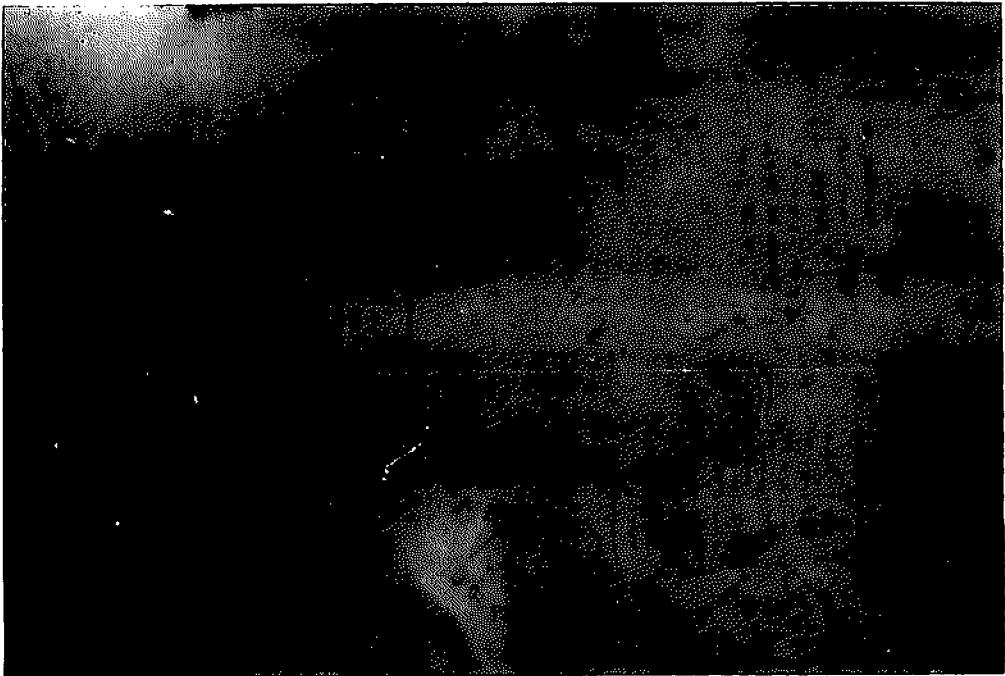
のである。従って校内でのらくがきの動向をさぐるには、理科室及び普通教室の机は、見逃がすことのできない調査場所であり、また、これらを充分調査しておけば、大体の動向を把握できると考えられる。

ところで、第1表に示された場所に於て、どのようなくがきが見られるだろうか。

第2図から第7図までは、



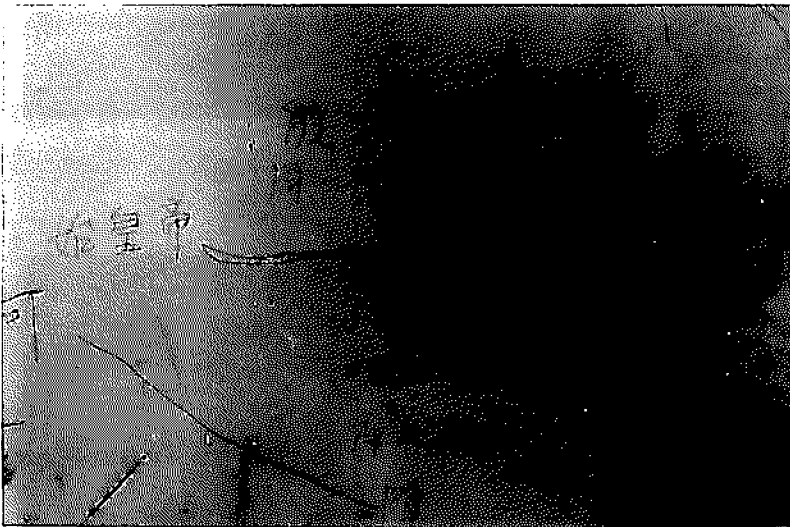
(第 2 图)



(第 3 图)



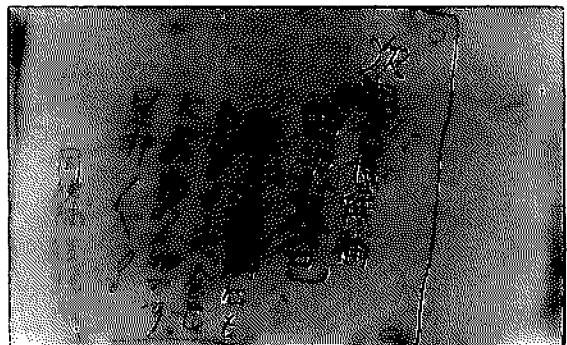
(第 4 図)



(第 5 図)



(第 6 図)



(第 7 図)

青い空の中に

くっきりとうかぶ白い山

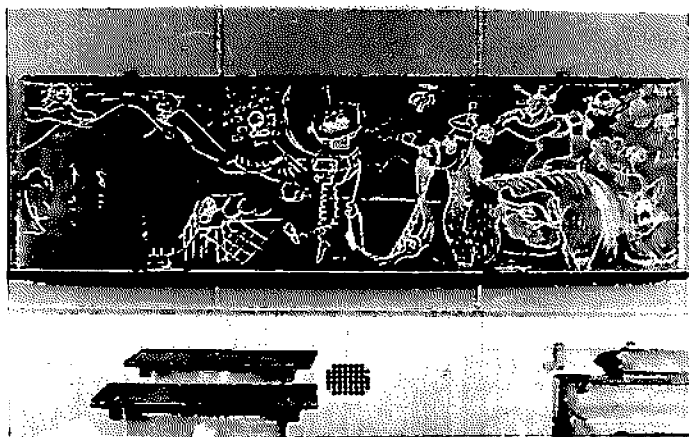
私のあこがれスイス

はるかな遠い国”

この詩の下には、高校入試に備えて勉強しなければならない現状に悩む心境をしるしたらくがきが見られる。また左上隅には相合い傘が出ているが、これも手がこむと第4図のようになってくる。第3図の中央下寄りの所に三角形の図が出ており、その右上には $\frac{\lambda}{\beta(\alpha-\beta)}$ の式が出ている。このように、らくがきの中には学習に関するものもあり、第5図もそれを示しているが、これらは机面を紙の代りに使っているわけである。らくがきには以上の他に、社会問題について触れたもの、他人の悪口や秘密を暴露したもの、遊戯（詰将棋・五目ならべ・戦争ごっこ等）、マンガ（第6図）、意味不明なもの等が見られる。時には選挙運動の一手段としてらくがきが利用される場合もある（第7図）。

理科室以外の他の場所に於けるらくがきはどうか。普通教室の机には、理科室の机と同様の内容のものが一応は認められるが、個々の内容の量的な関係は違って来る場合がある。例えば、普通教室の机では、使用する生徒の名が多く目につき出す反面、相合い傘等は少くなっている。教室の黒板になされるらくがきは、消され易いことから、仲々その実体をとらえにくい。第8図に黒板になされたらくがきの一例を示した。

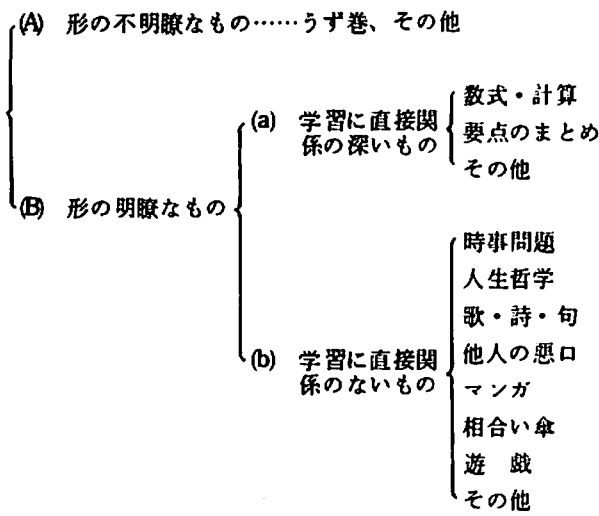
このらくがきは高校二年生のホームルームで蒐集したものである。また、ノートになされたらくがきを調べるのも功の少ないことが多い。ノートのらくがきを調べようと思えば、生徒にノート提出を求めるわけであるが、そうなると生徒達はらくがきの部分だけ消してしまうからである。第1表によると、ノートや教科書にらくがきした経験があるのは男子より女子の方に多い。これらの女生徒の場合、らくがきの内容の大部分は少女雑誌にある少女の顔の絵である。



(第8図)

以上、どのようならくがきが見られるかについて述べてきたが、これらのらくがきを大まかに分類すると、第9図のようになる。

ところで、学校でいろいろならくがきに接する度に、これがどんな生徒達の仕業によるものか、知りたくなるのであるが、これを解明するに当っては、実際にらくがきしているのを見るのが一番確実である。しかし、これは現実には仲々望めないことであろう。それではこれを間接的にでもあれ、調べる方法はないだろうか。そう思って始めたのがペーパーらくがき調査法である。これは生徒に白紙を与え、無記名（但し性別は書かせる）で自由にらくがきさせ、その内容を分析するものである。この調査法によると、調査日の段階に於ける被検者達の、らくがきしたくなる関心事がど



(第 9 図)

こにあるか、大約の見当がつくであろう。また、ペーパーらくがきには、教室の机にしたいくがきの内容が投影されると予想されるから、この方法を全学年の生徒に適用した場合、そこに現われたペーパーらくがきの結果から、逆に、理科室等で見られる様々ならくがきが、主にどの学年・学級の生徒達によってなされたかを推察できるのではないだろうか。上のような考えに基づき、手始めに中学二年生（昭和42年度入学）の3学級に対して、この調査を行なってみた。そして翌年にも中学二年

生（昭和43年度入学）の2学級についてペーパーらくがき調査を試みた。調査の時期は、前者は秋、後者は初夏である。これらの結果は第2表のようになった。

第2表 中学二年生におけるペーパーらくがきの内容分析

内容項目	入 学 年 度		昭 和 42 年 度						昭 和 43 年 度				小 計		合 計
	組 別		A		B		C		A		B		男	女	
	性 別		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
	被 検 者 数		25	24	24	24	23	25	25	21	25	24	122	118	
① 人 生 哲 学	1	0	0	1	0	0	2	2	0	4	3	7	10		
② 時 事 問 題	4	1	1	0	2	1	11	2	7	2	25	6	31		
③ 学 業 成 績 や 試 験 等	4	2	0	2	3	0	3	5	0	3	10	12	22		
④ 教 師 の 悪 口 や 冷 評	8	4	1	2	0	3	1	8	1	1	11	18	29		
⑤ 学 友 の 悪 口 や 冷 評	5	2	0	2	2	2	0	0	1	3	8	9	17		
⑥ 学 習 に 関 す る こ と	2	1	1	1	4	0	0	0	2	2	9	4	13		
⑦ 相 合 い 傘	12	7	1	4	3	0	9	13	0	0	25	24	49		
⑧ 性 (sex) へ の 関 心	1	0	4	0	0	0	7	7	3	1	15	8	23		
⑨ 求 愛	2	8	2	0	0	7	1	2	0	6	5	23	28		
⑩ タレント・スターへのあこがれ	0	1	0	2	0	2	1	8	0	1	1	14	15		
⑪ 歌 や 詩	1	4	0	1	1	2	1	1	0	1	3	9	12		
⑫ コマーシャル その他	0	2	7	1	2	2	4	1	1	1	14	7	21		
⑬ 自動車・汽車・二輪車等	3	0	1	0	4	0	3	0	5	0	16	0	16		
⑭ 戦闘機・軍艦・戦車等	8	0	1	0	1	0	3	0	2	0	15	0	15		
⑮ SF	4	1	1	0	1	0	4	0	0	0	10	1	11		
⑯ 漫画 (a) ボンチ絵等	5	12	1	2	3	6	6	6	4	11	17	37	54		
(b) 少女の絵	0	3	0	3	0	2	0	7	0	6	0	21	21		
⑰ 遊戯 (五目ならべ・詰将棋等)	4	0	3	5	8	2	5	3	2	2	22	12	34		
⑱ スポ ツ 関 係	7	1	0	0	2	0	4	0	2	2	15	3	18		

この表は、各項目について、何人の生徒がそれについて触れているかを示したもので、個々人に於ける量的関係については表わされていない。つまり、一人の者が政治・一般社会・宇宙科学の事に関し、とうとうと述べたとしても、それは“時事問題について触たれ者一名”として扱かわれているにすぎないことを意味する。

ここでちょっと注意してもらいたいことは、ペーパーらくがきに現われた内容の全てが、この表にとり上げられているのではないということである。この表に出ている以外の内容のらくがきもあったのであるが、それらについて触れているのはごく少人数であるため、表には省略してある。

この表を見て先ず感ずることは、理科室の机上等でみられるのとほぼ同じ内容の事柄が、このペーパーらくがきに於いても見られるということである。ただし、この表を離れて、実際の個々の内容の量的なこと、質的なことになると、両者にいきさかの相違が見られる。例えば、学習に関することや、何を書いているか分からない形の不分明なものは机上の方に多く見られる。また、机上のらくがきは、授業中に教師の目を盗んでの行為であるだけに、お粗末なものが多いが、ペーパーらくがきでは仲々手のこんだものが見られるようになる。また理科室の机上でのらくがきは、不特定多数の学友の眼を意識してなされるのに対し、ペーパーらくがきでは、それを課した教師の眼を意識するところから、時には教師に挑戦して来るかに見えるものも現われてくる（例えば sex に関するらくがき等、全くびっくりさせられるような露骨なものが現われたり、調査した教師にからむらくがきが多くなったりする）。このように、机上のらくがきとペーパーらくがきとは、量的にも、質的にも異なる場合も出てくるが、大体に於いてはよく類似しているように思われる。

ここで表について、多少の考察をも加えながら、見てみよう。

この表から分るように、最も多くの生徒が手がけたらくがき内容は漫画である。これは最近の漫画ブームと関係があると考えられる。この場合、男生徒よりも女生徒の方に多くみられ、特に少女雑誌に現われるような少女の絵に至っては、女生徒の独壇場のようなものである。このように性差の現われる項目としては、時事問題・乗物に関すること・戦争や兵器に関すること・SF・スポーツ関係・他人へのあこがれ等があげられ、最後の一項を除いては、全て男生徒の方が女生徒を上まわっている。漫画に次いで多くの生徒がらくがきしているのは相合い傘である。これは次項の sex への関心及び求愛なども一緒にして、広義の「性に対する関心」としてまとめてしまうと、漫画をも抜くことになる。このように、この項目に関したらくがきが多いということは、中学二年生という時期が、性にめざめ出して間もないため、性に対して極めて関心が強いことのあらわれと見なせるのではないだろうか。性に対する関心とは逆に、人生哲学や時事問題等について触れている生徒は割りに少ないが、これは中二の大部分は、未だそこまで精神が発達していないことのあらわれではないだろうか。たとえ触れていても、その本質がよく分らないものもある。例えば反安保をかげながら、同時に軍用機への陶酔がうかがわれるらくがきなど、そのあらわれの一つと考えられる。

各項目について、学級ごとにみていくと、学級差のあることがわかる。昭和42年度入学生にしても、昭和43年度入学生にしても、A組の生徒達は、他の組の生徒達よりも、らくがきで触れている内容に、変化の巾が大きい。変化の巾が大きいというだけでなく、実際の資料から、量的にも他の組を上まわっていることがわかる。言いかえれば、白紙を与えられた場合、A組の生徒達は他の組の生徒達より遙かに熱心にらくがきしているということである。このようにらくがき量に学級差が生ずる原因としては、学級の人的構成のみでなく、そこにかもし出される雰囲気も、大いに関係していると考えられる。らくがきの質及び量は、学年間に於いても差がみられる。

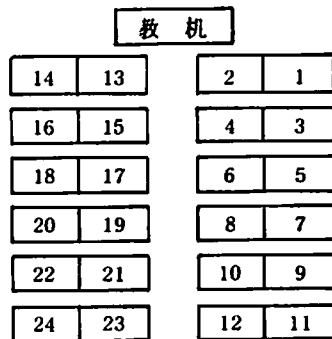
以上、ペーパーらくがきに関し述べてきたが、このペーパーらくがき調査が全学年にわたって適

用され、その内容が十分に分析されるならば、これによって得られた知見をもとに、机上になされたらくがきの分析も可能となるに違いない。

ところで、教室の机の配置とらくがきとの間には、どんな関係があるだろうか。一般には、教机に近い机ではらくがきが少なく、遠のくほど多くなってくると予想されるが、果してそうであろうか。

第10図は、旧生物教室の机の配置を示したものである*。

ある大清掃の時、この教室の机にある全てのらくがきを消してもらい、翌日、どのようならくがきがなされるかを毎時限終了毎に調べてみた。その結果を第3表に示す。この表中、○印はらくがきがなされたことを示すものである。これによると、教机からみて右半分の机は、前後の関係なくらくがきが現われているが、左半分の机では前に少なく後に多いという結果がでている。これはほんの1日だけの結果であるから、参考資料にすぎないが、



(第10図)

第3表 旧生物教室に於けるある日のらくがき状態

時限\机番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
1(中1)					○			○	○			○	○							○				
2(なし)																								
3(高1)								○							○	○				○	○	○		
4(高1)											○			○						○				
5(高2)								○				○				○	○		○					
6(なし)																								
放 課 後	○		○	○																				

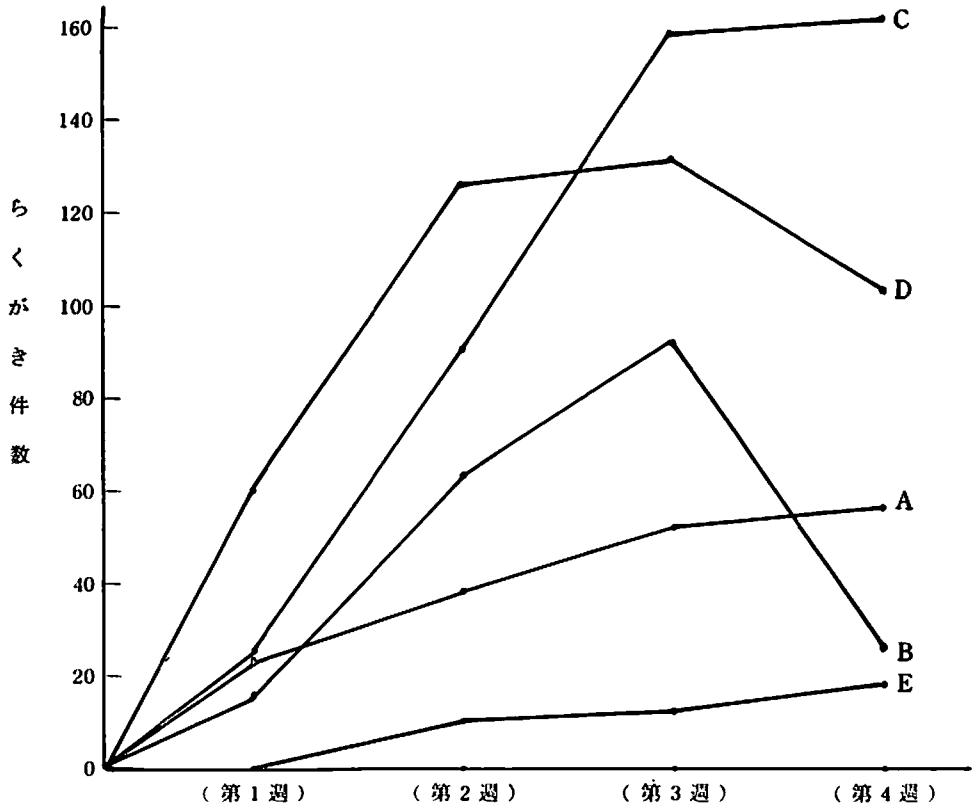
目を追って観察してみると、教机に遠い所だけでなく、近い所でも結構らくがきは増えているのがわかる。但し、この場合、教机に遠い所の机より近い所の机の方が、らくがきの極盛期に達するのに時間がかかるようである。なお表中、放課後になされたらくがきも取り扱ってあるが、これは課外実験を行なった高校生の所業である。

次にらくがきの増え方についてその実状を見てみよう。

待望の新館が完成し、移転したのは昭和44年の5月中旬のこと。これを記念してというわけでもないが、移転終了直後から一週間毎に、4回にわたって、新しい理科室の机になされたらくがきについての調査を行なった。主にらくがき件数の増減について調べたのであるが、結果は第11図のようになった。横軸には移転後の経過日数がとってあり、各週末に於けるらくがき件数が示されている。但し、この図を見る場合に気をつけなければならないことがある。それは、この調査期間中、一度も意図的にらくがき消しを行なっていないということである**。従って、例えば第1週になされたらくがきが、第2週の調査の時に残っていて、第2週のらくがき件数の中に数えこまれることだっており得ることを意味する。つまりこの図では、各週毎にどれだけ新しいらくがきがなされたか(註)

* 図では1個の机を2つの部分に分け、それぞれの番号をつけてあらわしたが、これは机の中央に水道栓と流しが付いており、これによって机が2つに分けられていることに拠る。1個の机は4人の生徒によって使われる。従って、番号毎に2人の生徒が坐っていることになる。

** 但し、部分的には、平常の清掃時に机面がふかれたり、らくがきに批判的な生徒の手により、らくがきが消された可能性はある。



(第11図) 理科室に於けるらくがき件数の遷移

但し

A 物理教室(青) B 化学教室(薄緑) C 理科講義室(薄茶)
 D 生物教室(薄青) E 地学教室(こげ茶)

(註) ()内はその教室の机の色をあらわす。

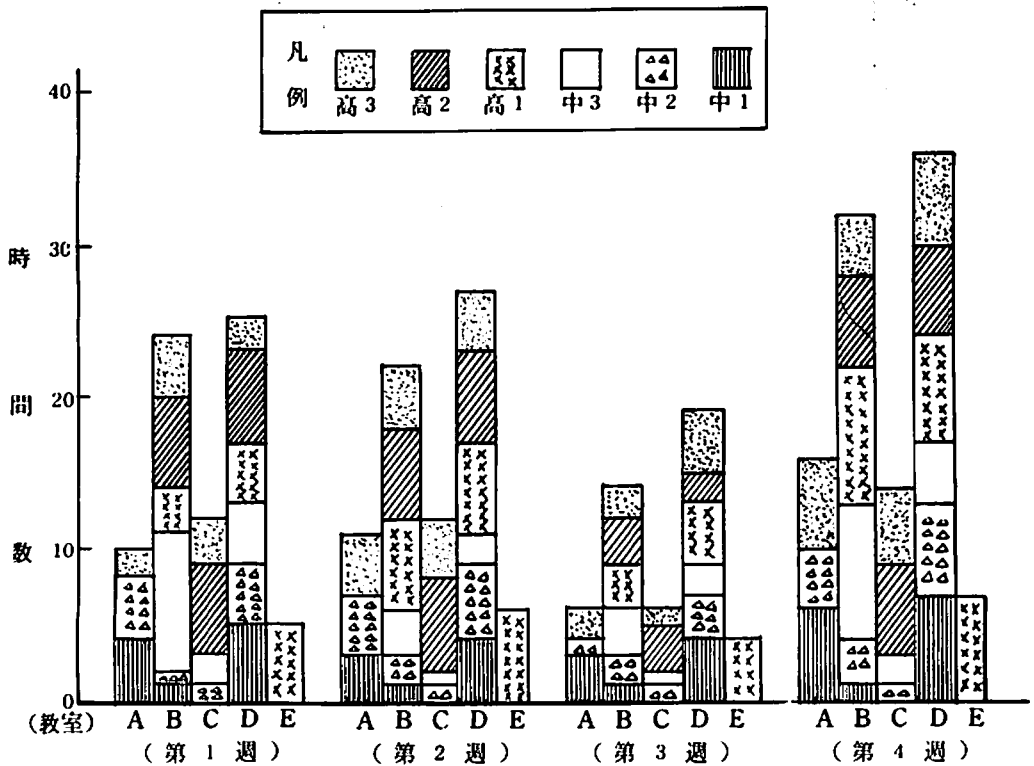
は示されず、ただ机の汚れ度合が示されるにとどまるものである。

さて、この第11図をみて先ず気づくことは、時の経過と共にらくがき件数も変わって行っているが、その変り方が教室ごとに異なるということである。この差異は一体どこに起因するのであろうか。このことを説明するために、各教室の使用のされ方について調べてみた(第12図)。

この第11図と第12図とから、次のことがいえる。

- ① 理科講義室は使用度の低い割に、らくがき件数は多い。
- ② 生物教室と化学教室は、中1から高3に至る全学年の生徒がここで授業を受け、授業時数も両者でほぼ似ているが、らくがき件数は前者の方がずっと多い。この両者は第4週になると、生徒の自発的ならくがき消しが行なわれたとみえ、らくがき件数が減少している。
- ③ 地学教室は一学年が使ったのみで、使用度も低く、らくがき件数も少ない。
- ④ これらの図に現われた結果だけでは、どの学年がらくがきかきの主役を演じたか判断できない。

しかし、④に関しては、らくがきの内容からみて、中学生(中でも二年生)の所業と推量されるものが最も目についた。



(第12図) 各教室に於ける各学年の授業時間数

(註) 第1週は移転作業のため特別の時間割が組まれた。また、第2週には、中1及び中3に対し、3日間にわたって中間考査が行なわれた。第3週には、中1及び中3は学年行事に出発。他の学年に対しては、3日間にわたって中間考査が行なわれた。考査はいずれも普通教室で行なわれた。この図に於ける中3及び中2は、各々昭和42年度及び昭和43年度の入学生で、既にペーパーらくがきで紹介した学年である。

4 らくがきする理由について

ヒトはなぜらくがきをするのだろうか。これについて李家正文氏は、著書「らくがき文化史」の中で次のようにいっている。

“らくがきがどうして生れるかということについてはいろいろなことがいえる。らくがきは生活の余りであるという説がある。また、らくがきは生活の飢えを充たそうとして生れるという見方もある。これはおそらくどちらも真理である。”

ところで、生徒達はなぜ学校でらくがきをするのだろうか。

上の問いかけに対し、生徒達はいろいろな理由を答えてくれた。次にその一部を紹介する。

“何も書いてないところは何となくさびしく、いたずらな心を起こさせる。”

“らくがきはガラスを割ったり、もっと悪いいたずらをするよりましだし、手軽にできる。他であまりいたずらができないから、いたずらをしたために起こるストレスをらくがきによって解消する。”

“授業がつまらなくなったり、わからなくなった時、またいらいらしている時に書いてしまう。”

無意識にかく時もある。”

“自分の夢をらくがきにたくすことができる。”

“日頃の欲求不満を解消させるのに手ごろである。”

“既成のらくがきがあると、それに刺激されて、そのらくがきの横に関連したらくがきをかく。次の授業の時のぞいて見ると、自分のらくがきの隣りに新たなるらくがきがかいてある。何となく楽しくなってきたらくがきを続けてしまう。姿の見えない相手と話している面白さがある。”

“らくがきによってその席にあとで座る人と会話ができることもある。他人に面と向っては言えないことや悩みをらくがきによって、その席に座る人に告白できる。”

“誰にも言えないことや、心の中でモヤモヤしている事をらくがきで書き現わすとスカッとする。”

“他人が秘かにしていることを暴露したり、他人の悪口をらくがきするとストレス解消のためによい。”

“授業中、ふいに計算等をしなくてはならなくなった時、計算用紙の代りに机面を使う。”

“自分のことを記念するためにらくがきする。”

“他人のらくがきに対抗するため。皆がかいているのにどうして自分だけかかずにおられるだろう。”

上にみたように、生徒達はいろいろな理由のもとにらくがきを行なっている。らくがきする理由は勿論これだけではないが、大筋のところは出ているように思う。そして上述の理由から判断できるように、生徒達のらくがきも生活の飢えを充たそうとし、或いは生活の余りを楽しもうとするとところから生まれ出ていると言えそうである。

ところで第1表にみるように、理科室でのらくがき経験者が多いのはどんな理由によるのだろうか。

これについては、次のような生徒の告白がある。

“ホームルームでは自分の席が決っているのでできないが（またはしてもすぐ消すが）、理科室では中1から高3まで入れ替り立ち替り変わるので、誰がやったかわからないのでやる。”

“理科室にはいろんなクラスが来るので、伝達のしがいががある。”（第7図等はこれをよく裏づけている。）

“理科室の机の色と材質が、らくがきするのに適当である。”

結局、理科室でらくがき生まれやすいのは ①机がらくがきしやすい材（デコラ板使用）から成り、塗装色が青色系統であるため、鉛筆を使った場合、コントラストが付き易い。②中1から高3に至るいろいろな学級が出入りするため、らくがきによって姿の見えない相手と話せる面白さがあるし、らくがきした責任を追求されることも少ない。

といったことが主な理由となっているようである。

5 らくがきの防止について

生徒達が学校の机にらくがきするのは、公共物を汚損するというだけでなく、教育上問題だと考えられることも多い。公共の施設であるとか文化財等がらくがきされて社会問題になることだって少くないが、学校で何げなくしていたいたずらが、これらの問題を惹起する遠因ともなりかねない。また現実の問題として、らくがきしている間は油断しているわけで、学習面でのマイナスも考えられる。従って、らくがきはできるだけ追放することにしたいと思うが、それにはどうしたら

良いだろうか。

このことに関し、筆者が得た結論は次の通りである。

(1) 公德心の育成をはかる。

らくがきは洋の東西・今昔・貴賤を問わずなされてきた。ヒトがらくがきをするのは本能的なものさえ感じられる。従ってらくがきはおいそれと失くなるものではないと思うが、だからといってだまって見ているわけにもいかない。大脳生理学の教えるところによると、本能の中樞は大脳旧皮質にその座があり、大脳新皮質によってコントロールされ得るものという。らくがきには適当にスリルもあって楽しい。この快楽を求めるのは本能である。しかし、自分が満足しても、その過程や結果に於いて他人に迷惑をかけ、他人を不快に陥し入れることが分っておれば、自分の欲するところを押えようとする。その心を生ずるのが大脳新皮質である。この新皮質の発達の際は、人格の如何と関係が深い、その新皮質を発達させるにはやはりそれ相当の教育が必要である。

(2) らくがきしても良い場所を提供する。

上述のように、ヒトは多かれ少なかれらくがきをしたくなる動物である。従って時にはその欲望をかなえさせることも必要になる。社寺等に於いて、ノートを用意し、参拝者に記名させている所があるが、これなど単にどんな参拝者があったかを知るだけでなく、らくがき防止にも一役かっているのではないかと思う。

(3) らくがきされ易い所は、らくがきされ難いように工夫する。

これは物理的にらくがきを防止しようというものである。東大寺回廊の白壁にビニール塗料が用いられていてらくがきがしにくくなっているのはその一例である。本校でも第11図でみたように、地学教室でらくがきが少ないのは、一つはその机の色がこげ茶色であり、鉛筆でかいても見ばえがしないことが一因となっているのではないかと思う。

(4) 規則でしぼる。(らくがき禁止令をだす)

これは最も味気ない方法だと思うが、しかし普通にらくがき防止を意図する時には、最もとられ易い方法といえる。

6 終りにあたって

以上、らくがきについてとりとめのないことを述べてきた。最初は面白半分始めた調査であったが、仕事をして行くうちに、らくがき調査の無意味でないことが分ってきた。この調査の途中で採り入れたペーパーらくがき法は、次のような利点をもっているので、今後も折りをみて適用してみたいと思っている。

- (1) 生徒達はその時点でどんな事に興味を感じているか知ることができる。
- (2) 面と向っては云えないで抑圧している事柄が表面にでてくる。
- (3) 欲求不満の解消に役立つ。
- (4) 青年心理学を研究する上での資料が得られる。

やり残したことも多い。全学年にわたってペーパーらくがき法を適用しなかったのもその一つであり、他校の状況を調査しなかったのもその一つである。またの折りを期したい。

アメリカにおける Summer Institute に学んで

— 教員研修の実態報告 —

森 井 実

はじめに

1968年、全米科学財団(N.S.F)の招きを受け、カリフォルニアの州立大学における Summer Institute⁽¹⁾に出席し、さらにコロラド大学B.S.C.S本部において新カリキュラムを研修する機会を得たので、N.S.Fによる教員研修制度やその内容について報告する。

1 Summer Institute の制度について

1968年6月15日、筆者の出席した Humboldt State College における Institute の開講式で、director の Dr.Lamphare より「The purpose of the Institute is to improve subject-matter competence, to stimulate interest in recent developments and to suggest usefull classroom and laboratory techniques. The courses offered are basic in character and specifically geared for the needs of teachers. The credits earned are applicable to a Master of Arts Degree either in Biology or Education.」と説明されたが、これからも Institute の目的を十分にうかがい知ることができよう。つまり、科学の進歩に対応した適切な指導がなされるための教員の研修であり、同時にマスター⁽²⁾を獲得できる道を開き、教員の抜本的再教育を目標とするものと理解できよう。この制度は、10数年前ソ連とのミサイルギャブに端を発した理数科のカリキュラムの改訂、それによって出現した B.S.C.S など米国全土に見られる教育の現代化の動きと一連のものであって、教育の現代化を方法論のレベルで論じても、また優秀な教科書を編集してみても、それを教える教師の側に現代化がなければ効果がないとの信念に支えられた制度であるといえよう。

講座に必要な費用は N.S.Fによって支出されているが、興味深いことは、受講者に対しても交通費、生活費、家族手当などを含め8週間で約1,000ドルの奨学金を支給されていることである。講座は単位制(Master degreeに通ずるものであるから)で、N.S.Fによって厳選された優秀な大学教授が、Institute の staff となり、受講者に対してその staff 独自のプランにもとづいてテスト・レポート⁽³⁾などを課しながらそれぞれのマスターコースを履修させている。

各 staff は与えられた単位時間を一杯に使いながら8週間で指導するのであるが、staff が真剣にならざるを得ない理由があった。それはあとでわかったのであるが、全講座修了後、受講者にN.S.Fからアンケートが回ってきて、各 staff の評価をさせていることである。指導力、学識、講座内容等について20項目にわたり調査され、もし悪い評定が出れば、次年度の staff 依頼が中止されることになっている。勿論、受講者に対しても指導者から評定⁽⁴⁾が行なわれるが、ここにもアメリカの合理性が感じられた。

受講者の側に立ってこの制度を考えてみると、これほど意義の深い講座はないように思える。それは、現場の教師が1年に1回、職場を離れ大学において自然科学そのものに触れられることであろう。日本でもいろいろな講習会が開かれているが、短期間であり多くの場合教育技術を伝達する講座である。小手先の教育法、教育技術の修得よりも教師を科学者の立場にたたせることによるのみ、真の科学教育の現代化があり得るとする姿勢は学ぶべきであろう。

N.S.F. では毎年の夏休みを利用し、各大学、研究所を当講座のために開放して、昨年は生物学関係だけでも62の大学が Summer Institute を分担していた。各大学は2~5の講座を用意しているので、受講者はマスター取得の関係から、必要とする講座をさがし、それ取得するため全州から集まることになる。筆者の参加した Humboldt State College でも、Colorado, New York, Indiana, Minnesota, Arizona など25州から50名の先生方が出席し、外国からは筆者一人であった。さて、ここで外国からの受講者について簡単に説明しておこう。N.S.F. では米国の理数科教員のために上述のような Institute を設けているが、同時に自由圏諸国から1~数名の教員、指導主事を招待している。日本からは物理・化学・生物・地学・教I・教IIの教科から合計4~5名招待されているようである。もちろん外国からの招待者についても旅費、奨学金を全額支給し、希望する大学に出席できるようにしている。日本からの参加決定は文部省・アジア財団がテストによって行ない、決定者についての渡航、留学に必要な手続きはアジア財団が担当してくれる。最近では参加決定について一つのルールが設けられた。それはまずハワイ大学夏期講座⁽⁵⁾に出席させ、その中から米本土の Institute に参加する者を選抜する方法である。ハワイ大学⁽⁵⁾夏期講座は一般公募であり、理数科教員であれば誰でも受験することができる。ただいずれの講座も単位認定制であるため、招待者も他の一般受講者と同様にテスト・レポートなどの評価を受けなければならないため十分な語学力が要求される。

2 講座内容について

筆者の出席した大学では Modern Biology, Botany, Chemistry, Education, Invertebrate Zoology の5講座があって、このうち2講座が必修であった。1講座5単位で1日4時間単位で5日間続く形式である。

筆者はまず B.S.C.S の New Blue Version をとりあげる Education の講座を選択し、他の一つは講座の組合わせから Invertebrate Zoology を選ぶことになった。各講座は10~20名の受講者で構成されていたが、筆者と共通の二科目を選択した先生が数名いて、文字通り朝8時から午後5時まで一緒に勉強するクラスメートとなった。

⑦ Invertebrate Zoology の講座について

Robert D. Barnes の Invertebrate Zoology というテキストを使い Dr. Dimatini が指導された。先生は講座内容を Phylogeny and classification of higher categories with local species, representative of each group; morphological and physiological adaptation; methods and techniques of collecting, preserving, displaying and rearing with special emphasis on classroom application to teach. と説明され、実に綿密な計画のもとに、海綿動物から棘皮動物までの学習がすすめられた。Dr. Dimatini は分類学を分類学としてではなく、発生学と適応現象を中心に系統分類に重点を置かれ、しかも field trip, 顕微鏡観察等を加え

られ、内容の豊かな講座にされた。講義にはオーバーヘッドプロジェクター、顕微鏡投影機を使用され、たえず受講者に質問を投げかけながら毎日4時間、ノートなしに講義されたのには驚かされた。受講者も熱心で、たとえば早朝4時からの臨海実習には1分の遅刻者もなく全員参加したし、なかにはテープレコーダーで講義内容を録音している受講者もあった。

太平洋に面した Humboldt 湾は、磯、砂浜、泥地などに恵まれ生物相も豊富であった。この湾では大型の動物が多く、ヒマワリヒトデ (30 cm 大)、イソギンチャク (直径 10 cm) の大きいものには驚かされた。受講者は採集物を乾燥標本、液浸標本にして自分の学校に持ち帰っていた。筆者もヒマワリヒトデ、ヒトデ、ツメタガイ、大型のマツカサなどを日本に持ち帰ることができ、目下指導の際の教材として有効に利用している。Dr. Dimatini の講座内容を示すものとして、講座中に課せられた test question を紹介しておく。

[1回目]

1. Diagram and label the 3 morphological grades of sponges. What relationships exist between grade and size? What is the nature of sponge skeletons?
2. Diagram, label and compare the morphology of the polyp and the medusa of the Hydrozoa. Scyphozoan medusa and anthozoan polyps exceed in size. The respective forms of the Hydrozoa. What characteristics of the former are associated with larger size?
3. Diagram, label and discuss the life-stages of a dimorphic hydrozoan. The life cycle of Hydra is direct and simpler than those of most cnidarians. Is simplicity necessarily primitive in this instance? Explain.
4. Mesoderm occurs in the Platyhelminthes. What function are associated with this germ layer?
5. What relationships exist between size, body form and gut morphology in turbellarians?
6. Compare protonephridia and metanephridia.
7. Diagram, label and compare cross-sections of an acoelomate and a pseudocoelomate. What is a pseudocoelom? Discuss some of the general features of the Aschelminthes.
8. Diagram and label a cross-section of a polychaete.
9. What characteristics of annelid body walls, segments, prostomia and foreguts are considered primitive.
10. Compare the feeding mechanisms of arenicolid, nereid, terebellid and sabellid polychaetes.
11. Briefly discuss some of the specializations of polychaete body walls associated with different ways of life.
12. What are some of the specializations of oligochaetes which have allowed them to live in soil?
13. Diagram and discuss spiral cleavage and cell lineage. Starting with

a trochophore show how the coelon, segments, prostomium and nervous system form.

{ 2回目 }

1. Diagram, label and compare a cross-section of an annelid with that of an arthropod.
2. Compare locomotion of primitive annelids and arthropods.
3. Compare the coelon of annelids and arthropods.
4. Write a discussion involving the following terms; nauplius, megalops, banacle, cirriped, crab, malacostran, zoea, and cypris.
5. Diagram and label the archimollusc.
6. In what ways does the abalone *Haliotis*, resemble the archimollusc? How does it differ?
7. What specializations of the slug *Ariolimax*, confer adaptation for terrestrial living?
8. Compare the feeding and respiratory mechanisms of protobranch and eulamellibranch bivalves.
9. Briefly discuss the life history of an indirect molluscan life-cycle.
10. Compare the conservative features of protostomes and deuterostomes.
11. Diagram, label and discuss the development of an asteroid echinoderm from the zygote through the juvenile stage.
12. Compare the digestive and respiratory systems of echinoids, asteroids, holothuroids and ophiuroids. Compare their tube feet.
13. Give a plausible explanation for the lack of echinoderms in freshwater.

test は 2 回あり、6 枚の解答用紙が配布され、その表と裏を使って上記の問題を 4 時間かけて解答しなければならなかった。受講者はいずれも 6 枚の紙で足りず、自分の持っている紙を追加して、時間いっぱい使って熱心に問題にとり組んでいた。筆者にとっては、解答に際して生物名を三種類頭の中で整理（たとえば、カイロウドウケツ（和名）、*Venus/s-flower-basket*（英名）、そして *Euplectella*（学名））しなければならず、まさに全力投球を余儀なくさせられた。上記の question のうち、1 回目の(2)は体構造と種の大きさの相関、(3)は進化の概念、(10)は食性と構造、2 回目の(2)は種と運動形式の相関、(7)は軟体動物の適応、(11)は発生学と分類学、(13)は浸透圧調節と動物分布などの問題は注目に値する良問であろう。

受講者は講座を通じて最近の科学的知識を身につけるとともに、科学の方法も自然に体得しているようである。たとえば、週末には各自が全く自発的に野外観察や、採集に出かけていた。受講者の多くは、双眼鏡、携帯顕微鏡、採集用具を車に積みこんでいたし、採集生物をパンチカードで分類整理をしていた。野鳥の観察を熱心にやっていた Mr. Sarber にか研究しているのか、何に最も興味を持っているのかと質問すると、「教育だ！」という返事があったのには感心させられた。日本の場合、専門分野の研究に従事するといつものまにか教育面の興味、関心が研究

面に移ってしまうことが多いのと比較してみたとき、筆者には心に響くものを感じさせられた。今後、研究と教育の問題はわれわれにとって重要な課題となってくるであろう。

① Education の講座について

新しく編集しなおされた B.S.C.S の New Blue Version をテキストとして学習することになった。担当者の Mr. Guy は B.S.C.S の consultant⁽⁸⁾ であり、科学史に深い学識をもっておられた。したがってこの講座では、科学史を中心として、生物の機能、たとえば光合成の mechanism を明かにする方法をとられた。実験上の事実認識、明反応と暗反応の仮説、Isotope を使ったの証明など、fact と idea の相関をとらえながら、見事に講座を展開された。

科学教育の現代化は、結果だけを教えるのではなく、結果にいたる過程、科学の方法を身につけさせることにある。したがって科学史のあとをたどるのも自然科学教育の方法であり、すべて実験・観察が必要とするのではないと考えれば、Mr. Guy の講義も一つの方向であるといえよう。

この講座では実験・講義の間をぬって随分といろいろな問題が discussion された。時には受講者の意識調査へと発展することもあった。次の調査は受講者が、生物教育における基本概念に対して、どのような weight の置き方をしているかを示したものである。

[調査1]

Report to class on areas to be emphasized. In weighting the responses, a value of +6 was given to I, +4 to II, +2 to III, and -1 for X(mild exclusion), -2 for Y, and -3 for Z(strong exclusion).

- +46 Heredity (+50 -4)
- 44 Chemical Energy for Life (+44 -0)
- 40 DNA and RNA (+46 -6)
- +36 Evolution (+40 -4)
- 36 Photosynthesis, greater emphasis on Chem. (+36 -0)
- 36 Cell Theory (+36 -0)
- 31 Fermentation and Respiration (+36 -5)
- +23 Origin of Life (+32 -9)
- 22 Development (+36 -14)
- 20 Reproduction (+30 -10)
- +17 Photosynthesis, general (+18 -1)
- 14 Evolution of Man (+26 -12)
- 14 Multicellular Organism (+18 -4)
- 12 Biological Roots of Behavior (+24 -12)
- +10 Ecology (+26 -16)
- 00 Anatomy and Physiology (+20 -20)
- 11 Classification (+4 -15)

表からわかるように、アメリカ高校生物教員は、生物学習を化学的な扱いをしながら遺伝・呼吸・エネルギー収支を強調して教えるべきだと考えていることがはっきり示されている。

ところが、その趣旨にそって編集されている Blue Version を実際に使っているかどうかを調査してみると、次の結果になったのには驚かされた。

〔調査2〕

使用教科書について	
Traditional text book	6人
B.S.C.S	(9)
Yellow Version	9
Green	5
Blue	2
Special Material	4
計	26人

先生の多くは、Blue Version を教えたいが教えられないのが現状のようである。教科書内容が生徒の学力を越えていることが理由の一つであろう。たとえば、テキスト中の ATP に関する説明文に、ダムと送電線がかかれ、送電線の中を ATP が移動する模式図があるが、それを見た生徒達が、「ATP はフーバーダムから来るのだ」と信じてしまっている。このような生徒にどうして B.S.C.S を教えられるかと嘆いていたクラスメートがあったことから推測できる。

ところで米国の高校での理科の学習形態は、学校によって違っているが、Arcata の高校では9年次で General science と Earth science、10年次で Biology、11年次で Biology II または Chemistory の選択、12年次で Physics を学習するカリキュラムがたてられていた。11年次の選択では Biology II を選ぶ生徒が多く、このコースでは B.S.C.S の発展教材を使用しているとのことであった。

また、先生方の担当時間は非常に多く、Mckinleyvill High School の Mr. Welsh は週20時間も担当していた。5日制で1日6時間授業であるが、毎日4時間も授業を持ち準備の時間は2時間しかなく、忙しい日々だとこぼしていた。しかし、カウンセラー制度があって担任としての仕事も少なく、1学級25～30名である点は、ずっと我々より恵まれているといえよう。筆者の持時間が17時間で担当学年は中2、高1、高3の3学年で1学級50名だと説明すると、そんな理科教育があり得るかと思議がられた。

New Blue Version については、別の機会に十分な検討のちに報告したい。

3 講座中の生活について

Humboldt State College は San Francisco の北 290 マイルの地 Arcata (Eureka⁽¹⁰⁾ の近く) にあって、reed wood の茂る海岸山脈を背にし、太平洋に面して建っている理科系の小さな大学である。朝夕深い霧が立ち、日中の気温も70Fを越えることがない涼しい土地であった。⁽¹¹⁾

参加者はそれぞれ奨学金をもらってはいたが、生活の方法は大学内の dormitory に宿泊する者、共同でアパートを借りて自炊生活する者、家族同伴でアパートや借家をかりて生活する者など三つに類別することができた。第1のタイプは、その年のうちにマスターを修得しようとする先生達で、最終面接試験のため毎日ガリ勉する連中であつた。第2のタイプは儉約型で食事也十分にとらず奨学金をどうして貯めようかと苦心する連中であり、共同生活をエンジョイするタイプといえよう。第3のタイプは家族同伴で旅行・見学をかねて参加しているタイプであろう。筆者は N.S.F. の指示どおり dormitory に残ったが、dormitory では1人1部屋で、生活や学習に必要な物は全部そろっており、さらに共通して使える study room, recreation room, lounge,

laundry facilities などの設備、1日中使えるシャワー室があり、部屋は各自の好みで温度調節ができ快適であった。食事は大学構内の cafeteria で meal ticket (定期券のようなもの) を使用してとることになっていた。meal ticket 制は便利で、好きな食物を好きなだけとってカウンターでチェックしてもらう形式である。したがって、各自が自由に食事の種類や量をきめることができ、食生活の面での不安がなかったのは幸運であった。

講座中には大学主催の party が何回か計画された。Barbeque party, Salmon bake party など野外のピクニック場で行なわれることが多かった。会の開催には volunteer が募集され、用意、片付け、盛りつけ、清掃などのグループに分かれ、全員が何かを分担して会を運営する仕組みになっていた。野外 party には家族同伴が原則で、staff 連中も夫人や子供を同伴してやってくる。ここでは講座中と違って師弟の関係はなく、子供も女性も、また受講者も会食を中心とした party を楽しんでいた。

生物教員ばかりであるので、自然といろいろな動植物の話題に発展することが多かったが、夫人達も堂々と話し合いの中にはいりこんでいるのには感心させられた。また、出席者の服装は気楽な普段着のまま、女性の多くはジーパン姿である。われわれの P T A の会合もこのようにありたいものと思った。

また、毎週金曜日の午後には general meeting があって、大学の教授達が各自の専門領域についてスライドや映画を使って受講者に講演された。講演の中には日本の捕鯨船に乗って南氷洋に出かけ、鯨の生態を観察された成果を発表された教授がおられたのには驚かされた。ただ講演を聞きとるのは講義と違ったむずかしさがあり、十分理解できないことが多かったのは残念であった。

受講者ばかりで野球・テニスの対抗戦をやったり、大学内の温水プールで水泳大会を開くこともあって、講義の疲れを十分にいやしてくれたし、文字通り学生気分にあたることができた。

4 高校を訪問して

Institute が大学で行なわれたこと、近くの高校が夏休み中であったことなどから、実際の高校の授業風景を見学する機会はなかった。しかし、講座修了後、Nevada, Utah, Colorado, New Mexico, Arizona の各州を視察した際、Institute で一緒だった先生方の高校を訪問し、施設・設備を参観する機会を得たので、感じた点を参考までに報告する。まず、州によって施設・設備に大きな差があることである。一般に California はよく、Colorado ではあまりよくなかったように思う。これは先生方のサラリーでも同じことが云えるようで、California で年俸 12,000 ドルだと Colorado では 7~8,000 ドルと落ちるそうである。

San Diego にある Castle Park High School は設備の良い学校で、1人1台の割で顕微鏡が用意されていたし、海産動物水槽が教室の片側に水族館のように配置されていた。しかし、学校設備も先生次第で、熱心にやれば何とか予算もつけてくれると、まるでどこかの国と同じようなことを話していた。

Colorado の La Jara High School の先生の話では、各学校に校長の他 superintendent⁽¹²⁾ が常勤していて、経費面の実権を握っていると。また、superintendent が教育にあまり理解のない行政屋の場合、困ってしまうことがあると説明していた。しかし、スクールバスが数台あって、生徒の通学に使われると同時に野外視察、クラブの対抗試合にも利用できることや、クラブ

の顧問をすると年間 3,000 ドルの手当がつくなど恵まれている面もあるようである。New Mexico を訪ねたとき、友人が今夜はアメリカンフットボールの選手を招集して、シーズン前の諸注意をするから一緒に行こうとってくれたので、彼の学校まで同伴した。彼は選手達に試合日程を説明したあと、健康診断を受けさせていたが、これが日本と違って、生徒が各自医者のところへ行って診察料を支払い、証明書を作成してもらう方法をとっていた。生徒は紳真で「先生、今お金がないので今夜の検診は受けられません」と断っていたが、先生の方はドライで「よし、アルバイトで稼げ」にはびっくりさせられた。

Colorado や San Diego で高等学校のアルバムを見せてもらったが、写真の中には、各教科の authority がそれぞれ 1 ページずつもらっていた。authority といっても先生のことではなく、各教科の優等生のことである。また、年に 1 回 school festival が開かれるが、その際、Mr. or Miss Festival が選出され、festival 中の idol となると共に、選出されると大学への奨学金が支給されるとも聞いた。⁽¹³⁾ アメリカでは日本よりも想像以上に学校教育賞がさかんであるといえよう。

また、小学校のアルバムを見ると、毎年同じ学年には、同じ先生の写真があったが、聞いてみると学年専門制になっているのである。日本では教科専門制がとられつつあるが、低学年では学年専門制も一つの方法ではなからうか。

さて、理科室は一つの教室内に講義のコーナー、実験のコーナーとがある学校が多く、設備のよい学校では、実験台には水道・ガス・温水道、さらに海水の出る水道まであった。このようなコーナー制は 20～30 人の学級ではじめて可能であり、日本の場合は実際上無理であろう。実験台の上には、沢山の paper towel が用意されていた。Institute の場合にも経験したことであるが、アメリカの実験室では実によく paper towel が使用される。スライドガラスでも、シャーレでも水洗後かならずこれで拭き、paper towel はその都度捨てるのである。ガーゼや雑布を使うよりも清潔であり、安くつく。また、小型水槽・小型バットの底には黒い合成樹脂がひきつめてあって、観察生物を昆虫ピンで固定したり、解剖顕微鏡で観察するのにも便利になっていた。

多くの学校では生物教室の横に green house があって、トマト、タバコ、カラーなど実験材料が栽培されていたし、小動物のゲージをならべたマウス、ヒナなどの飼育室も⁽¹⁴⁾⁽¹⁵⁾あった。green house や飼育室の管理は、実験室の管理とともに生徒の中から選ばれた助手が担当していた。⁽¹⁶⁾ 助手は無給ではあるが、学業成績とともに記録され、就職のときの有利な条件になっているそうである。学校制度、施設、設備、生徒の実態等については、別の機会に報告することにしたい。

6 おわりに

以上、Summer Institute の概略を報告したが、筆者の経験はごく一部であり Institute の全てではないことを断っておきたい。しかし、Institute のノートやテキスト、その他の研究物を整理しながら、大変だったことを思い出すとともに、今回の出張が単なる教育視察でなく、国は違っても同じ高校の先生方と、実験・採集など行動を共にし、テスト、レポートなどに共通の苦しみを感じながら米国の教員研修の実際に触れることができたのはなによりだったと思う。とくに意義深いことは、合宿生活にも近い Institute によって、彼等の考え方、生活の内面にも触れることができたことであろう。明日のテストを前にし、膨大な学習内容をなんとか消化しようと努力している夜半、「何かわからないことはないか」と試験準備に忙しい中をわざわざ車をのりつ

け、筆者の dormitory に寄ってくれた友人の親切は忘れられないものとなっている。また、テストの終わった日の夜、restaurant にでかけ pizza をつまみあいながら黒人問題、ベトナム問題、日本の人口問題など話し合っていると、20数年前の日米間の関係が嘘のようであり、そこには人種をこえた人間性の触れ合いだけが存在していたように思う。N.S.F の Institute にはこのような側面もあり高く評価されてよい。

日本でも近く中学・高校のカリキュラム改訂が予定され、いよいよ現代化をすすめる時期が近づいているが、この際、教員の研修についても根本的な対策をたてるべきであろう。いかに立派なカリキュラムができて、教師のフィロソフィーを育てることなしに、真の現代化はあり得ないと考えるからである。短期間の教育技術・実験技術・伝達のための講習会ではなく、教員の研究意欲が向上するよう大学・研究所を利用した魅力的な講座であり、受講者の経済的負担なしのしかもその受講によって将来の資格・給与にも影響するような研修制度を考えるべきであろう。

最後に、この Institute 出席に際し、いろいろご指導下さった 横浜国立大学関利一郎教授、東京教育大付属高校吉野孝一先生に、また長期間の出張を心よく許して下さいました奈良女子大学付属中高校の先生方、手続き、滞米中の諸連絡を引き受けて下さったアジア財団の各位に心から厚く御礼申し上げます。

[注]

- (1) National Science Foundation
- (2) 50単位が必要。1回のInstituteで8～10単位修得できるので、5～6回の出席が必要。
- (3) 担当大学以外の大学、研究所からも講師が派遣されてくる。
- (4) A,B,C,D,Fの5段階評定、Fは不合格である。
- (5) 調布市のアメリカンハイスクールが会場となっている。
- (6) ホルマリン等で固定したのち、乾燥器で乾燥させる。
- (7) Digger Pine (学名 Pinus sabiniana)
- (8) 単元構成が若干変更されていること、実験が本文中に組み込まれた(56題)こと。
本文中の実験のほか supplementary investigation (20題)を巻末に入れていることなどが目立っている。
- (9) 北緯41°西経123°の位置にある。
- (10) B.S.C.S出版前の教科書。たとえば、Holt社のModern Biologyなどで、日本の教科書に近いもの。
- (11) CaliforniaからOregonにかけて生育するセコイアの仲間、樹令5,000年の大木もある。
- (12) 各教育委員会から配属されて学校に勤務する監督官。
- (13) 主として教官が代表を決定する。
- (14),(15),(16)遺伝、ホルモン研究に利用されている。

ハーディの小説における人間像(1)

— The Return of the Native の Diggory Venn —

林 達 男

は じ め に

「帰郷」に登場する人物の中では、まず、クリム・ヨーブライト Clym Yeobright やニューステアシア・ヴァイ Eustacia Vye を挙げるのが妥当であろうが、今回はディッゴリイ・ヴェンを取りあげてみたい。彼もまたこの小説で重要な役割を演じており、ハーディの描く人間の一つの典型と見られるからである。

1

ヴェンがこの作品の中で、はじめて姿を見せるのは、あの有名な冒頭のエグドン・ヒース Egdon Heath を描写した章、「時の刻印も残らぬ野面」 A Face on which Time makes but Little Impression に続く「人の子この場に現わる、苦悩と手をたずさえて」 Humanity appears upon the Scene, Hand in Hand with Trouble においてである。ハーディは開巻第一章の終りの部分で、「年を経た一すじの街道は、荒野の低地を横切って、地平線から地平線へと走っていた」と書いた。(それは藤村の「夜明け前」の冒頭の「一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いていた。」を思わせるのだが) ヴェンは、つりゆく荒野の夕闇の中で、この街道の、はるか前方の一点として登場する。この一点は、あとから追いつく一人の老人(じつはニューステアシアの祖父)によって、スプリング付きの幌馬車であり、その馭者がヴェンであることが判明するのだが、つぎのように描かれている。

When he drew nearer he perceived it to be a spring van, ordinary in shape, but singular in colour, this being a lurid red. The driver walked beside it; and, like his van, he was completely red. One dye of that tincture covered his clothes, the cap upon his head, his boots, his face, and his hands. He was not temporarily overlaid with the colour: it permeated him. 1)

もっと近づいてみると、それはスプリング付きの幌馬車であることがわかった。型は普通だが、奇妙な色で塗られていた。ぎょっとするほどの朱色なのである。馭者は車に乗らずに、側に添うて歩いているが、これまた馬車同様、全身緋色づくめだ。この一色の染料が、彼の衣服を、頭上の帽子を、顔を、手を、長靴を、すっぽり包んでいる。一時的に塗られた色ではなく、体にしみこんでいる色であった。(以下訳文は大沢衛訳「帰郷」による。)

何とも異様な、全身真っ赤な男、それがヴェンなのである。この彼が、エグドン荒野に「赤鬼」のごとく神出鬼没することになるのであるが、この彼の赤さは、彼の職業と関係がある。すなわち、農夫が羊の毛を染めるのに使う染粉を売って歩く商人、——紅殻屋なのである。

つぎにハーディはヴェンの容姿を次の如く描く。

He was young, and his face, if not exactly handsome, approached so near to handsome that nobody would have contradicted an assertion that it really was so in its natural colour. His eye, which glared so strangely through his stain, was in itself attractive—keen as that of a bird of prey, and blue as autumn mist. He had neither whisker nor moustache, which allowed the soft curves of the lower part of his face to be apparent. His lips were thin, and though, as it seemed, compressed by thought, there was a pleasant twitch at their corners now and then. He was clothed throughout in a tight-fitting suit of corduroy, excellent in quality, not much worn, and well-chosen for its purpose; but deprived of its original colour by his trade. It showed to advantage the good shape of his figure. A certain well-to-do air about the man suggested that he was not poor for his degree. The natural query of an observer would have been, Why such a promising being as this have hidden his prepossessing exterior by adopting that singular occupation?²⁾

まだ若い男であった。顔は、美男とまではいかなくとも、それに近く、色さえ普通だったら、たしかに美男と定めても差支えあるまいと思われた。目は、そういう滲みついた色の間から奇妙にぎらぎら光りはするけれども、もともと魅力のある目で、猛禽の目のように鋭く、秋の霧のように背かった。頬にも口にも髭ないので、顔の下半分の柔かな線があらわに見える。唇は肉がうすくて、考えごとをしているために引き締まっているようにも思われたが、口角はときどき嬉しそうにびくびく動いた。彼は、品質のよい、あまり着古るされてもいない、ぴったりと身に合った、仕事着としては恰好の、しかし、職業柄もとの地色の見えなくなった、コール天服を着こんでいた。この服装は、性来姿のいい彼を、ひとしおいい恰好に見せた。何かしら裕福そうなこうした様子は、彼が身分ほどには貧しくないことを匂わせる。これを実地に見た人なら、つい、次のようにたずねたことであろう、— こんな末たのもしい男が、何用あって、人好きのする外貌を隠してまで、あの風変りな職業に入りこんだのか、と 一。

まず顔全体の印象をのべ、目から顔の細部にわたって描写し、最後に彼の着ているものについて述べ、暮しぶりを暗示する。

一体、ハーディの人物の描写は克明な写実の上に立っている。しかし、それは、ただ、写実に終るのでなく、たとえば「猛禽の目のように鋭く」とか「秋の霧のように青い」といった simile に見られるごとく、詩的なイメージに彩られ、印象深く、読者の心に焼きつけられる。また、人物の内面的世界の表白としても画かれる。その全部がユウステーシアの描写にあてられている第一篇七章、第二篇六章および第三篇一章のクリムの描写、あるいはまた、トマソン Thomasin のそれらにハーディの人物描写の手法を窺う好例が見出せるが、ここでは一応ヴェンに限っておきたい。

さて、ハーディは、ヴェンの容姿を描き、最後に一つの質問を提示し、ヴェンを謎めいた人物として読者に印象づけている。彼の父は酪農場主 dairyman であった。(p.40) また、彼は24才 (p.99) として登場するのであるが、こんな「末たのもしい男」が何故紅殻屋になったのか。ハーディが「メフィストフェレス的な旅商人」と呼ぶ紅殻屋は、朱に染まったその形相ゆえに、「紅殻屋

が迎えに来るぞ！」という言葉は、何代にも亘ってウェセックス地方の母親が使うおどし文句になっていた。原料を堀り出す坑への周期的な旅とか、真冬を除けば、来る月も来る月もテントに明けてテントに暮れる野宿とか、百を以て数えられるあまたの農場の間の遍歴行商とかを意味するこの商売は、このアラビア土人風な流浪生活の故に、彼を孤立化させがちであり、そしてまた彼の姿を見かける時は大抵一人ぼっちであった。(第一篇 九)

そしてヴェンについて、

A keen observer might have been inclined to think——which was, indeed, partly the truth——that he had relinquished his proper station in life for want of interest in it.³⁾

鋭い観察者ならとかく、次のように考えたかも知れない——そしてそれが実際、真相に迫っていたのであるが——彼はこの世に興味を失ったので、人生でのそれ相当な地位を振り捨てたものだと——。

ヴェンは何故人生に対する興味を失ったのか。彼の紅殻屋への転身の理由を解く鍵はここにあるわけである。

結婚許可証の不備のため、ワイルディーヴとの式があげられず、ショックを受け、一人帰るトマシンに出会い、自分の馬車に乗せ、無事ヨーブライト夫人に送りとどけた日の夜、ジョンニー少年の口から、ワイルディーヴがユウスターシアとあひびきをした模様を聞き、少年が立ち去った後で、幌の中で、ほぼ二年前の日付けで、「トマシン・ヨーブライト」と署名のある古い手紙を読むのである。このトマシンの手紙は、ヴェンとトマシンの関係を示すものとして、またヴェンの愛の対象としてのトマシンの人柄や心遣いを表わすものとして、重要な意味を持つものと考えられる。

ここで、その手紙の全文を引用するには少し長いので、その一部にとどめたい。もとは白紙の上に認められたものであったが、商売柄手紙はもう桃色に変っている。黒い文字の跡も、朱ら引く日没を背にした冬の生け垣の細枝みたくに見える。そして、ここで、ヴェンが紅殻屋になる前は、酪農主であったことが宛名からわかるのである。

Dear Diggory Venn,——The question you put when you overtook me coming home from Pond-close gave me such a surprise that I am afraid I did not make you exactly understand what I meant.——I cannot, Diggory, marry you, or think of letting you call me your sweetheart.——There are so many reasons why we cannot be married that I can hardly name them all in a letter.——The great reason with my own personal self for not letting you court me is, that I do not feel the things a woman ought to feel who consents to walk with you with the meaning of being your wife.——Another reason is my aunt. She likes you very well, but she will want me to look a little higher than a small dairy-farmer, and marry a professional man.——Thomasin Yeobright

To Mr. Venn, Dairy-farmer.⁴⁾

ディッゴリー・ヴェン様。ポンド開墾地から帰る途中、わたしに追いついてお尋ねになりましたあのことは、あんまり突飛なのでびっくりしてしまい、わたしの意向を間違いなくお伝えできなかったのではないかと心配しております。(中略)ディッゴリー様、わたしはあなたと結婚はできません。また恋人と呼んでい

ただくわけにも参りません。(中略)結婚できないというのも、いろいろわけのあることで、一つ一つ手紙に書くわけにはいきません。(中略)求婚していただきたくないと感じるわたし個人の大きな理由を申し上げると、あなたの妻になるつもりで御交際することに同意する女として、当然感ずる筈の気持を、わたしがちっとも感じないからでございます。(中略)もう一つの理由は伯母さんです。伯母はあなたがとても好きなのですが、わたしにもっと高いところに目をつけて、酪農主でない俸給とりに嫁いで貰いたいと言っています。(後略)

トマシンのヨープライト

酪農主ヴェン様 御許へ

要するに好きではあるが愛の対称としては考えられないという彼女自身の気持と伯母の意向からヴェンのプロポーズを受け入れられないというわけである。それ以来、ヴェンは彼女の前から姿を消し、紅殻屋となった。その間の事情についてハーディは次のように書いている。

Rejected suitors take to roaming as naturally as unhived bees; and the business to which he had cynically devoted himself was in many ways congenial to Venn. But his wanderings, by mere stress of old emotions, had frequently taken an Egdon direction, though he never intruded upon her who attracted him thither. To be in Thomasin's heath, and near her, yet unseen, was the one ewe-lamb of pleasure left to him. 5)

失恋した求婚者は、自然、飼箱を奪われた蜜蜂のように漂泊する。しかも、拗着心にふと打ちこんだこの商売は、多くの点で、ヴェンの性になっていた。とは言え、その漂泊も、ただ昔恋しさのあまり、いつとはなしにエグドンの方角をさすことが多かった。心惹かれるトマシンの敷居をまたぐことこそしなかったが、トマシンの野原におり、かの女のそば近くにおり、しかも見つからずにおること、——これこそは彼に残された楽しみの「ただ一つの牝羊仔」であった。

ただ一度の求婚が受け入れられなかったということが、かれをして、このような放浪生活にみちびいたのである。しかも、それ以後、ただ一度も、彼女の敷居をまたごうともせず、しかし、彼女の近くにいる。こういった彼の態度については、あとで、述べることになるが、「帰郷」の他の人物たちと比較し、彼の際立った特徴となっている。

なおハーディ文学の核心を、「ふるさと」の問題とし、ハーディの小説は、この「ふるさと」との帰一に成功するか、あるいは、いかに失敗し、横道にそれていったか、を終始本題としているとする藤田繁氏の最近の研究は極めて注目すべきものである。6)

氏の説によれば、ヴェンは失敗者であり、このタイプの特徴として、二重の意味での故郷喪失、すなわち、愛する人という、プラトニックな意味のふるさと、そして、おのれの生地という場所のふるさとの喪失とし、ハーディの諸作から、このタイプの間人を指摘し、さらに、ふるさとを去った者たちがかならずとっていいほど、ふるさとに長い期間をおいて帰ってくることをあげておられる。

さて、ヴェンは、たまたまおこった今日の出来事から、彼女のために一肌脱ごうと決意する。すなわち、彼女が自分で選んだ道、ワイルディーヴとの結婚、で仕合わせになれるように助けてやる

と決心する。それは辛いことだが、彼の愛は寛かったのである。 the reddleman's love was generous. (p. 93) この寛容と自己犠牲が彼の愛の本質をなすものである。この問題について考える前に、ここで、その後のヴェンの行動について簡単にたどっておこう。

さて、このようにトマソンに対しては極めて消極的な彼が、ひとたび彼女のために行動に移すや、極めて行動力を見せるのである。心の奥深い核に強い愛を秘めているが故であろうか。まさに神出鬼没という表現があたるぐらい、荒野をかけめぐり、トマソンのため活躍する。

トマソンの利害を見まもって行こうとする積極行動の第一歩は、翌晩の七時ごろ踏み出される。彼はユウステーションがトマソンの幸福を妨害しているものと考え、砂利堀坑の上縁に生えている柵のやぶかげで、ユウステーションとワイルディーヴの逢引きを見張るのであるが、毎夜失敗の連続で、やっと一週間目になって成功する。まさに忍耐そのものである。(第一篇九章) しかも、翌朝、ユウステーションの家を訪れ、前夜のことを明かして、ワイルディーヴを思い切るよう頼んで彼女を怒らせてしまうのである。(十章) そして、失敗して帰る途中で、ヨープライト夫人に会うや、ワイルディーヴは誠意がないのだからと、再びトマソンに求婚するが、夫人は確答はしない。(十一章) つぎに彼が姿を見せるのは、ワイルディーヴに対する気持が、クリムのためすっかり冷えてしまったユウステーションの絶交状を当のワイルディーヴに手渡す件りである。(第二篇七章) かくて、ワイルディーヴはトマソンとの結婚を決意し、彼女の家に行き、承諾を得るのであるが、ヴェンは一足おそく、がっかりする。ワイルディーヴとトマソンの結婚式。ヴェンは見てきたままをヨープライト夫人に話す。そして、その家を出た瞬間から、彼はもうエグドン・ヒースの内にも外にも、何か月間も姿を見せなくなる。彼の姿は全くかき消えてしまうのである。He vanished entirely. (八章)

つぎに彼が忽然と現れるのは年も替って、6月、クリムとユウステーションの婚礼の夕方、ヨープライト夫人が作男のクリスチャン・キャントルに50ギニーずつトマソンとクリムに届けるよう命ずるが、ワイルディーヴが彼から賭でそれをまき揚げて去ろうとするとき、近くの草叢からぬっと立ち現われ(第三篇七章)、再び賭でその金全部を取り戻すが、その半分がクリムのものとは知らない彼は、全てをトマソンに手渡してしまう。(八章) このことがヨープライト夫人とユウステーションの間の誤解と不和を決定的なものとしてしまう。

8月末のある日、村の野遊びに出かけたユウステーションはワイルディーヴと出会い、共に帰るところをヴェンに見付けられる。彼はその足で、「淑女亭」に急ぎ、トマソンに主人を見たと告げる。ワイルディーヴより15分も早く。まったく彼はエグドンの地の理にくわしく、行動は俊敏そのものである。エグドンに反抗せず、むしろそれに適応して生きて行くのが彼の生き方で、まさにエグドンの子である。

さて、ヴェンはワイルディーヴがユウステーションと出会うのをわなをしかけたり、発砲したりして妨害する。その一方、ヨープライト夫人を訪れ、息子との仲直りをすすめる。(第四篇四章) やがて、クリムの家を訪問に出かけたヨープライト夫人が、結果的に門前払いをくわされ、疲労とまむしのため死んだことを知る。(第五篇二章) ユウステーションとワイルディーヴの家出。ユウステーションの身投げと助けんと飛び込んだワイルディーヴとクリム。そしてヴェンが大堰の奔流の中から、三人を一人で救い上げるのである。クリムを除いた二人の死。ここでヴェンは、ハーディのもとの意図ではヒースから「誰も知らないところへ」"nobody knowing whither" 姿を消すことになっていた。しかし、出版社の求めにより、第六篇 後日物語が付け加えられ、トマソンとヴェンが目出度く結婚することになる。

このようにして、ヴェンはただひたすら、トマシンのために献身的に行動することになるのだが、これを「掃蕩」の他の人物、クリムやユウステーションの自我追及・自我充足的な生き方とくらべてみれば、極めて対称的である。このような彼の態度が、たとえば、ユウステーションの目から見ると、まったく不思議に見えるのも当然である。トマシンがワイルディーヴと結婚しなければ幸福にならないのなら、添えるように骨折って上げるのが自分の義務だという彼の言葉を聞いたときのユウステーションが次のように感じるのも無理はないのである。

What a strange sort of love, to be entirely free from that quality of selfishness which is frequently the chief constituent of the passion, and sometimes its only one! The reddleman's disinterestedness was so well deserving of respect that it overshoot respect by being barely comprehended; and she almost thought it absurd. 7)

愛慾というものは、しばしば我慾をその主成分としている、——いや、時には、それが唯一の構成要素である場合もあるのに、その肝心な我慾をすっぱりと解脱しているような愛——これはなんとふしぎな種類の愛であろうか！ 紅殻屋の没我はたしかに尊敬に値する見事なものではあるが、あまりに立派すぎるので、なかなか理解が難しい。却って尊敬を通りこしてから廻りするくらいだ、——たわけている、と彼女が思ったほどである。

2

これまで、ヴェンという人間の人柄や行動を見てきた。すなわち、ヴェンに見られるのは、没我的と思える愛、淡泊、寛容と自己犠牲、誠実、その他浪漫的漂泊、忍耐などであろう。こういった人間の創造をしたハーディの意図は何であろうか。

もちろん、ハーディは plot の上の必要からヴェンを産み出したことは当然である。登場人物の間をかけめぐり、彼らの媒介役となり、筋の運び役として活躍する。しかし彼の小説中に持つ意味はただそれだけであるとは考えられないのである。

夥しい批評書でヴェンについて述べたものも少なくない。批評家の観点によりその批評もさまざまであるが、概してヴェンの人間像に対しては高く評するものが多い。

Edmund Blunden はその著 Thomas Hardy (1942) の中で、

——Hardy in his right road brings us those portraits of human worth and integrity which cannot soon fail to inspire the thoughtful. ——and Tess, and Farmer Oak, and Diggory Venn the reddleman and Giles Winterborne are not likely to be changed with the variations of taste or interest for some time to come. They are the children of light. Their ways are involved with much of inglorious and unprofitable incident, but their honest and fearless natures, which are not thrust upon us as examples, take no infection and claim no reward. — They stand for an unostentatious creed of simplicity and endurance. 8)

ハーディは、彼の本道においては、ページを繰り始めると間もなく心ある読者に深い感銘を与えずにおかないような、人間的価値と高潔さを持つ性格の群像をわれわれにもたらしてくれる。——テスや農夫オークや、紅殻屋ディグゴリ・ヴェンや、木こりジャイルズ・ウインタボーンなどは、将来、趣味や興味の変動とともになかなか変化させられそうにもない。彼らは光の子たちなのだ。彼らの行路は不名誉で不利益な出来事に巻き添えを喰うけれども、彼らの律義でひるみない性質は（——われわれの逸選とせよ、と押しつ

けられるわけではないが → いささかも悪弊に染むことなく、また何一つ報酬を求めるともないのである。——彼らは純朴と忍耐という衒わぬ信条を代表している。9)

と評している。

Blunden の書より1年後に出版された David Cecil の *Hardy the Novelist* においては、ハーディはその誠実さのために、彼の理性が正しいとするあのようなキリスト教の神を認めない、悲観的人生観を受け入れざるを得なかったが、その誠実さは、また、彼をして、その本能が最高の美德とするキリスト教の徳目に忠実たらしめたのだとし、ヴェンやテスやマーティやジャイルズたちは、このキリスト教の徳目を具体化したものという。セシルによれば、ハーディは最もキリスト教的精神の持主の一人ということになる。Hardy was one of the most Christian spirits that ever lived.¹⁰⁾ そして、ヴェン達に見られるのは、キリストが山上の垂訓で説いた福音に見られる柔和さ、あわれみ深さ、心の清さ、平和をつくり出す心、そして、最高の美德、他人のための自己犠牲の愛、a self-sacrificing love for others であるとする。たしかに、われわれがヴェンから受ける感銘が彼のこういった倫理性に基づくことは否めないところであろう。

さきに、ヴェンの生き方として、エグドンに反抗せず、むしろ、それへの適応、調和が見られることを指摘した。かれはユウステーションのように、つぎのように叫んだりもしないのである。

'How I have tried and tried to be a splendid woman, and how destiny has been against me! —I do not deserve my lot!' she cried in a frenzy of bitter revolt. 'O, the cruelty of putting me into this ill-conceived world! I was capable of much; but I have been injured and blighted and crushed by things beyond my control! O, how hard it is of Heaven to devise such tortures for me, who have done no harm to Heaven at all!'¹¹⁾

「すばらしい女になろうと、あれほど努めて来たのに、どうして運命はこうも逆い逆にと出るのだろうか！——こんな運命を受けるわけなんか無いのに！」彼女は激しい反抗に逆上して叫んだ。「おお、こんな意地悪な世界にあたしを置くなんて残酷だ！ いろんなことがあたしに出来たのに。でも、あたしの力ではどうすることもできないものために、あたしは掛なわれ、挫かれ、打ちのめされてしまったんだ！『天』に対して何一つ悪いことをした覚えのないあたしなのに、こんな拷問を仕掛けて苦しめるなんて、『天』もなんというひどいことをするんだろう！」

家出、そして死を直前に控えたユウステーションのこの言葉は、彼女がついに離れられなかったエグドンと、そして運命に対する限りなき反抗と呪詛に満ちている。このような彼女に対して運命は死をもって酬いるのである。これに対し、ヴェンの生き方というものは、エグドンに対し、そしてエグドンに象徴されている運命に対し、これに適応、調和して生きてゆくことのなかに、いわば、生活の知恵とでも呼ぶべきものを教えている。

On a Darkling Plain: The Art and Thought of Thomas Hardy (1947) の著者 Harvey Curtis Webster は、この作品が初期の作品の中で最も pessimistic であるのは前作 *The Hand of Ethelberta* が一般に冷やかに迎えられたハーディ自身の経験によるとし、最後にハーディは完全に悲観的であったのではなく、なお未来に望みを抱いていたとし、この小説に最悪の事態に直面しても、なお、生きることを耐えうるものとする生き方の二つの例を挿入したとし、それがヴェンとトマソンであるとする。

そして次の如く述べる。

Neither Diggory Venn nor Thomasin Yeobright expects much of life. They lack both the infinite aspirations and the discontent of the major characters in the book. — These two characters who do not rebel unnecessarily achieve in the end a content impossible for those who refuse to accept their lot. 12)

ディッゴリイ・ヴェンも、トマシン・ヨーブライトも人生に余り期待をかけない。二人はこの書の主役達のもつ限りない抱負も不満も持ち合わせていない。——無益な反抗をしないこの二人は、運命を受けられるのを拒む者達が手に入れることの出来ない満足を最後に得るのである。

そしてこのあきらめの美徳をハーディが持ち出しているのも、やはり前作のハーディ自身の経験から出たものだろうと述べている。

さて、前記の批評書より2年後に出た Albert J. Guerard の Thomas Hardy では、さきに Cecil がヴェンの中に見出した倫理性について、はじめて心理学的分析を加えた。この書については、つとに、滝山季乃氏が紹介しておられるところであるが、¹³⁾以下原典の引用をまじえ、まとめておきたい。

著者は、この書の中で、ヴェンのようなタイプの人物を大きくとりあげ、このような高い倫理性を示す人間も、裏をかえせば、自ら生きようとする気力のない人生の傍観者であるとする。(p. 43) 彼はこれを “the impotent spectator”(無力な、性的失格の傍観者)と呼んでいる。そして、この場合の “impotence” について

It is a temperamental impotence, a lack of aggressive energy. 14)

それは機能的なものではなく、気分的なもので、攻撃力の欠如した状態である。

と説明し、こういった人間が、高い倫理上の理想のよい例となる場合があるとしながら、さらに、つぎの如く述べている。

And yet, the unaggressive spectator of life has no little in common with the neurotic voyeur — with the man who cannot, because of organic impotence or emotional immaturity, enjoy normal sexual experience; who must get his sexual satisfaction from watching others make love, from watching others live. 15)

だが、この非攻撃的人生の傍観者は神経症の voyeur(覗淫者)¹⁶⁾ すなわち、機能上の性的失格、あるいは情緒的未成熟のため、正常の性体験を享受出来ないで、他人が愛しあったり、生きたりしているのを傍観することによって性の満足感を得なければならない人間と少なからず共通点がある。

さらに心理学者は、こういった想像の世界に生きる人物を、その意図が如何程汚れなきものであり、親切なものであっても、アブノーマルなものだというであろうと述べている。(p. 116)

The psychologist would insist that these characters too are abnormal, however innocent or kindly their intentions. そして、これを作家ハーディの資質にまでさかのぼり、ハーディ夫人の次の言葉をあげるのである。

His immaturity, above alluded to, was greater than is common for his years, and it may be mentioned here that a clue to much of his

character and action throughout his life is afforded by his lateness of development in virility, while mentally precocious. He himself said humorously in later times that he was a child till he was sixteen, a youth till he was five-and-twenty, and a young man till he was nearly fifty. Whether this was intrinsic, or owed anything to his having lived in a remote spot in early life, is an open question,¹⁷⁾

上記のハーディの未成熟は、年令の割には普通よりもひどかった。彼の生涯を通じての性格や行動の多くを解く手がかりは、彼が精神的には早熟であったが、肉体の発育が遅れた点にあると云ってよいだろう。後になって、彼が冗談に言ったことによると、彼は16才までは子供であり、25才までは青年で、50才になっても壮年であった。これが本質的なものであったのか、それとも、彼が幼年時代を僻地に過ごしたためであったのかは、未解決の問題である。

このゲラードの分析は、ハーディの作品の人間、さらにはハーディ自身の人間性に心理学的光りを投げかけたものとして意味がある。しかし、われわれがヴェンという人間について感じるのは、ただ、ゲラードのいうようなアブノーマルな voyeur ということだけであろうか。わたくしは、この書について評しておられる藤田 繁氏の指摘しておられる点、すなわち著者が「心理学主義に傾いて、道徳性を無視する傾向」¹⁸⁾があるという説に同意せざるを得ない。

さて、これまで plot の上から、さらに、ヴェンの人間および行動に於ける倫理性につき、教人の批評家の批評を通し考察してきたが、最後に、別の観点から紅殻屋としてのヴェンを眺めてみたいと思う。

紅殻屋についてハーディは次の如く書いている。

He was one of a class rapidly becoming extinct in Wessex, filling at present in the rural world the place which, during the last century, the dodo occupied in the world of animals. He is a curious, interesting, and nearly perished link between obsolete forms of life and those which generally prevail.¹⁹⁾

彼はウェセックス地方でもどんどん消滅しつつある階級の一人で、ちょうど、前世紀にドードー鳥が動物の世界で占めていたような地位を、この田園の世界で占めている商売だった。つまり彼は、廃れた生活様式と現在一般に行われている様式とを結ぶ珍奇な興味ふかい、亡びかけた鎖の一端に当るのである。

つまり、ヴェンは急速に過去のものとなりつつある人間、やがて亡びゆく人間なのである。そして、重要なのは、ただ彼の属する階級が消滅しつつあるということだけでなく、その消滅は彼に見られるような人間性の消滅をも意味することなのである。

ハーディは、さらに、次のように、紅殻屋について述べている。

Reddleman of the old school are now but seldom seen. Since the introduction of railways Wessex farmers have managed to do without these Mephistophelian visitants.——. Even those who yet survive are losing the poetry of existence which characterized them —— .²⁰⁾

旧式な紅殻商人というものは、いまは殆ど見当らない。鉄道のお目見得以来、ウェセックス地方の農民は

こんなメフィストフェレス的な旅商人がいなくても、なんとか用を足している。——まだ生き残っている紅殻屋でさえ、彼らの特徴づけていた生活の詩趣を失いかけているのである。

流浪生活、ふくらんだ財布が間違いなく手に入ることから保証される立派な風采の維持、——出費が収入の4分の1ですむ裕福な境遇、(p.92)こんな生活のもつ詩趣が失われつつあるのである。Douglas Brownはその著 Thomas Hardy (1954)で、この「生活の詩趣」“poetry of existence”という言葉は、ハーディの「押えることができない、回帰的ノスタルジア an unchecked, regressive nostalgia²¹⁾を暗示するものであると述べているが、まさしく、ここには、物質文明を象徴する鉄道の侵入が、ヴェンに象徴されるキリスト教に根ざす道徳性をもつウェセックスの田舎人たちがその環境を破壊してゆくことに対するハーディの哀悼とノスタルジアが見られるのである。ダグラス・ブラウンは、田舎人の諸性質として、つぎのようなものをあげている。

But chiefly we feel in Venn those qualities of passive firmness, self-denying fidelity, and patient watchfulness, that Hardy values so much, and connects with the intimacies and the routines of agricultural life.²²⁾

しかし、われわれは、ヴェンの中に、主として、ハーディがあれほど高く評価し、農村生活の親しきとしたりに結びつけているところのあの諸性質、すなわち、受動的な堅実さ、自己犠牲的な忠誠心、および忍耐強い見守りを感じる。

ハーディは「帰郷」において、クリムやユウステーションのような近代的自我意識をもつ人間を創造した。パリでの宝石商としての華美で虚飾にみちた生活に嫌気がさし、故郷に帰って村人達の教化に生甲斐を見い出そうとするクリム、このような生き方が当時イギリスで理解されなかったのは当然といえば当然だが、今日においては、大沢 衛氏も指摘しておられるごとく²³⁾文明の故郷喪失性は今や急速に進行しつつある問題である。この意味でも The Return of the Nativeという題は意味深いものがあるといえよう。またエグドンは自分の牢屋である (p.106) とし、ひたすらそこから脱出し、「気も狂わんばかりに愛されてみたい」(p.79)と願い、生の充実を求めるユウステーションもまた近代的自意識に目覚めた人間である。大沢氏が Flaubert の Madame Bovary や Tolstoi の Anna Karenina との主題の共通性を認めておられるのも当然である。²⁴⁾

しかし、一方また、ハーディは、ヴェンやトマソンのような全く対照的な人間像も作品の中に定着させた。このことはハーディ自身の内部世界をそのまま明らかにしている。すなわち、近代的自意識の追求と共に、たえずそこへ回帰的に戻って行くふるさとやふるさとびとへのノスタルジア、この二つの共存が見られるのである。この意味において、彼自身、19世紀と20世紀を結ぶ鎖の一環であるといえるのではなからうか。

Notes

- 1) The Return of the Native(Pocket Edition, 1947),p.9
- 2) Ibid., pp.9 - 10
- 3) Ibid., p.90
- 4) Ibid., p.92
- 5) Ibid., pp.92 - 93
- 6) 藤田 繁 作家と作品 ハーディ(集英社 デュエット版・世界文学全集「ダーパァヴィル家のテス」
〈1969年〉への解説)
- 7) The Return of the Native, p.178
- 8) Edmund Blunden, Thomas Hardy (1942), p.213
- 9) 大沢 衛 批評抄の訳による(新潮文庫「帰郷」下巻)
- 10) David Cecil, Hardy the Novelist, p.156
- 11) The Return of the Native, p.420
- 12) Harvey Curtis Webster, On a Darkling Plain, p.124
- 13) 滝山季乃 ハーディ小説の鑑賞, pp.134 - 135. pp.215 - 224
- 14) Albert J. Guerard, Thomas Hardy, p.115
- 15) Ibid., p.115
- 16) この訳語は「日本ハーディ協会会報No.7」の藤田 繁氏のこの書の書評による。
- 17) Florence Emily Hardy, The Life of Thomas Hardy, p.32
- 18) 16)のp.115
- 19) The Return of the Native, p.9
- 20) Ibid., p.89
- 21) Douglas Brown, Thomas Hardy, p.58
- 22) Ibid., p.58
- 23) 大沢 衛 評価(研究社 20世紀英米文学案内 「ハーディ」 p.214)
- 24) 大沢 衛 「ハーディ文学の研究」(研究社), p.107

奈良盆地における集落の都市的 萌芽についての一考察

寅 貝 和 男

1 はじめに

筆者は都市問題を研究の対象としており、必ずしも集落全般にわたっているわけではないが、とりわけ筆者にとって関心の対象となるのは「都市とは何か」という極めて初歩的であるが、なおかつ極めて難しい問題である。しかし「都市」とは一般に市制施行地であるとか、あるいは人口1万以上であるとか、さまざまな定義がなされているが、市町村合併などで市や町が人為的にどんどん大きくなっている一方、本当にアーバンであるところが何分の一になるか何十分の一になるか…という状態である以上、最早、行政的な市や町を都市と定義づけるだけでは意味をなさなくなっているはずであり、そのことについては筆者などもすでに明らかにしているところなので詳細はひかえたい。そのときに人口集中地区の設定が都市地域の画定にとって意義^{※1}あるものである事のべたが、今日ほど「都市」の概念が混乱しているのは、地理学上「都市」に関する人口現象の分析とはいっても、内容のあいまいなものになってしまうことはいうまでもない。つまり人口統計的に扱える地域の単位が、できるだけ正しく「都市域」^{※2}と捉えており、しかも明確なものであることが要求されるのではないかと考える。

2 「基礎地域」と「大字」について

都市についてよくこういう事がいわれている。「家屋連たんの景観的に都市らしい集落の部分のみをとったらよい…」と。一面正しいのであるが、これではやはり統計的に扱う場合、無理を生じるのではないか。都市も地域の所産である以上、一定の行政的地域を単位としてある程度考慮しつつ、できるだけその集落の「基礎地域」を重視しながら、集落社会、とりわけ都市の萌芽をもつ集落社会の研究をしていくのが今のところ最も自然な方法ではないかと考えている。

「基礎地域」の研究については水津一郎氏の「社会地理学の基本問題」(大明堂)に詳しいが、この中で、「基礎地域」がそのまま現存する「大字」とはいえないまでも、かなりの関連性のあることを教えている。つまり生活空間的に

「基礎地域」≡ 藩政村 ≡ 「大字」 ≡ 前行政村(明治22年市町村合併前の行政村)
なる関係が想定できる、というのである。なおこれから筆者が対象にしようとする奈良盆地は

「基礎地域」=藩政村=大字(ムラ)

の確率が高い地域であり、大字即ち集落(ムラ)単位の研究に適当な地域であると考ええる。一般に大字は即藩政村と考えてよいが、地方官公議日誌第2号にいわく、「一ノ形体ヲ成シ、大ナルモ之ヲ削ルヘカラス、小ナルモ之ヲ併スヘカラ」ざる状態として、最近まではフォーマルな「基礎地域」としての性格をもっていたと諒解される。このように比較的自然的な発生性でおおかつ行政村として地域の画定された集落は、それなりの主体性をもった地域社会として重視されうるし、若しその中に

都市的萌芽が発見されるならば、都市研究の対象としても意味あるものとする。

3 都市の人口規模を重視する必要性

さて「都市」についてであるが、人間が一国の中で社会生活をする場合、中央より末端へ、末端から中央への流れ（それは命令の流れ、統治の流れ、文化の流れ、物資の流れ、金融の流れ等）が存在する。それは人間が種々の政治的、経済的、社会的、文化的な諸関係の網の目の中で生活している以上、「関係的な」網の目を避けられないことは論を待たぬ。これらの流れが国民一人一人に至るまでまんべんなく流れているために、流れの分岐点ごとに種々の結節的機関が存在している。この機関は具体的には役所その他の官公庁（郵便局・警察署・保健所・土木出張所等）・銀行・商店・工場・娯楽施設・学校・駅舎などである。これらのものが多いほど人は集まるし、その集落社会はより都市的であるといえる。つまり都市の本質の一つにはこのような機関の存在をあげる事ができるのである。だが、どれだけの種類と量の機関が集まればそこを「都市」とよぶうか、それは不明確であり、今規定することはできない。しかし都市が集落社会の中で、人口規模から見ればより大なる一つの集落である^{※3}と考えることはできる。つまり一つの集落で人口にして 5,000 人も集まれば、自然発生的な集落である限り、銀行の 2 行や 3 行、商店の 100 や 200 が存在することは自然のなりゆきと考えてよい。これは都市である。機関を勃興させるところの需給の関係や量を規定するものは人口である。

これからみてゆく奈良盆地南部の各集落についても、まず人口的取扱いを経た上で、種々のファクターの検討を加えてゆきたいと思う。なお個々の集落についての詳細な調査・検討は、筆者の問題提起の観点からも、大方は後日にまわさねばならない。

4 都市の人口のミニマムについて

これまでに検討した基礎地域の概念を都市におしひろげるとき、自然都市と行政都市とをわけて考えるならば、もとより根本的には自然都市を問題にしたいという事である。が、直ちにこれを問題とすることは不可能であるから、集落単位で問題をとりあげる方法として、行政的単位としては最も狭い大字単位（地域によっては町単位となっているところもある）で集落を問題化し、都市の萌芽について人口的側面を中心にアプローチしてみようと思う。^{※4}その場合、一つの参考として都市性を考える規準に

- ① 一つの集落の人口規模
- ② 農家率（非農家率）

をあげてみたい。いうまでもなく、都市は一個の集落として人口的規模が大きくなければならない。一体にわが国では行政的な市町村規準としては 5,000 人以下が村、5,000 ～ 30,000 人が町で、市制施行には 30,000 人以上となっているが、一つの集落単位で問題とするときには、必ずしもこの規準にこだわる必要はない。また国際的規準として 1887 年の国際統計会議では人口 2,000 人をもって行政上の村と町をわけていることもあるが、筆者は、連続している一個の集落で人口 1,000 人以上ある場合については村落と考えるか都市と考えるかを考察する必要があると思っている。一般には 2,000 人以上であれば当然都市的な集落社会とみてよいのではないかと思う。もっとも農村市街地規模のものが多いのであるが、先に昭和 35 年度国勢調査より定められた人口集中地区（D I D）は人

口密度 4,000 人以上で人口 5,000 人以上の地域を実質上の都市的地域としたが、これは今日まで出されている都市域設定論としては最もすぐれているように思う。しかし地方の在町的性格をもつ集落には 5,000 人もないものの方が多い。そこでこれから掲げる統計（第 1 表～第 7 表）は市町村単位とは別に、大字（町）名毎に人口 1,000 人以上のものをとりあげ、それらについて次の項目を掲げることとした。

A 面積 (Km²) B 人口 C 人口密度 D 戸数
E 農家戸数 F 農家率 (%) G 商店数 H 備考 (銀行・駅舎の有無等)

※ B～G：原則として昭和 43 年現在

なお前述したごとく、連続した一つの集落を問題にするわけであるから、必ずしも一集落が一大字単位におさまっているとは限らない。とくにその集落規模が大きい程この傾向は一層強く、一の集落形成に複数の大字が関係していることはまれではない。(第 1 表～第 7 表では 榎原 I, 天理 II …等で記したもの) それぞれの集落を検討するに当っては、どこまでが一つの集落であるかをできるだけ正確に把握するために、それぞれの市町村で発行している大縮尺の地図を用いたり、時には实地に観察したりして集落の連たん状態を知ることに努めた。

5 集落形態把握の基準

奈良盆地南部の各集落について検討する際、行政区域その他について次のような範囲・基準を設けた。

- i) 行政区域…天理市、桜井市、榎原市、大和高田市、田原本町、新庄町および広陵町の一部
- ii) 単独の集落で、人口 1,000 人以上の集落の全てを対象とする。
- iii) 一つの連続した集落の人口規模の把握をできるだけ正確に行なう事を主眼とする。
- iv) D I D の設定されている地域にまたがっている大字は全て含める。
- v) “連続した”状態の意味をより厳密にするため、一つの大字中 2 以上の集落を含むものは、一集落の人口が平均して 1,000 人を超えない場合は除外した。(なお柳本一天理市一のように明らかに人口 1,000 人を超える中心集落及びその他の集落からなる大字は対象に含めた。但しこの場合、中心集落の人口の正確さは期し難い。)
- vi) “連続した”状態とは、文字どおり家屋が連なった状態であり、同一道路上に沿っていても破線上に連続している場合や、全く別個の街く（まち・ちまたの意）を形成している場合は採らない。この解釈は当然のことであるが、「連たん状態」の拡大解釈による「市」の乱造との混同をさけるため、あえて付記した。※5

※自治庁次長の「市制施行協議基準」に関する通達（昭和 28 年 3 月 9 日）

連たんとは次の基準によるものとする。

- ① 連たんとは、家屋が連なっていること。
- ② 街くを形成している区域内の建物は、個々の家屋が連なっていない場合にも連たんともみることができる。
- ③ 橋梁、競技場、工場、公園、河川等により家屋がある程度離れていても、客観的に同一の街くを形成していると判断される限り、同一連たん区域とみることができること。
- ④ 街くをはなれて別個に連たんしている場合は、一つの連たんに含まれ得ないこと。

(第1表) 榎原市

集落名	A	B	C	D	E	F	G	H
① 榎原Ⅰ	3.40	16,901	4,969	4,479	277	6.2	639	○●△
四 条	0.68	1,407	2,069	361	95	26.3	36	
小 房	0.23	1,154	5,017	271	15	5.5	33	
八 木	0.87	4,455	5,121	1,142	43	3.8	305	
北八木	0.22	1,258	5,718	307	24	7.8	32	
内 膳	0.52	3,837	7,380	1,182	42	3.6	88	
今 井	0.35	3,829	10,940	904	18	2.0	103	
兵 部	0.08	456	5,700	166	0	—	42	
繩 手	0.45	510	1,133	146	40	27.4	0	
② 榎原Ⅱ	0.96	3,524	3,671	946	86	9.1	63	○
大久保	0.74	2,674	3,614	742	67	9.0	55	
畝 傍	0.15	464	3,093	101	5	5.0	6	
御 坊	0.07	386	5,514	103	14	13.6	2	
③ 榎原Ⅲ	2.86	6,339	2,216	1,544	112	7.3	132	○●△
久 米	1.75	2,723	1,556	700	51	7.3	67	
見 瀬	0.91	3,145	3,348	743	51	6.9	63	
大 軽	0.20	471	2,355	101	10	12.9	2	
④ 榎原Ⅳ	0.58	2,490	4,293	648	97	15.0	41	○
石原田	0.18	1,182	6,567	326	35	10.7	20	
山之坊	0.40	1,308	3,270	322	62	19.3	21	
⑤ 榎原Ⅴ	1.66	2,650	1,596	626	217	34.2	43	○
東坊城	1.28	2,392	1,869	567	183	32.3	43	
古 川	0.38	258	679	59	34	57.6	0	
⑥ 新 賀	0.59	1,142	1,936	339	58	17.1	6	
⑦ 曾 我	1.36	2,030	1,493	449	142	31.6	29	
⑧ 中曾司	0.75	2,235	2,980	635	79	12.3	33	○
⑨ 飛 驒	0.08	1,314	16,425	382	66	17.3	7	
⑩ 曲 川	1.09	1,229	1,146	281	146	52.0	20	○
⑪ 新 口	0.65	1,105	1,700	279	74	28.6	7	○
⑫ 川 西	1.06	2,503	2,361	650	75	11.2	34	

(第2表) 天理市

集落名	A	B	C	D	E	F	G	H
⑬ 天理Ⅰ	5.01	6,361	1,270	1,601	277	17.3	135	○●△
檜	0.56	491	876	116	34	29.3	10	
櫟 本	2.95	4,517	1,531	1,126	169	15.0	115	
石 上	1.50	1,353	902	359	74	20.6	10	

⑭	天理Ⅱ	11.59	21,322	1,840	4,268	305	7.1	687	○●△
	田部	0.48	1,481	3,085	339	19	5.6	19	
	田井庄	0.56	1,607	2,870	346	37	10.0	9	
	三島	0.60	3,248	5,413	595	9	1.5	169	
	豊田	2.04	1,998	979	221	30	13.6	18	
	布留	0.49	1,030	2,102	154	9	5.8	8	
	豊井	0.99	745	753	129	25	20.2	4	
	川原城	0.44	3,603	8,189	823	13	1.6	350	
	守目堂	0.31	1,208	3,898	309	7	2.3	20	
	丹波市	0.23	1,550	6,739	360	14	3.9	55	
	御経野	0.01	1,003	10,030	282	15	5.3	10	
	勾田	0.42	928	2,210	202	19	9.4	10	
	田	2.86	768	269	162	46	28.4	8	
	袖之内	1.52	947	623	153	38	24.8	3	
	別所	0.64	1,206	1,884	193	24	12.4	4	
⑮	天理Ⅱ	1.08	1,077	997	262	61	23.2	23	○△
	南菅田	0.44	267	607	54	28	51.9	2	
	北菅田	0.13	284	2,185	73	8	11.0	7	
	上ノ庄	0.51	526	1,031	135	25	18.5	14	
⑯	長柄	1.32	1,150	871	261	82	31.4	20	○●
⑰	柳本	3.74	3,539	946	850	129	15.2	90	○●△

(第3表) 大和高田市

集落名	A	B	C	D	E	F	G	H
⑱ 高田Ⅰ	4.42	27,805	6,291	6,742	275	4.0	1,047	○●△
北本町	0.08	1,116	13,950	258	0	—	121	
内本町	0.08	1,508	18,850	323	1	0.3	124	
南本町	0.07	1,067	15,243	254	1	0.4	67	
西町	0.05	254	5,080	75	1	1.3	1	
大中南町	0.10	805	8,050	218	4	1.8	8	
高砂町	0.03	634	21,133	157	1	0.6	44	
本郷町	0.09	1,667	18,522	375	2	0.5	147	
永和町	0.07	1,365	19,500	314	5	1.6	80	
北片塩町	0.05	1,229	24,580	326	10	3.1	103	
片塩町	0.11	1,094	9,945	282	2	0.7	89	
磯野東町	0.07	369	5,271	99	1	0.1	15	
幸町	0.14	1,308	9,343	98	0	—	2	
大東町	0.10	1,098	10,980	237	1	0.4	26	
三和町	0.13	1,809	13,915	431	2	0.5	40	

	昭和町	0.11	580	5,273	88	0	—	2	
	旭北町	0.14	603	4,307	141	4	2.8	16	
	旭南町	0.10	514	5,140	126	0	—	17	
	今里町	0.13	788	6,062	181	59	32.6	13	
	高田	0.28	2,227	7,954	626	19	3.5	36	
	神楽	0.55	1,071	1,947	283	42	14.8	13	
	三倉堂	0.49	1,960	4,000	564	31	5.5	133	
	東雲町	0.13	176	1,354	44	2	4.5	0	
	材木町	0.18	236	1,311	67	3	4.5	0	
	曙町	0.20	1,625	8,125	494	11	2.2	16	
	大 中	0.23	518	2,252	155	6	3.9	8	
	大中東町	0.07	352	5,029	70	0	—	14	
	土 庫	0.64	1,832	2,863	458	67	14.6	13	
⑱	高田Ⅱ	0.64	1,275	1,992	328	51	15.5	13	○
	勝 目	0.29	605	2,086	150	14	9.3	2	
	出	0.35	670	1,914	178	37	20.8	11	
⑳	築 山	0.48	2,603	5,423	764	61	8.0	48	○
㉑	磯 野	0.61	1,378	2,259	366	59	16.1	3	
㉒	東 中	0.62	1,333	2,150	370	45	12.2	25	
㉓	曾大根	1.05	2,040	1,943	488	109	22.4	21	
㉔	根城柿	0.74	1,373	1,855	230	67	20.3	20	

(第4表) 田 原 本 町

集 落 名	A	B	C	D	E	F	G	H	
㉕	田原本Ⅰ	1.64	5,971	3,641	1,363	229	16.8	284	○●△
	八 尾	0.79	903	1,143	178	97	55.5	9	
	新 町	0.25	409	1,536	99	23	24.2	10	
	田原本	0.60	4,659	7,765	1,086	111	10.2	265	
㉖	田原本Ⅱ	0.81	1,746	2,156	440	132	30.0	20	○
	宮 森	0.47	612	1,302	165	42	25.5	4	
	桑 楽 寺	0.15	236	1,573	50	38	76.0	16	
	九 品 寺	0.19	898	4,724	225	52	23.1		

(第5表) 広 陵 町

集 落 名	A	B	C	D	E	F	G	H	
㉗	広陵Ⅰ	1.56	3,166	2,029	675	223	33.0	86	○●△
	萱 野	0.65	1,333	2,051	276	100	36.2	37	
	南	0.31	1,028	3,316	232	48	20.7	41	
	弁財天	0.35	461	1,317	89	43	48.3	5	

	的 場	0.25	344	1,376	78	32	41.0	3	
㊸	広 陵 Ⅱ	2.63	3,548	1,349	693	226	32.6	26	●
	疋 相	0.45	1,507	3,349	301	54	17.9	11	
	大 垣 内	0.92	800	870	151	88	58.3	9	
	赤 部	1.26	1,241	985	241	84	34.9	6	
㊹	南 郷	1.21	2,247	1,857	304	135	44.4	14	町役場

(第6表) 桜井市

集落名	A	B	C	D	E	F	G	H	
㊺	桜井Ⅰ	4.19	17,086	4,077	4,126	292	7.1	541	○●△
	桜井	1.00	6,982	6,982	1,695	30	1.8	413	
	川合	0.18	930	5,167	237	17	7.2	11	
	谷	0.49	2,684	5,477	648	27	4.2	32	
	河西	0.33	783	2,473	196	52	26.5	4	
	栗殿	0.75	3,132	4,176	736	71	9.6	48	
	戒重	0.39	978	2,508	241	42	17.4	8	
	外山	1.05	1,597	1,521	373	53	18.2	25	
㊻	桜井Ⅱ	4.92	3,156	641	744	111	14.9	134	○●△
	三輪	4.35	2,778	639	659	62	9.5	125	
	馬場	0.57	378	663	88	49	55.7	9	
㊼	初瀬	5.98	3,389	567	859	160	18.6	79	○△
㊽	芝	1.14	1,299	1,139	291	91	31.2	37	△

(第7表) 新庄町

集落名	A	B	C	D	E	F	G	H	
㊾	新庄	1.17	2,665	2,281	602	169	28.1	92	○●△
	新庄	0.23	1,748	7,600	408	93	22.8	59	
	葛本	0.26	175	675	45	9	20.0	3	
	南道穂	0.33	498	1,509	103	31	30.1	28	
	北道穂	0.35	244	697	46	36	78.2	2	

註) 駅舎のあるとき…○ 銀行のあるとき…● 商店密度が20をこえているとき…△

6 統計表を見るにあたって

以上、第1表～第7表にみられる34例の各集落は各々単一であり、いずれも人口1,000人を超えるものである。なお第3図および第4図からもわかる様に、天理Ⅱ・桜井Ⅰはなお連続の状態にある集落を別個のものとして、天理Ⅰ・大福地区を分割した。桜井Ⅰと大福地区の場合、市街地は連続しているとはいえ、市街地形態の上で両地区の間に大きなくびれがあり、またその集落の成り立ちからもそれぞれ別個の集落と考える方が適当であるものとして処理した。(第4図!印のところ) また天理Ⅱと天理Ⅰの間も同様であり(第3図!印)、もともと別の核をもって発達してきたもの

であり、2個の大規模な市街地の間に列村状の連繋があるだけでは一個の連続体と判断することは正確な把握とはいえないと考え、別個の集落として取扱うことにした。さらに2以上の集落をもつ大字で、その一方がある市街地と連続している場合、集落毎（この場合は小字であることが多い）の面積・人口が統計表の上で得られないので、その大字に関する部分は全て除外した。（第1, 2, 3図などの斜線の部分が、連続しているけれども除外された部分である）もう一例、榎原Ⅰ・Ⅱ・Ⅲに関してであるが、総理府統計局発行の「1960年度わが国の人口集中地区」によると、これら3地区は一つの連続体としてまとめられているが、Ⅰ・Ⅱの間は明らかに不連続であり、またⅡ・Ⅲの間も同様に不連続である。さらに榎原市発行の都市計画図によると、商業地区指定は上記Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの市街地それぞれに別個になされており、なおかつⅠ・Ⅱ・Ⅲはいずれも別個の核（Ⅰ及びⅡは各々複数の核をもつが）をもつ集落であるから、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとわけて処理する方法をとった。

7 非農家率の高いのが第一の特色

さて、以上の統計をみて、まず第一の特徴は集落発生の際の相違にもよるが、一体に農家率の低いことである。いいかえると非農家率が高いことであり、このことは上記34例のうち20例までが農家率20%以下即ち非農家率80%以上の集落である。これでもってその集落が都市であるとは直ちに断定できないにしても、高度に都市的であるということは言える。なぜなら、都市の側面は結節機関が多いということであるから、非農家率が高いことは第二、三次産業（商業、工業、金融業、運輸・通信業、サービス業、公務・自由業など都市的業態）に従事する人の多いことであり、そういう人たちが沢山集まり居住しているところは都市であるからだ。さらに農家率40%以下、即ち非農家率60%以上（これは市制施行要件をきめた地方自治法第八条第一項三号の準用と考えてもよい）のものは34例中、32例にも及んでいる。なおここで農家という場合、専業農家のみならず兼業農家も含めた数であり、しかも現実には奈良盆地においては、その多くが兼業農家であるという実情からみても、盆地の集落の都市化は極めて高い割合で進んでいると考えられる。

8 人口規模別にみた集落概観

a. 人口1万以上の集落（大和高田、榎原、天理、桜井市街地について）

以上のような了解のもとに単一集落の人口規模をみると、盆地南部では大和高田が最大で約2.8万、次いで天理Ⅱの2.1万、桜井Ⅰの1.71万、榎原Ⅰの1.69万とつづく。これらが盆地南部における核都市であるが、市全体の人口にかかわらず、大和高田が市街地規模で首位にあることは、同市の都市性が最も高度であることを予測させる。現実には大和高田は県南最大の商業都市であり、その商圏は広く吉野地方一帯にも及んでいる。また商業の面で更にいうならば、榎原市も大和高田に吸引されているということである。“榎原市民は地元よりもむしろ大和高田で買い物をする…”という榎原市役所職員の話は何よりもその辺の事情を雄弁に物語っているといえよう。

なお天理Ⅱの場合、第2表からもわかる様に14の大字でもって一集落を形成している。従ってそれぞれの大字、とくに市街地縁辺部を含む地域の大字はかなり広範囲のヒンターランドを包括しており（例：豊井・豊田・勾田・柚之内・田など）、そのため天理Ⅱ地域全体の人口密度は低い数値になっている。また柚之内、豊井地区には市街地とは隔たった2～3の小集落が存在するが、天理Ⅱ集落の人口規模にはさしたる影響はない程度のものであるので、これらの大字も除外

せずに含めて算出した。

ここで上記4つの市街地について景観上の特色を考察すると、その市街地の機能的構造にもかなりの差異がある。大和高田・桜井Ⅰ・天理Ⅱはそれぞれ繁華な商店街を形成しているが、橿原Ⅰのメインストリートは近鉄八木駅-医大病院の通りにあるが、そこでは交通量は多いにしても商店街形成は十分ではない。小規模なビジネスセンターの形成がみられる程度である。なお参考までに、大和高田（天神橋筋）、天理Ⅱ（天理本通）、桜井Ⅰ（桜井本町）の各商店街はいずれもアーケードをかけた本格的なものである。これら3市は、大和高田が大阪と結びついた活気ある商都としての商店街、天理Ⅱが天理宗教都市として門前町的な商店街、桜井Ⅰが谷口都市という性格から物資の集散地としての商店街を形成しているが、橿原Ⅰは交通の要地であり、歴史的にみても八木・今井地区ともに商業・金融関係で生活してきた町であったわけだが、現実には他の3市に比べて活気のないのはいなめない事実である。橿原Ⅰの市街地を活気の乏しいものにしていく一つの理由は、この市街地が、飛鳥川をはさんで相対している八木、今井という二つの性格を異にした町の複合体である、ということである。今井は歴史的にも奈良に次いで古い町であり、寺内町、環濠集落の一つとして独自の発展をみてきた極めて閉鎖的な町である。もっともそのために近世以来の建築史上の宝庫として、民家では最も古い慶安3年の棟木札がある今西家（八ツ棟造り、重要文化財）をはじめ、以後各時代の建物がほとんどそのまま残されているという文化的な価値をもっているわけだが、同時に都市の近代化の波からも取りのこされたとも言えるのである。駅舎や道路の新設にあたってはそれらから逃避し、自治を守ることを主眼においたため、結果としては町の発展を八木に譲ってしまったことになる。現在約3,800の人口を有するが、この人口も昭和の中頃以来あまり変化がない。景観的には建造物は2,3を除きほとんど平屋であるか、わずかな中二階の民家がみられるのみ^{※11}で、スーパーマーケットなどの大規模な商店や中・高層ビル等は全く見当たらない。町筋は東西に通ずるものが6本あるが、メインストリートといわれる“御堂筋”でも幅員3間（約5.4m）であり、他の通りは更に狭い。他方、八木地区が近鉄線の八木駅・国鉄線の畝傍駅をもち、一応交通の要地として都市の近代化もかなり進んでいるのと比べると極めて対照的な町である。

b. 都市機能の中心が商業にあることについて

なお各表の（G）項に掲げた商店数に関してであるが、それは、商業は鉱工業等比べて都市の産業別人口構成などで都市によって余り大きな偏差をしめさないから、都市性の尺度としては適当なものの一つであると判断した。いいかえると、商店・金融機関などは比較的“都市性”に比例して存在するものであるともいえる。商業は全ての都市に不可欠の産業であり、都市機能の最も基本的な要素は商業を中心とする流通機構である…ということである。従ってその集落に一軒の農家も存在しないという理由で、それだけでその集落を都市であると見なすわけにはゆかぬ。例えば、鉱山都市に見られる一群の炭住街、あるいは住宅都市の団地群^{※12}などそれだけをとり出して都市であるとはいえない。但し前にも見た様に、団地とか炭住街^{※12}などの計画的、人為的な市街地ではなく、一般に自然発生的な集落においては、大体人口規模に応じて（即ち“需要”に応じて）商店その他の結節機関はつくられる。そこに都市の萌芽を見出す集落調査の場合、基本的には一つの集落の人口規模そのものを把握することの必要性があると思うのである。都市機能の中心が商業にあることは上述のとおりであるが、その数・量を決定づける要因は購買力を内蔵するところの人口規模に求めねばならない。

c. 人口1万以下の集落概観

次に人口1万以下の集落を見ると、榎原Ⅱ（久米・見瀬地区）、天理Ⅰ（樺本地区）、田原本Ⅰ（田原本地区）がそれぞれ5～6,000人の規模の集落を形成している。いずれも駅舎、金融機関（銀行）もあり、榎原Ⅱ・田原本Ⅰは交通網の要地でもある。一方、商店街形成の様子をみると、榎原Ⅱは榎原神宮駅前より神宮に通ずる大通り、及び見瀬地区の街道筋に一部みられる。また田原本Ⅰも駅前附近に形成されている。天理Ⅰは、商店は個々に存在するものの、繁華な商店街の形成までには至っていない。地味なたたずまいの旧宿場町である。

また3,000人以上の集落では榎原Ⅱ（畝傍）、柳本、広陵Ⅰ（箸尾）、広陵Ⅱ（疋相）、桜井Ⅱ（三輪）、初瀬などである。駅舎は広陵Ⅱ以外全てにあり、^{※13}銀行支店が榎原Ⅱ^{※14}以外の全てに存在する。2,000人台では榎原Ⅳ（石原田）、榎原Ⅴ（東坊城）、曾我、中曾司、築山、曾大根、南郷、新庄、川西などがある。これらの中ではローカルな地域の核である新庄が目立つ程度で、他は規模の大きい農村市街地的な色彩の濃い集落である。しかし榎原Ⅳも耳成山南麓から近鉄耳成駅方面にかけて住宅街が形成され、都市的要素もみられる。農家率は15%であり、従って非農家率は85%と極めて高く、都市的業態に従事する人口の多いことをしめしている。築山地区は大阪の近郊住宅集落化しつつあり（高田荘園など）、中曾司はもとからの農村集落と東側に隣接する新しい住宅団地とから成り立っており、新旧集落のコントラストをなしている。なお、曾大根、南郷、川西以外は、これらの集落を対象とした駅舎があるか、もしくは大字内になくとも近接地に設置されている。

d. 都市の萌芽—人口1,000人の集落概観

最後に人口規模1,000人台の集落について概観し、本稿のまとめのようなものができるなら…と考えている。ここではその代表例として長柄、二階堂（いずれも天理市）について少し詳述してみたい。

④ 長 柄

もと山辺郡朝和村の一大字。低平な盆地底にあり、農村の中心的集落である。農村集落としては商業に従事する者が多く、日用品等は長柄の商店でまかない得る。商圏は半径2Kmの範囲に及び、地方的中心をなしている。なお大字兵庫地内に国鉄桜井線の長柄駅があるが、主たる対象はもとより長柄集落である。なお集落内にあった南都銀行支店が国鉄長柄駅寄りに新築移転し、また以前集落内にあった劇場が現在廃館となっている。長柄の人口・戸数の変化をまとめると次表の通りである。

（第8表） 長柄部落の戸数・人口の推移

	明治9年	昭和13年	昭和30年	昭和43年
戸数	221	239	256	261
人口	1,031	1,217	1,309	1,150

第8表からもわかるように、明治初期以来、戸数・人口に大きな変動はなく、人口の伸びはむしろ退潮気味で、

全般に停滞的であるといえる。集落は国鉄長柄駅より西に法隆寺—朝和線の県道に沿って形成されており、県道に面して20軒余の商店が存在する。農村集落的色彩を残すものとしては、荒物と雑貨、呉服と小間物、菓子と青物 ということに一軒の店で異種の商品を販売していることや、肥料店の存在などにあらわれているが、パーマ、鮮魚、自転車、クリーニング、文房具、理容、衣服、菓子、めん類などの日用専門店もあり、地方的主邑というにふさわしい小市街地である。農家戸数は82戸で全体の31.4%、従って非農家率は68.6%となっている。

⑤ 二 階 堂

天理市の西北端、蔬菜類や果樹栽培などの盛んな近郊農村地域にある。二階堂は行政的には大和郡山市八条と天理市中にまたがる通称藤川と呼ばれる地域を北限に、中街道沿いに沿った2 kmに及ぶ模式的街村で、天理市内では行政上大字南北菅田および大字上ノ庄地区を一般に二階堂と呼んでいる。現在は地方的小中心地であり、商店戸数は藤川地区を含めて約30戸である。鉄道は近鉄天理線の二階堂駅があり、天理には手のとどきそうな位置にあるため商店の発達も不十分であり、村落景観を示している。しかし広範囲の地域を管轄する二階堂郵便局があり、また農家戸数61で農家率は23.2%、非農家率は76.8%と高い。そして専業農家に至ってはわずか19戸であり、兼業農家率は68.8%と進んでいる。ここも長柄と同じく村落の色彩は濃い、駅附近及び国道24号線沿いの附近に都市的萌芽をみることもできる農村市街地といえる。

9 ま と め

以上で人口規模別に主として景観的な面から概観してきたが、実地踏査をやっていない集落もあり、更に資料を集め、結節機関についても綿密に調べた上で、できるなら統計上の処理の上に一定の理論づけをしたいと思っている。唯、いままでの統計・資料・文献等の整理の結果、おおよその点が明らかにできるのではないかと思う。即ち、都市の萌芽を求める場合、特定の大都市近郊の集落や計画的に設定された集落は別として、一般に自然発生的な村落の場合、都市が村落から発展し、そして村落のうちにいろいろな機関が設けられることにより次第に都市性を増していくことが都市発展の合理的順序であるとするならば、その移行点の目安として人口規模1,000人を提唱したいと思う。都市の萌芽を人口1,000人の単一集落に求めることについては、環境やその他さまざまな条件も考慮に入れねばならないが、出発点を基礎地域にもとめ、商業活動や非農家世帯等も考慮しつつ、前述の目安をたててみた。不十分な点も目立つので今後更に調査を重ねてゆきたい。

なお、調査資料・地図等の提供をいただいた各市・町村役場の方々、実地調査等の調査活動に協力をいただいた本校の勝山元照君(高1B)をはじめ多数の諸君に感謝します。

※1. 「人口集中地区の設定と行政都市」(地理教材研究第6集)---筆者

※2. 市部があまりにも広い行政地域をもっていること。561市の行政区域、約8.8万km²は国土全面積36万km²のほぼ1/4にあたる。実際の都市域であるD I Dの面積は約4,600km²で全面積の1/8にすぎない。また市部全体の人口増をもって都市集中だとは簡単にはいえない。昭和40年10月現在、全国561市中237市(実に40%)で人口減少をみているのである。(昭和35年比)

※3. 鈴木栄太郎氏は「そこにある結節機関でとり扱かう商品や労務が、その集落社会の外部の一定地域内の住民に関与するもの。農村市街地がこれにあたる。所謂ヒンターランドの存するもので、ここには商店群落、技術機関、役場、警察、学校、駅、郵便局、組合事務所、お寺等が存する。一般にはこの程度の都市的存在以上を都市と考えているようである。」と述べている。(「都市社会学原理」有斐閣)

※4. 大字地区をそのまま「町」と混みかえている所が多い。但し、市街地内をいくつかの地域に細区分し、「〜町」とよんでいる所もある。奈良県では奈良、大和郡山、大和高田の各市と生駒町でみられる。

※5. 陸前高田市(岩手)の連たん戸数は4,079戸(64.1%)であるが、実情は高田町高田、気仙町今泉他10数個の分散した集落の戸数の累計である。珠洲市(石川)等についても同様であるが、詳細は※1の書を参照のこと。

※6. 榎原市発行1：10,000市域地図及び畝傍山からの観察による。

※7. 商工業その他の都市的業態に従事する者及びその者と同一世帯に属する者の数が、全人口の6割以上であること。

※8.

	農家戸数	専業農家	兼業農家	兼業化率
新庄	1,165	265	900	77.2%
榎原	3,712	340	3,372	90.8
天理	2,723	1,137	1,586	58.2
桜井	3,514	611	2,903	82.6

左の表のとおり、兼業化率は非常に高く、特に榎原市では90%以上が兼業しており、都市化の波が極めて顕著であるといえる。これは榎原市が大阪との交通便がよく、ほとんどの農家で家族の誰かがサラリーマン

化していることを物語っている。

※9. 昭和43年10月現在人口

大和高田：50,170人 天理：56,268人 榎原：66,085人 桜井：50,658人

※10. 人口1,000人当りの商店数は25.8店(県平均19.5店)。商店密度県下一。

※11. 今井町の人口推移

寛保2年(1742)：3,658 明治15年(1882)：2,446 昭和15年(1940)：3,677

昭和30年(1955)：4,111 昭和43年(1968)：3,829

※12. 生駒町生駒台地区

面積：0.22 Km² 人口：1,368人 人口密度：6,218人/Km² 戸数：353戸

農家戸数：0 商店数：3店

人口約1,400の集落に商店数3戸、結節の役割をはたすものは他にはバス停ぐらいであるから、都市の一部であっても単独の都市集落とはなり得ない。

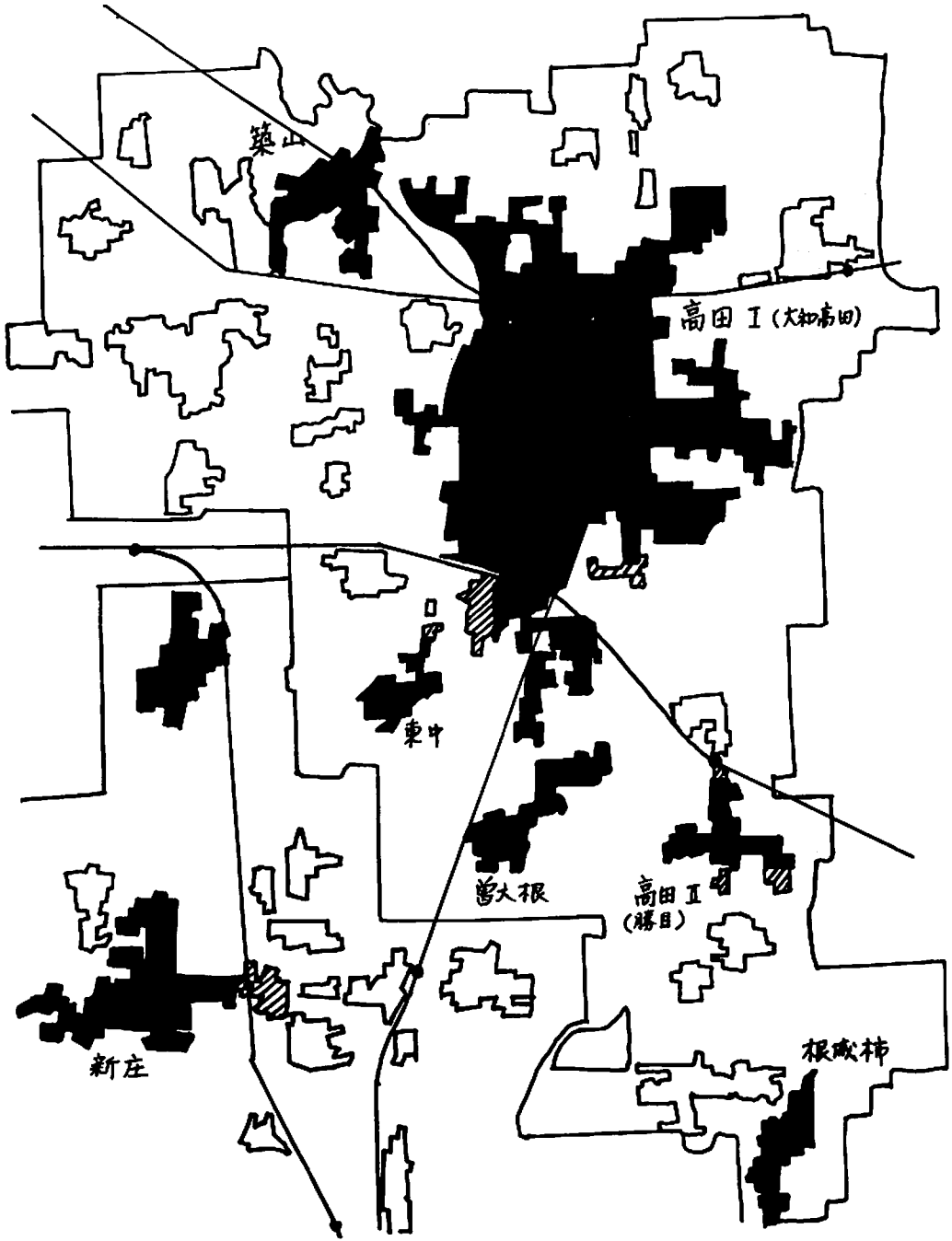
※13. 「…就中、萱野・南は宛然一街くをなし、人家櫛比肆店羅列交通四達物貨輻輳郡内高田町に次ぐの名邑なり…」(北葛城郡史)。昭和2年4月に町制を施行。現在近鉄信貴生駒線箸尾駅から市街地南端まで南北道路に沿って商店街が形成されている。商店の種類にも呉服服地、電気器具、医薬品、時計、化粧品などの専門店があり、都市的景観を見せている。

※14. 農家の減少著しく、兼業農家も約9割弱を占め、農村集落が急速に都市化している地域。靴下製造を中心とした事業所が多く、商業の発達を上まわっている。商店街の形成は不十分であり、販売品目も日用品がほとんど。附近は住宅が増加し、大阪の近郊都市を小型化した景観を呈している。なおこの地区から南へ、ほぼ連続して平尾・安部・大塚へと市街地が存在するが、事業所がこの地区に偏在すること、商店分布がこの地区と平尾・安部・大塚地区に分離して分布すること、さらに旧集落の分布状態も南北に分離している事などによって、疋相地区と平尾地区とで別個の集落として取り扱った。(第6図)

上記以外の参考文献

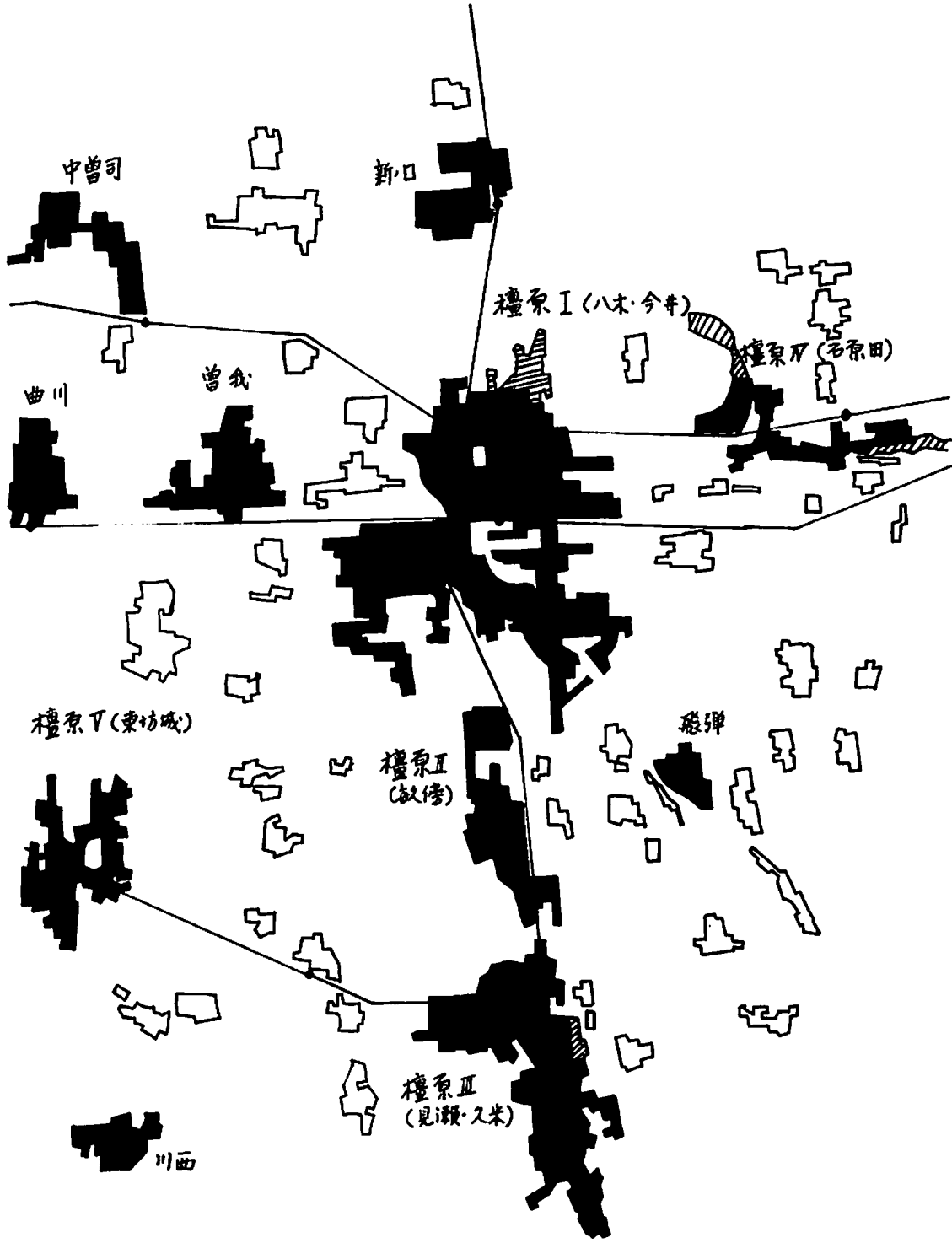
1. 天理市史(天理市史編纂委員会)
2. 広陵町史(広陵町史編纂委員会)
3. 今井町史

(第1圖) 大和高田市・新庄町

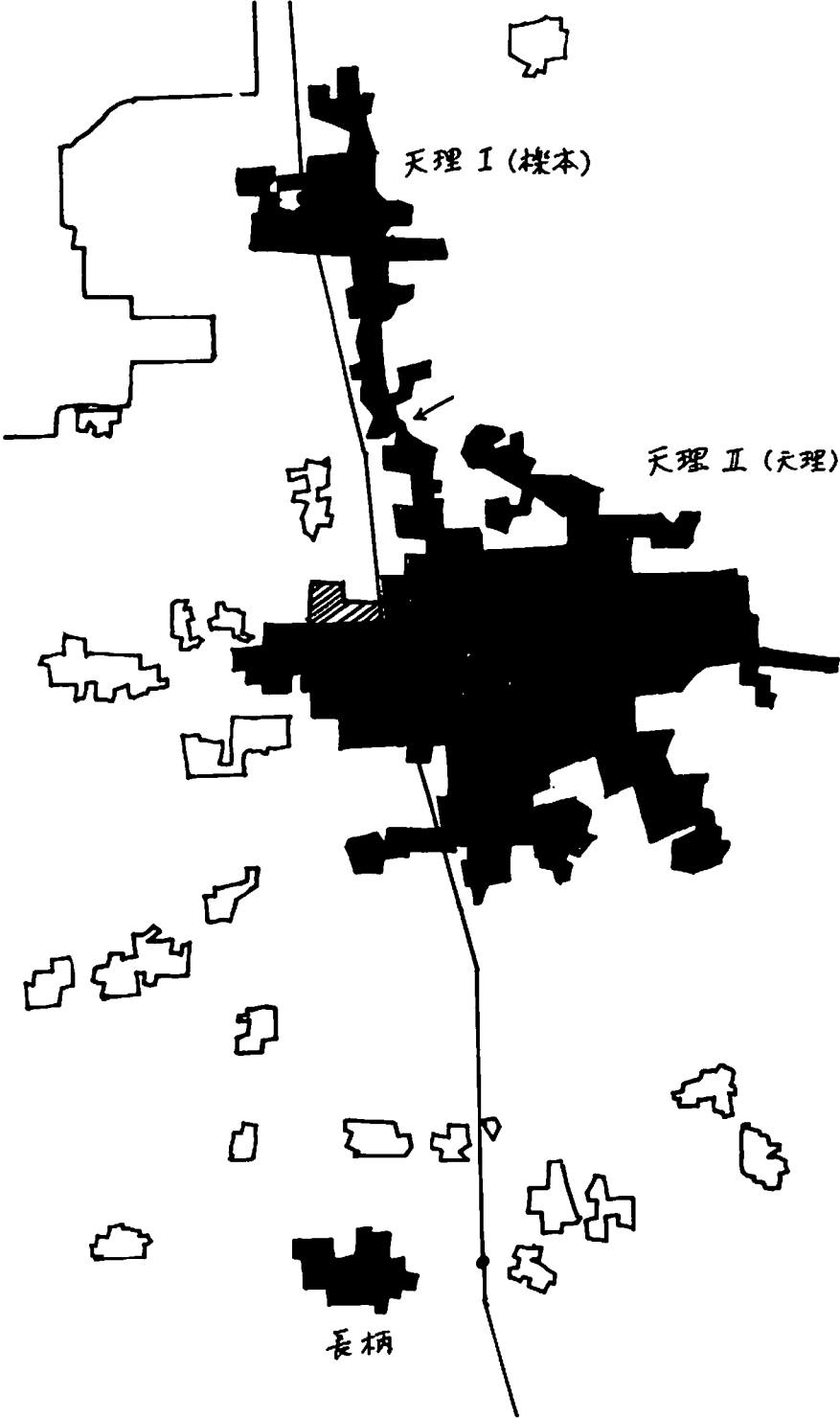


※黒の部分が
人口1,000人以上の市街地

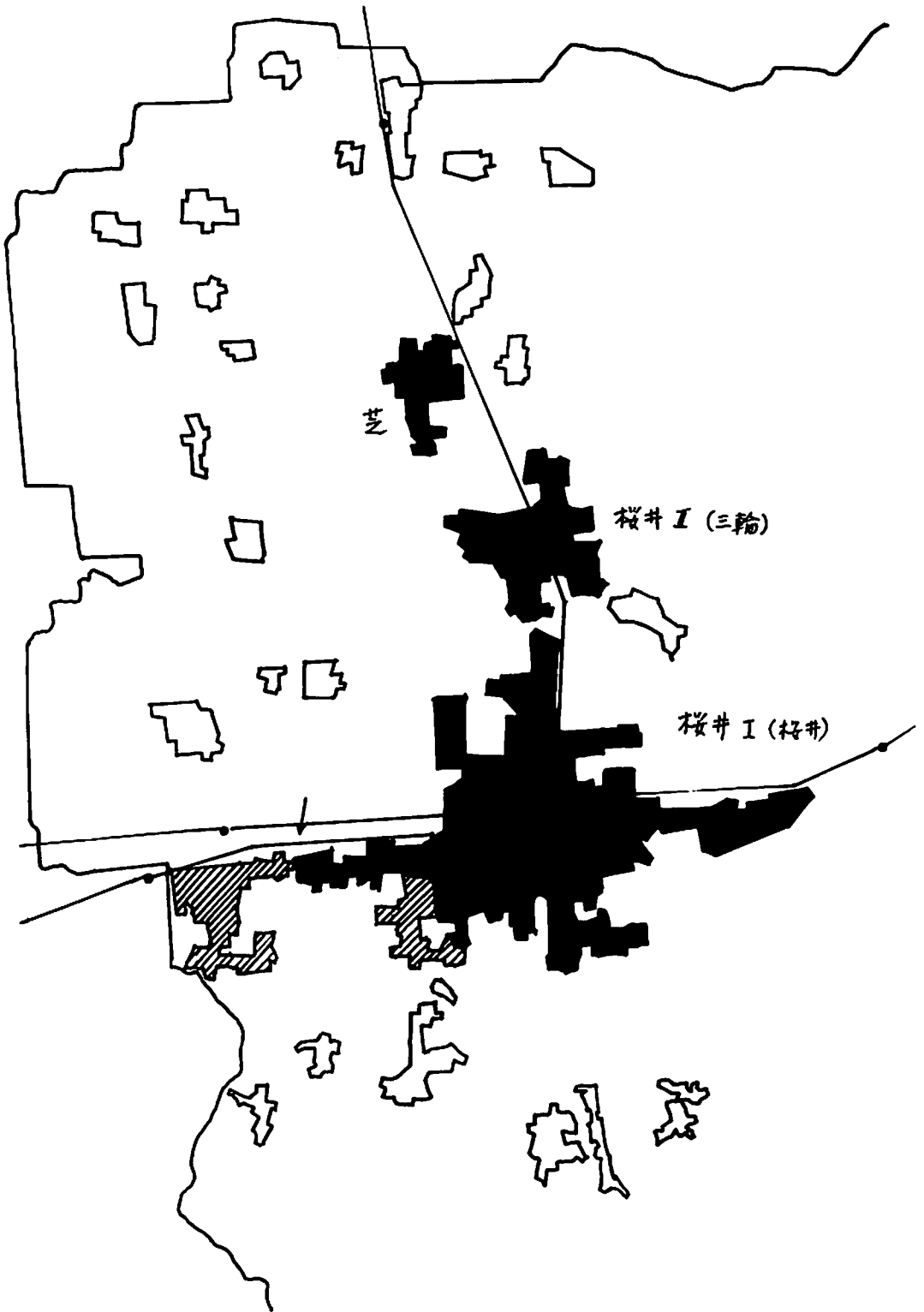
(第2圖) 榎原市



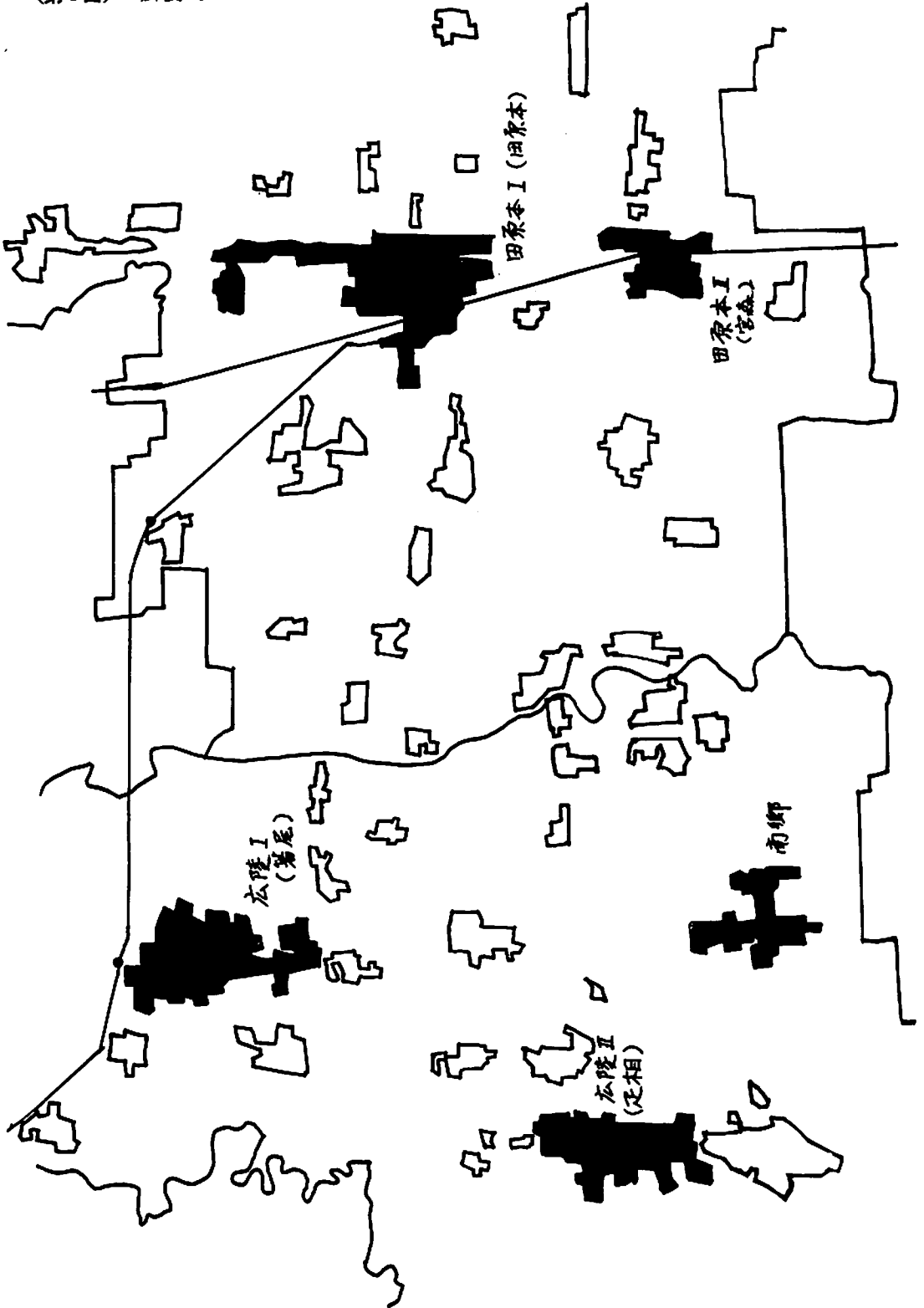
(第3圖) 天理市



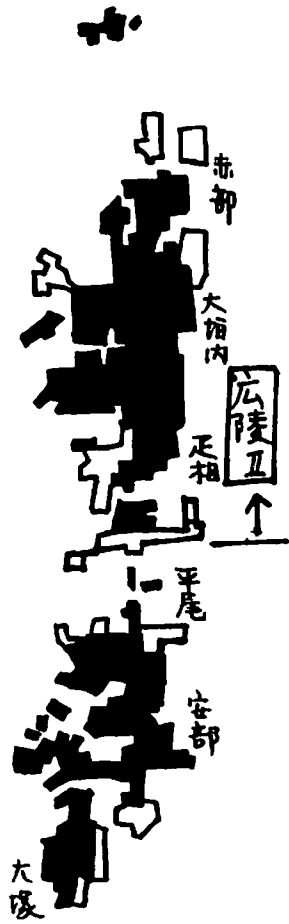
(第4圖) 桜井市



(第5圖) 広陵町・田原本町



(第6图) 广陵町(馬見地区)集落分布



凡例 { 黑—旧集落
白—新設家屋

アラビの乱前後 (下)

帝国主義とエジプト

松村正樹

5 英仏共同覚書とその背景

前述の共同覚書 (Joint Note) の生み出されてくれる事情は、端的に言えば英仏の政治的、経済的利益が、エジプト民族の抵抗によって脅かされようとしたことにあるが、この民族的抵抗のたかまった背後には、社会の各面における半植民地的な状況に対する広汎な憤りがあったことは言うまでもない。

トルコの強大であった時期に、異教徒たるヨーロッパ商人の居住と営業を保護する寛大な恩恵として認められた諸特権 (Capitulation) が、トルコの弱体化とともにその性質を逆転させ、侵略者の治外法権的なものとして拡大された結果、エジプトにおける外人はそれぞれの国家権力をバックに法外な諸特権を享受していた。⁽¹⁾ 1882年当時、外人は家屋税、免許税、印紙税と、関税以外の直接税をすべて免除されていたし、居住の不可侵なる特権は往々にして外人の犯罪や密貿易のかくれみのとして利用された。入港する外国籍の船舶も、当該国の領事の立会を得なければエジプト官憲独自の臨検ができないため、密貿易または禁制品を積んだ船であっても、その国の領事の到着するまで何日でも岸から見張りを続ける他なく、領事が現れれば船は沖へ去り、領事が去ればまた岸に接近し、何度も同じことをくりかえした末に最後には積荷の揚陸に成功するというのが常態であった。また、外人犯罪人が外国人の住居または船舶に逃げこんだ場合、逮捕するには二国の領事の立会が必要であり、犯人が複数で国籍を異にする場合は3人～4人の領事の立会が必要となるから、事実上逮捕は不可能となる。かりに逮捕したとしても、犯人が委ねられるのは自国の領事裁判であるから、無罪ないし微罪として処理されるのが大半であった。

1876年に創設された国際 (混合) 法廷 (International Tribunal, Mixed Tribunal) は、たしかに従来のばらばらな慣習的特権を廃したが、その代りに従来のそれを制度化して保障し強化したものに他ならない。⁽²⁾

なお外人は個人または企業のミスによる損害をも、エジプト政府の行政の落度によると主張してその補償を得ることがしばしばであったし、エジプト政府から高給を食む外人官僚がしだいに増加し、1882年には1,324人、その給与総額は年間行政費の16%を占めていた。⁽³⁾ また、外債利子の重荷に喘ぐエジプトの乏しい予算の中から、ロイター通信のエジプト支局に年1,000ポンド、ヨーロッパ人専用オペラハウスに年9,000ポンドの補助金がむしりとられ、エジプト農民の血税の上にヨーロッパ人のための居心地よき坐席が設定されていた点を見逃すことができない。⁽⁴⁾ そして、これらの広汎な半植民地的状況を裾野にして、その上にそびえ立つもの、それがヨーロッパ債権国によるエジプト財政管理の機構であった。総監督官 (General Controller) 制の起源とその再建についてはすでにふれたが、その同一の軌跡の上に1890年、負債償却国際委員会 (International Commission of Liquidation) が組織され、同委員会が直ちに発布させた負債償却法 (Law of Liquidation) がこの財政管理機構の支柱となった。この法は、エジプトの

歳入を負債償却費(a)と行政費(b)のほぼ等しい額に二分し、前者に後者を完全に従属させたものである。つまり、(a)が不足であればエジプト政府はこれを(b)から補う義務を負い、(b)に余剰が生ずれば(a)がこれを吸収し、逆に(b)が不足しても(a)から補うことは許されず、(a)に余裕が生じた場合もエジプト政府にはこれを(b)にくり入れるため請求する権利がない、という内容のもので、外国債権者の利益を絶対至上の前提としてエジプト財政をそれに隷属させることをその本質としていた。

このような国際高利貸の差押えによって、エジプトは信用の回復とひきかえに、「ヨーロッパの同意なしには、身動きはおろか、呼吸さえ困難な立場」に陥れられたのである。(5) かくて創設当時3人より成る小機関であった負債償却国際委員会は、しだいにエジプト財政を監視する権限をエスカレートさせ、ある程度の立法権すら手におさめて、エジプトの民族と社会の全体を支配しはじめる。その頂点に立つ総監督官は、形式上はエジプト君主に任命される官吏でありながら、債権者利益の強力な代弁者としてその実質的権能の少からざる部面で本国派遣の総領事を凌ぐまでにいたっていた。その意味で、総監督官に権限を集中させたこの委員会の機能と、償却法によるエジプト財政の専断的規制との二つが、エジプトの隷属を保証する車の両輪であったと言える。そして、英仏両国が共同覚書という形でエジプト民族運動に対する威嚇にのり出したのは、軍に支持された新議会在、予算に関する全面的な審議権を要求——それは償却法の廃止を意味する——せんとして総監督官およびそのかいらいの役割を演じる副王、シェリフ首相との対立が不可避となる段階においてであった。

「エジプトの現在のレジームを脅かす内外のあらゆる原因を共同の努力によって排除」する決意をうたったこの覚書(6)の生れてくる外交的過程だけを見れば、フランス——政権の座についたばかりのガンベッタが強力政府を志向し、対外的にも植民地拡大の機会を狙っていた——がイニシャティヴをとり、イギリスはむしろそれにひきずられた観がある。ガンベッタは、フランスを悩ませる北アフリカ(アルジェリア、チュニス)の執拗な回教徒反乱が、エジプトにおける抵抗のたかまりによっていっそう激化することを恐れて、エジプトに対する強圧政策をイギリスに呼びかけ、折から満期になった英仏通商協定の更新を望んでいたイギリスがこれに同調した、(7) というのが恐

く真実に近いと思われる。しかし、フランスに主導権をとることを許したといっても、イギリスにもエジプト内政への不法な干渉を志向する動機が強烈に働きかけていたことは明らかである。そのことは、この覚書の通達が決意される4日前にイギリス外務省に到着し、政府の決断に決定的な拍車をかけたと考えられる総監督官オークランド・コルヴィンのメモランダムによって立証される。(8) コルヴィンは、まず現在のエジプトの運動がその起源において反トルコの、反封建的であり、本質的には国家の福祉を目指す大衆意識の成長であるから、これを頭ごなしに抑圧することは賢明でないとなしているが、次にこの運動は直接の敵(トルコ及びエジプト内のトルコ系支配層)を倒すためにヨーロッパ人の力を借りることが必要な間は、外人に対し慎重な態度を示してきたが、究極的にはヨーロッパ人からも解放されることを望んでおり、その解放の過程でイギリスの占める領分に挑んでくる方向として二つが考えられるという。一つはエジプトを拘束する財政上の諸協定の無視あるいは修正。他は慣行的にエジプトの行政部門に席を占めている外人高給官吏の排除である。前者は現在問題化しつつある新議会の権限に直ちに関連するもので、議会側が要求しようとしている予算審議権がかちとられるならば債権者利益代表たる総監督官の地位は決定的な打撃をこうむる。従来は議会の審議を排除してエジプト政府が予算問題をすべて処理し、総監督官は閣議に列席して効果的な発言をなす権利を有し、かつ閣僚の一人一人とも親密な関係にあったから、エジプト政府の方針を半ば確実に支配できたが、民族主義者を多数含む新議会に対しては何ら影響を及ぼすべき

ルートがなく、また彼等の決定に信をおくことができない。総監督官としては、もはやエジプト財政に対して有効なチェックを行使できなくなる。したがって本国政府は、財政管理体系を侵害する企てに、とりわけ償却法によって保障された債権者の利益をエジプト議会の審議・決定に従属させようとする動きには断乎反対すべきである。なおまた行政部門を埋めるイギリス人官吏は、財政管理方式を維持するための車輪のスポークであるから、これを排除する運動の進行を無為に傍観してはならない。このような理由から、コルヴィンはエジプトの民族運動に「はじめから自らのとどまるべき限度を知らせる」(“It should learn from the first within what limits it must confine itself.”) ことが肝要であると強調している。ここには、共同覚書の成立までの段階ではフランス外交に追随したとはいえ、ガンベッタ失脚によってフランスの対エジプト政策に転換が生じたあと、エジプトへの干渉政策の主導権をにぎり、やがて干渉の「国際化」が不可能とみるや、単独武力干渉にのりだすことになるイギリスの基本的動機と、より一般的には、帝国主義段階における経済と対外政策の緊密な結合が、あからさまに露呈されている。

- (1) ちなみに20世紀のはじめイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オーストリア、オランダ、ポルトガル、スペイン、スウェーデン、デンマーク、ベルギー、ギリシア、アメリカ、ブラジルの諸国がトルコにおいて Capitulation を有していた。A. Milner: *England in Egypt*, 1904, p.38.
- (2) 明治19年に日本が条約改正会議にもち出し、「外人ノ欲心ヲ買ハント欲スル」ものとして国内の猛反撃をうけた裁判管轄条約案は、このエジプトの国際法廷と軌を一にするものであった。
- (3) *Annual Register*, 1882, p.360.
 なお外人官吏の増加とその高給に対する不満はすでに早くから高まっていた。1879年のエジプト軍隊の示威を報告するに当って、イギリス総領事は事件の原因の一つがそれであったと述べている。
 Ward & Gooch: *The Cambridge History of British Foreign Policy*, vol. 3. 1923, p.165.
- (4) このような形でヨーロッパの通信社、新聞社の出先機関がエジプト支配の体制にくみこまれていたことは、各社運営陣とエジプトに対する債権者とのつながりと相まって、エジプトの情勢についての報道を著しく政府側に偏らせ、エジプト民族運動を敵視する論陣をはらせることとなった。ブランドはその代表例として、*タイムズ*とポール・モール・ガセットの二紙をあげている。W.S.Blunt: *Secret History of English Occupation of Egypt*, 1907, p.175, 292.
- (5) Milner: *ibid.* p.52.
- (6) その正文については Cromer: *Modern Egypt*, vol. 1. 1911, p.173f.
- (7) ブランドは「英貨にかけられるフランスの輸入税をすこしばかり安くもらおうという小さな利益のため、通商条約とひきかえにエジプトを売った」として、自国政府をきびしく非難している。Blunt: *ibid.* p.184.
- (8) コルヴィンのメモランダム全文については Cromer: *ibid.* p.173 ~ 182. それが外相グランヴィルに与えた影響については Rothstein: *Egypt's Ruin*, p.153f.

6 武力干渉への道

目を転じて共同覚書がエジプトにまきおこした反響を見ると、それは英仏の意図したところとは逆にエジプトの民族的抵抗をかえって激化させた。それは「スルタンをいっそう背後に追いやり、副王を英仏のより明白なかいらいにし、エジプトをおそかれ早かれ第二のチュニスたらしめる意図を秘めたもの」⁽¹⁾と解されたからである。なかんずく最大の逆効果は、イギリス外交筋がその分断に努めてきたエジプト民族運動のいくつかの派、軍を中心とする急進派、議会に勢力を占める穏健

な改革派、イスラム神学者グループより成るアズハル改革派などを、外圧への憤りと抵抗という線での大同団結に追いやったことにある。プラントが「この時エジプト人ははじめて自分たちが一つであることを意識した」と述べているのは決して誇張に過ぎる表現ではなからう。またヨーロッパからの外圧に抗するにはトルコとの紐帯——英仏はそれを弱めエジプトをトルコから分離させつつ支配下におくことを一貫した政策としていた——を強める他ないという考えから、汎イスラミズムの傾向もたかまった。このような結果を見て、イギリス官辺筋の内部にさえ、政府はコルヴィンの純債権者的見地からの勧告をそのまま採用すべきではなかった、という政府批判を生ぜしめたほどである。(2)

覚書の通達から10日後にあたる1882年1月18日、エジプトの議会は予算審議権の要求をかかげて、外国による財政管理の枠を尊重するシェリフ内閣と副王にたたかいを挑み、2月はじめには同内閣を追いつめて辞職させた。そのあとに、外圧とそれに屈した支配層への全民族的な怒りに支えられて成立したマムッド・サミ内閣こそは、外相一人を除いて他はすべて民族主義者より成り、封建的支配層に対決すると同時に、帝国主義に対し民族的独立を擁護しようとする姿勢をもったエジプト最初の政府であった。そしてアラビが軍を掌握して陸相としてこの内閣に加わっていた。

すでに覚書通達以前の時点でイギリス総領事エドワード・マレットは、エジプト議会の予算審議権に関する要求が「文明的手段」によって抑えきれないなら、武力干渉をも辞すべきでない、という考えを本国外相に宛てて上申ししていたし、(3) 1月末総監督官コルヴィンがプラントに「今が干渉の必要かつ不可避の時である。それをもたらすためにあらゆる努力をするつもりだ。」(4) と語っていることからしても、イギリスの在外交筋と債権者代表が、すでにサミ内閣成立の前から武力干渉の招致に傾いていたことが知れるが、「エジプト人のためのエジプト」を唱える革新内閣の誕生は、彼らの既定のコースを決定的にした。

英仏共同財政管理の体制につらなる外人、総領事、金融業者などは、エジプトに支局ないし通信員をおくロイター、タイムズ、ポール・モール・ガゼット、スタンダード、デイリー・ニューズなどの機能を動員して、エジプトにおけるヨーロッパ権益の危機を訴え、本国政府の強力な介入を求めようとする。

一体、ミサ内閣はどんな悪をなそうとしていたのか？ 英仏の干渉によって意図だけに終わってしまったが、この内閣のとりくもうとした諸改革としては、富裕なトルコ系パシャが農民に課していた賦役労働と彼らによるナイル川水利権独占の廃止、政府管轄の農業銀行の設立などがあり、封建的土地所有の廃棄を掲げることこそなかったが、封建的地主階級の伝統的な特権を解消して農民の利益を保護する政策が志向されていた。それだけならば帝国主義列強にとってとくに危険な政策とは感じられなかったであろう。英仏の利害と根本的に両立しえなかったのは、同内閣が議会の予算審議権を正当なものとしてみとめ、外国による財政監督の桎梏からエジプトを解放せんとし、しかも、ありうべき武力干渉にそなえて軍の増強をはかろうとしたことにある。そして、国内政策においてサミ内閣がその特権を削ろうとしている封建的大地主階級こそが、英仏のエジプトをあやつるためのかいらいに他ならなかった。エジプトにおいても、反封建と反帝国主義のたたかいが一体のものでなければならなかったし、また現に一体であったこと、だからこそ帝国主義がサミ内閣をあらゆる手段に訴えて打倒したのであることが確認できる。

サミ内閣の成立によって、エジプト内部に売弁的政府という足場を失った英仏にとっては、かいらい化した副王テュウフィクと、それをとりまくトルコ、サーカシア系貴族の勢力を楯として、エジプトの新政府、議会、軍、民衆の一体となった抵抗の炎を防ぐ他に道はない。副王と政府・議会

との対立の激化は、4月中旬に発覚したサーカシア陰謀⁽⁵⁾の処理をめぐる問題で拍車をかけられ、エジプトには事実上二つの相対立する政権が存在することとなった。一つは帝国主義勢力と結び、他の一つは広汎なエジプト民衆に支持されている。英仏は、エジプト民族の怒りの中で孤立し、危機に面した副王一派を助けるため、艦隊を派遣することを決定し、それぞれの総領事に「艦隊の到着という有利な機会をつかって、現内閣を罷免させるよう、副王に働きかけられたい。」⁽⁶⁾と指令、5月下旬、アレクサンドリア沖に到着した艦隊の威力を背に、英仏はサミ内閣に挑戦状をつきつけた。その最後通牒は、内閣の総辞職、アラビ他2名の軍部指導者の追放を求める高圧的なもので、サミ内閣は外国の干渉に屈した副王を非難する声明を残して辞職し、事態は一応英仏の期待通りに動くかに思われた。しかしカイロでは即日議会がごぞってアラビの留任を要求し、回教諸宗派の長老、神学者、軍隊、地方首長らが直ちにこれに同調して熱狂的にアラビを支持したため、彼は一種統領的な権力をもつ陸相として復帰し、副王もアラビを推す民族的意志の強さにおされてこれを黙認せざるをえなかった。帝国主義との軍事的衝突の近いことを皮膚で感じていた民衆は、軍隊——そこにもっとも急進的な民族主義勢力があった——を統率する農民出身のアラビに、いわば不屈の民族的抵抗の象徴を見ていたのであろう。アラビの声望は日々たかまり、ドイツ、オーストリア領事にさえ、副王とではなくアラビを交渉相手とするのでなければ解決はありえないという見解を抱かせる⁽⁷⁾ほどの、エジプトを代表する事実上の政権 (de Facto Government) となった。彼は英仏艦隊の攻撃にそなえてアレクサンドリア要塞の強化、防衛陣地の設営を指令し、イギリスがひき出した宗主国トルコからのダーヴィッソ使節団の辞職勧告にも屈することがなかった。艦隊派遣による威圧策だけでは目的を達することのできなかつたイギリスは、この段階にいたって、単なる威嚇の域をこえた武力攻撃以外に、アラビに象徴されるエジプトの民族的抵抗を抑圧する道がないことに思いいたるのであるが、そのための絶好の口実を与えたのが6月11日におこったアレクサンドリア事件である。

アレクサンドリア市は周知のようにエジプトにおけるもっともヨーロッパ化した都市で、貿易、商業などに従事する外人が多数居住し、彼らの特権的でエジプト人を搾取の対象としか見ない行動が回教徒市民の反感的となっていたが、共同党奮、英仏艦隊の威圧、それらの圧力によるサミ民族主義政権の瓦解が市民の反帝国主義感情と、その素朴な表われとしての排外感情をかきたてた。当日市内で生じた騒擾は57人の外人と140人のエジプト人を死傷させ、イギリス領事クックソンに重傷を負わせた。イギリスはエジプトが今や明白な無政府状態に陥ったとして、この事件をアレクサンドリア砲撃とその後の侵略の口実を利用したのである。⁽⁸⁾

(1) Morley, J : Life of Gladstone, vol.3, p.76.

(2) Cromer: *ibid.* p.232f.

(3) マレットよりグランヴィル外相へ。「エジプト議会はおそらく対案をもち出してそれを議決するものと考えられる。我々が議会による予算審議権をあくまで拒否せんとするのなら、武力による干渉が必要であろう。」
Cromer: *ibid.* p.187.

同じく外相宛「小官はエジプト問題の満足な解決が得られる前に、何等かの尖鋭な性質の紛糾が生じないではないと信じる。そして、それを延引させるよりも、それを早める方が明らかに賢明であると考え。」

Hasenclever: *Geschichte Ägyptens im 19 Jahrhundert*, 1917, p.220.

(4) Blunt: *ibid.* p.198.

(5) この陰謀はサミ内閣に対するサーカシア将校団による反革命的クーデター計画であったが、旧陸相オスマン・リフキイを含む40人の将校がアラビ暗殺計画に荷担したかどで軍法会議によりスーダンへの追放を宣告

され、副王がその宣告書に署名を拒否したため、副王と政府および軍主流派との関係が険悪化した。なおイギリス官宦筋はこの事件をアラビ派のでっちあげとみなして、副王の態度を支持した。

(6) Cromer: *ibid.* p.271.

(7) 最終局面においてはフランスさえ、副王を更迭してアラビを交渉相手とする策に傾き、帝国主義陣営内部の見解が大きく分裂した。この局面で開かれたコンスタンチノーブル国際会議が不毛に終わったのもそこに基因する。Blunt: *ibid.* p.276.

(8) アレクサンドリア事件については、当時の状況下における自然発生的なもの、ないしアラビ派による排外煽動の産物とする見方があるが、市長のオマル・ルトフィが親英的な宮廷派貴族で副王とつながっていた点から、オマルが副王と組んで同市にアナキーな状態をつくり出し、アラビを窮地に立たせて解任することをねらった陰謀として演出された、という見方もある。Blunt: *ibid.* p.310f. アラビ一派の煽動によるとなす説については、ハーゼンクレファーは、自分をもっとも強く望んでいた英仏艦隊の撤退と全く逆の結果をもたらすような事件を、アラビが煽動するはずがないとしている。アラビは、この事件後の排外的風潮のたかまりの中で、外人に対する暴行や殺傷に奔ろうとする動きを、軍の統制力によってきびしく抑えている。Hasenclever: *ibid.* p.222, 227.

7 民族の防衛

アレクサンドリア砲撃というむき出しの武力干渉は、イギリスの単独行動としておこなわれた。共同覚書通達という外交劇の舞台裏ではむしろイギリスをリードし、またその段階ではたしかに武力干渉をも計算に入れていたフランスは、ガンベッタ内閣の短命が物語るように政局が安定せず、「議会の協賛をえずに戦争に加わることを禁じている共和国憲法を破ることなしには、かかる行動には参加できない。」⁽¹⁾として、砲撃の前日、艦隊をポート・サイドに移動させた。フランス首相フレネは、エジプトにおける事態の進行を見た上で、副王を更迭しアラビを交渉相手とする解決策ないし国際会議による解決策に傾いていたのであった。これに対して、イギリスが他列強、とくにエジプトに対する従来共同統治 (Joint Control) のパートナーにあたるフランスの離反にもかかわらず、武力干渉路線を固執したのはなぜであったか。一つはエジプトに対するイギリスの投資とそこからあがる利益の大きさであり、第二には「インド帝国」を領有するイギリスにとって、スエズ運河とエジプトの地の帯びる植民地支配の動脈としての重要性がある。それに加えて注目すべき点は、アイルランド問題とエジプト抑圧政策との関連である。グラッドストーン内閣はアイルランド問題に手こずり、それをめぐって閣内に分裂の萌芽が生じていた。1879年に結成されたアイルランド土地同盟の反英斗争が、イギリス議会内のアイルランド自治連盟の国会斗争と結びついて激化し、閣内ではハーチントン、ノースブルックらの自由党右派が、首相の政策がリベラルに過ぎて反英斗争を増長させているとの非難を口にし、アイルランドに土地を所有する階層の世論がそれを支持していたが、内閣はこの動きに引きずられて急速にアイルランド抑圧策に転じてゆく。1882年3月、土地同盟を解散させ、バーネルら指導者を逮捕したことがそのあらわれであった。この抑圧が逆作用として反英斗争を激化させた結果、同年5月はじめ——エジプトではサーカリア陰謀の処理をめぐって英仏・副王とサミ内閣の対立が最後の段階に入っていた——アイルランド事務大臣キャンペンディッシュがダブリンで暗殺されるという事件を生んだ。アイルランドに対する強硬策を要求する世論のつきあげと閣内右派からの攻撃にさらされたグラッドストーンは、総辞職か徹底的抑圧策かの二者択一を迫られ、ついに保守党とかわりない帝国主義の道をえらんだのであるが、この

転針がエジプトに対する武力干渉策の決定に大きな影響を与えたことは疑えない。セボイ大反乱の記憶がなまなましく残っている時点で、イギリスは、インドにおけるその再発を警戒しつつ、アイルランドとエジプトの両地域で、大英帝国の足場をほり崩そうとする民族的抵抗に直面していた。この両民族の抵抗の一方の勝利が他方を大きく力づけてイギリスを危機に直面させる関係にある以上、一方に対する強硬抑圧策の採用は、同時に他方に対する露骨な暴圧とならずにはいかなかったのである。そして当時イギリスでは、エジプトの反英運動と結びついて、西アジアからインドにかけて、セボイの乱を上まわる汎イスラム的反乱がおこるのではないかとの不安がきかたてられ、それがエジプトへの武力干渉を促進する世論操作に無視できぬ役割を果たしたことを、プラントは伝えている。(2)

さて、イギリス艦隊の司令官シーモアが本国政府に砲撃許可を請願したのは、アレクサンドリア沿岸の防備が強化されているから、という驚くべき理由からであった。艦隊を派遣し砲口を向けて威圧し、それに対して防衛のための備えを強化したからといって武力攻撃を加える。そこには軍事力の優越を背にした帝国主義国の鉄面皮さがいかに表現されている。エジプト側では、難産のうちに発足したラゲブ内閣においてふたたび陸相となったアラビが、満場一致で英仏の最後通牒拒否を決定した議会に支持されて、防衛陣地の強化と予備役の召集を指令し、侵略を受けた場合の防衛・反撃体制の確立を急いでいたが、砲台から目撃の間にある艦隊に対するエジプト軍からの攻撃は全くなかったのである。にもかかわらず、7月11日、イギリス艦隊——装甲艦8、砲艦5、砲102門——のいっせいの砲撃が開始され、炎上したアレクサンドリア市に続々とイギリス陸軍が上陸した。侵略軍は最終的には40,560の兵力に達したが、その中にベンガル、ボンベイより急派されたインド兵士7,000人以上がふくまれていたことは、帝国主義の国際的環境の中で植民地人民が他の植民地、従属国を抑圧する道具として使われる——アジア人をしてアジア人と戦わせる——一つの典型的なケースを呈示している。

イギリスによる侵略の成功は、軍事力の優越のみによるものではなかった。インドその他での植民地支配、反乱の鎮定の経験から引き出したあらゆる巧妙な策謀がここでもくりひろげられた。その一つは副王テウフィックを通じてのエジプト反英勢力のきり崩し工作であり、これは軍内部ではサーカシア士官層に働きかけて反アラビ派を結集させるとともに、議会議長スルタン・パシャ——英仏艦隊派遣のころから副王派に転身し、のちイギリスからナイトの称号をうけた——を通じて文官層と議員のイギリス側への抱きこみに力を尽した。しかも買収に用いた貨幣の大部分がセント・ジョージ・ボンド金貨の偽造物で、エジプト敗北のあとその回収が急がれたというに至っては、もはや形容すべき言葉もない。他の一つは、莫大な工作資金を携えてペドウィン族を買収し、エジプトに敵対させるために潜入したといわれるバルマー・ミッションである。(3)

なお、7月末英軍占領下のアレクサンドリアに到着したレセップスは、交戦中のイギリス、エジプトの双方に対し、スエズ運河の中立を尊重されたいとの申し入れをおこない、アラビは、英軍のイスマイリア上陸を阻止するには運河の封鎖が軍事的見地から絶対に必要であるという、軍の一致した見解を抑えて、レセップスの申し入れに応じている。この点に国際的信義を尊重するモラルの高さを見ることができよう。エジプト側の不安に対して、レセップスはイギリス軍の作戦に運河を利用させないことを確約しながら、結局ウォルズレー揮下の英軍の運河通過とその方面からの上陸を既成事実としてイギリスに押しきられ、それがエジプト軍の戦略に決定的な打撃を与えることになったのである。(4)

最後にイギリスのとった帝国主義的な政策として、エジプトの名目上の支配者たる副王をイギリ

ス側に亡命させることに成功した点をあげねばならない。叛徒からの保護という名目で君主を説得しないしは強制して侵略者の側にひきこみ、その君主の要請や同意があったことをもって侵略の不法性を蔽いかくすのは帝国主義の常套的なマナーである。副王テウフィックは、アレクサンドリア砲撃の前日までは政府と議会、そしてエジプト全土の外圧への抵抗を叫ぶ世論にとりまかれて、防衛体制の樹立と抗戦を是認し命令せざるをえなかったが、砲撃の結果をみてイギリスの保護下に奔り、抗戦の停止、アラビの解任、イギリスへの屈服をエジプト人民に向けて命令した。しかし議会は民族を裏切った君主の即時廃位を決議し、英軍に奔って以後の副王の発する命令をすべて無効とし、副王なきエジプト——それは事実上の戦時共和国であった——の行政と戦争指導のための最高機関として、カイロに総評議会（非常委員会）を設けたのである。この委員会は、シェイク・エル・イスラムをはじめ宗教界の長老、イスラム四教派の代表、コプト派キリスト教の長老など宗教関係を代表する人々と、地方総督、名士（Notables）、議員、軍代表、さらには少数ながら抗戦派のサーカシア系貴族、4人の王族までを含むもので、あらゆる社会的階層、宗教的立場を代表する抗戦派勢力の結集体であり、⁽⁵⁾ まさに全民族的な性格をもつ抵抗指導組織であった。そして委員会の下には民政各部と国防会議が設置され、前者は英軍に抑留されているラゲブ内閣の閣僚に代って行政を、後者は徹底抗戦の線での戦争指導をその分掌とした。アラビの地位と権限も、この組織に基礎づけられ、この組織の全額的支持を前提とするもので、イギリスの政府、外務省がアラビ一派に煽動された軍隊だけの反乱だという印象を国民にやきつけようと躍起になったにもかかわらず、エジプトの抵抗のもつ全民族的性格を否定することはできない。⁽⁶⁾ 軍はただ民族的抵抗の前衛の役割を果たしたに過ぎぬ、と言っても過言ではないだろう。

したがって、この民族防衛のたたかひの挫折・敗北を軍事力の劣勢だけで説明することはできない。副王、サーカシア系貴族＝大地主階級という内部の封建的要素が外部の帝国主義と結合して、侵略を招きよせる足場となったこと、また戦局の不利となるにつれて抗戦派内部にも動揺と分裂が生じ、イギリスの撓乱工作の乗ずるところとなったこと、またベドウイン族などの部族的な反目を利用してエジプトのたたかひを周囲のイスラム世界から孤立させるイギリスの工作が、ある程度効果を奏したことなど、エジプト社会自体のもつ矛盾が帝国主義の外圧とともに表面化している。また、このたたかひを底辺で支えた農民のエネルギーが、地縁的な共同体の契縛によって十分に結集できず、大衆的な抵抗の組織づくりがカイロ、アレクサンドリアなどの大都市でしか実現しなかった点にも限界があった。

アレクサンドリア撤退後カフル・ダワルに築かれた防衛線も英軍のスエズからの上陸によって脅かされ、新しい防衛線がテル・エル・ケビルに築かれたが、カサッシンでの敗北後エジプト軍は完全な混乱状態に陥り、9月13日未明テル・エル・ケビルの決戦に敗れ、翌14日、軍事委員会はついに降伏を決定せざるをえなかった。アレクサンドリア砲撃開始以来ほぼ2か月の抗戦ののち、民族防衛の戦いは帝国主義の軍靴に屈したのである。

(1) Morley: *ibid.* p. 81.

(2) Blunt: *ibid.* p. 348.

(3) パルマーはケンブリッジの東方語教授でアラビア語に通曉していた。この一行3人が殺害されると、イギリス政府は遺族の申し立てに対してパルマーとの関係を否認するのに懸命であった。

(4) レセップスは英軍のスエズ上陸を「運河の中立性に対する明白な侵害」として非難はしたが、あとの祭りであった。ジョンフィールド：スエズ運河、邦訳・p. 67.

(5) Blunt: *ibid.* p. 383.

(6) その意味で「アラビの乱」という呼称は、指導者の個人的要素を誇張して、この反乱の全民族的性格を見誤らせるおそれがあり適当ではない。

8 いわゆる「アラビの乱」の意義

1873年からヨーロッパを襲った長期の経済恐慌は産業資本主義段階の最後の恐慌であり、世界的に独占資本主義段階への移行の起点をなすものであったが、その過程の中でイギリスの「世界の工場」としての地位が大きく動揺し、転落する。その事態を根にした危機意識がディズレイリをしてスエズ運河株の大量買入れにふみきらせた基本的動因であったし、⁽¹⁾ やがてグラッドストンを「自由主義」から植民地抑圧策に沈みこませる錘力でもあった。そしてまた、長期の不況の中で投下部門を見出しえない遊休資本の海外進出への要求が、イギリスを「世界の債権国」に変貌させて行こうとする。他国にさきがけて成熟し、したがって他国に先んじて矛盾を発現させたイギリスの「危機」意識は、資本主義体制の矛盾の進行を自国の国家的危機としてとらえたものに他ならなかったが、この危機をきりぬけるべくイギリスのとった領土拡張と植民地・従属国人民に対する抑圧は、同時に成熟の段階を異にする資本主義諸国によって構成される世界を、いやおうなしに帝国主義の時代にくみこんでゆく国際的要因として働いた。

すでに1875年のスエズ運河株買入れにおいて、ロスチャイルド財閥の志向とディズレイリの「大英帝国」的視野からの世界政策との癒着・結合という帝国主義政策の側面を見るのだが、その政策の背後に働いていた要因はその後のイギリスのエジプト政策の基調となり、それを脅かす「エジプト人のためのエジプト」を目ざす運動に対する暴圧をもたらしたのである。エジプト侵略にあたって帝国主義的な世論（シンゴイズム）をかきたてた諸新聞は金融資本の掌中であつたし、帝国主義的な武力干渉とエジプト占領を強行する点で、政府、金融資本、ジャーナリズムの完全な三位一体関係が成立しているのを見ることができる。⁽²⁾

フランスについても、スエズ運河に占める地位と、投資されているフランス資本の安全という見地からエジプトに対する帝国主義的関心が強く、ガンベッタに代表される強硬派は、北アフリカ植民地における反仏抵抗とつらなりそれを刺激するものとしてエジプトの民族的抵抗を抑圧する方向をうち出していたが、普仏戦争敗北後のヨーロッパ政情の中で、昨日はチュニス今日はエジプトへと軍を釘づけにすることがビスマルクを利することを警戒する意見が議会の大勢を制したため、最後の段階でイギリスの誘いを拒んだに過ぎない。そしてその時以来、フランスはエジプトにおける地歩を失い、エジプトは英仏共同支配下の従属国からイギリスの単独支配下の植民地となる運命をもった。イギリスの得たものに対する嫉視と自国の失ったものにかりたてられた焦慮が、フランスのスーダンへの進出計画を生み出させ、アフリカにおける英仏間の帝国主義的対立のピークであるファッシュダ事件を招来したことは周知の事に属する。ドイツ、オーストリア、イタリアの諸国も、イギリスのエジプト出兵にそれぞれ不満をもちながらも、表立った反対は表明しなかった。その限りでは帝国主義の世界体制内の矛盾はまだ大きくはない。それは、彼らの分割すべき土地がまだ広く残っていたことによる。しかし、たとえばビスマルクのドイツがイギリスの出兵を黙認する立場を自分になっとくさせる理由とした「ヨーロッパ協調」＝帝国主義列強間の平和保障そのものが、ドイツ資本主義を早熟的に発展させ、イギリスに追いつき追いこすためのものであり、やがてドイツ自体の独占資本主義が植民地を要求して英仏と対立する必然性をすでに蔵していたことを考えれば、帝国主義世界体制の国際的な矛盾は外交上の平穏さの底で確実に進行していたのである。

イギリスがエジプト出兵を「国際化」することにつとめたにもかかわらず失敗に終り、ソールズベリーをして「ヨーロッパ協調は一つの幻想でしかなかった」と嘆かせた⁽³⁾という事態が、帝国主義世界体制内部の対立を微妙なニュアンスで伝えている。ベルリン会議以後のツァーリズム・ロシアと英仏独奥との対立にいたっては今さら言うまでもない。

一方植民地・従属国の人民の立場からは、1870～80年代は民族解放斗争の一段と激化する時期に当たっている。「帝国主義の時代には、植民地・従属国における革命的危機が尖鋭化し、反帝国主義動乱、反帝国主義解放戦争の要因が増加する。」⁽⁴⁾すでにふれたように、チュニス、アルジェリアの反仏抵抗がエジプトの反英抵抗とつながっていたし、アイルランド人民の独立を目ざすたたかいがイギリスのエジプト抑圧の力に分散を強いるものとしてあった。エジプトの民族防衛戦争と前後して、アフガニスタンの反英斗争、アンナン国軍のフランスとの戦、清仏戦争、さらにエジプト占領後のイギリスを苦しめたマーディの乱がある。帝国主義世界体制を打破しようとする勢力がアジア・アフリカの各地でたたかいて立ち上っており、しかも、きびしい条件に制約されながら、被抑圧民族相互あるいはヨーロッパの反帝国主義の立場にある人々との連帯への志向が育ちつつあった。

イタリア政府がイギリスの顔色を窺っている時に、晩年のガルバルディが義勇軍を募ってアラビを援助しようとしたこと、ブラント、ブロードレイ、マーク・ネイビア、バットンらのイギリス人、スイス人ニネーらがエジプト人民の側に身をおいて、侵略に反対する世論の喚起や、アラビらの裁判における弁護に奔走したことなどが、帝国主義に敵対する力の国際的つながりを示している。ただブラントらの行動には、その善意と熱烈な正義感にもかかわらず、そこに一定の限界のあったことは否めない。その抗議行動は、大新聞に記事を送る、グラッドストーン首相に公開質問状を送る、政界上層部に働きかけるなどのルートに限られ、大衆的な抗議運動を組織することが全く欠落していたからである。このような自由党左派的な立場からの帝国主義批判は、エジプト出兵策に抗議して大臣の職を辞したジョン・ブライトのそれをふくめて、それなりの意味はもつにしても、帝国主義に大きな打撃を与えることはできない。⁽⁵⁾ その点で痛切に感じられるのは、当時のイギリスの労働者階級が経済主義・組合主義的な指導にあみこまれ、帝国主義への、そして自国の帝国主義の抑圧下にある諸民族の主権についての正しい観点をもちえず、政府や債権者勢力の誘導するシンゴイズムへの道を断乎として拒否することができなかった点、さらにヨーロッパ全体の労働運動が第1インターナショナルと第2インターナショナルの間の谷間の時期にあって、国際的連帯が弱められていた点とである。そのため1882年にはイギリスをはじめヨーロッパ諸国の中で、大衆の基盤をもった組織的な反戦運動のたかまった国は一つもなかった。

それでは、このような国際的条件のとりまく中でたたかわれそして挫折したエジプトの民族防衛戦争は、いかなる性格と意義をもつものであったか。それはまず、広汎な大衆の基盤に立ったエジプト最初の反帝国主義民族解放斗争であったということである。英仏の武力干渉の危機が強まったころ、カイロ、アレクサンドリアの市中やアズハル大学では大衆集会や抗議・署名運動がしばしば組織され、英仏艦隊の撤退要求、最後通牒拒否が決議され、運動を組織するためのオルグが各地に派遣されている。侵略者の立場にあるクローマーでさえみとめざるをえなかったように、それは「単なる軍隊反乱以上のもの」⁽⁶⁾、民族的規模での反帝国主義運動であった。

つぎにこの反帝国主義のたたかいがエジプト内部での反封建のたたかいと分ちがたく結びついてきた点に注目する必要がある。いくつかの事例をあげるまでもなく、19世紀における民族防衛・解放のたたかいは、「近代」をその侵略のエネルギーとする帝国主義勢力に対抗するに際して、封建的王朝にひきいられたり、あるいはそれを民族的抵抗のシンボルとして借りることが多かった。と

ころがエジプトではむしろ国内での封建的王朝と特権的大地主階級に対するたたかいが進行してゆく中で、封建的支配者の果たしている帝国主義のかいらい・収奪管としての役割が民衆の目に明らかにされ、反副王・反サーカシアという立憲民主化斗争がまさに成功しようとする。それが同時に列強による支配の危機を意味し、副王の失墜した権威のたて直しを助けるという形で列強の武力介入が現実化する。その意味で反封建＝反帝国主義、換言すれば民族民主革命の性格を終始もちつづけたことが大きな特質であった。⁽⁷⁾ これには、エジプトがアジアの中で地理的にもっともヨーロッパに近く、東アジアの安南・中国・朝鮮などのような鎖国体制を経験せず、古くからヨーロッパ勢力が進出して、封建的王朝の従属化・かいらい化が早くから進んでいたことが関係しているのではあるまいか。

さて、この民族防衛戦争とそれにいたるまでの立憲民主化運動を指導した階級・勢力は何であったのか。それを端的に知るには、明確に反王朝・反帝国主義の態度をうち出した最初の国民党内閣、すなわちサミ内閣と、抗戦中に設立された総評議会（非常委員会）の階級的構成を見るのが近道であろう。マームッド・ベイ・サミはサーカシア系の貴族出身で、シェリフ内閣、リアズ内閣の閣僚を歴任した身でありながら、改革派としての立場を一貫し、その立憲改革路線が列強の干渉を招くにいたっても民族的立場を堅持して妥協しなかった。プラントは彼をもってエジプト最高の知性を代表する人物とし、「革命に加わった他のだれよりも失うべきものを多くもっていたが故に、その政治的節操に彼はだれにもまして高い値を支払っていた」⁽⁸⁾と評している。そして彼を首班とする内閣は、彼自身に代表されるようなサーカシア系改革派貴族と、アラビに代表される小地主層出身の軍の指導者、改革派中小官僚の混成であった。

一方、非常委員会の方も、やはり少数の抗戦派の貴族をふくみながら、主導権をにぎったのは軍のアラブ士官、宗教界代表、官吏など、農村のシェイク、小地主層を階級的基盤とする人々であった。この階級は村落共同体の中で一般農民（ファッラーフ）との結びつきが強く、また農民的要素を色濃く残している都市・農村の労働者、小商人、職人の階層に対しても高い指導性をもっていたと考えられる。もちろんこの指導性・権威にはいくつかの限定が必要であり、農村の共同体的規制を基礎にしている点では、資本主義的生産関係が発展して共同体的規制の解体が進めば、一般農民、とくに彼らの土地を耕す零細分益小作農や無土地農民（日傭い農業労働者）との対立関係をさけることのできないことが予想されるものである。⁽⁹⁾ しかしこのような限界をもちながらも、先にふれたようにこの小地主層は、外来のトルコ・サーカシア系の特権的大地主に対し一般農民をひきいて対峙するという点で、エジプト生えぬきの民族的・土着的農村勢力の性格を強くもち、この階層から送り出された多くの人物が軍隊における士官、宗教界におけるウレマ、シェイク、中下級官僚として、民族的運動を指導できる地歩を築いていた。彼らの階層は、帝国主義の侵略によるエジプトの荒廃がなければ、やがては土着的民族資本に転化してゆくべきものであったと見られないであろうか。そうだとすれば、1882年のエジプトの民族防衛戦争＝革命は、農民をにない手とする反帝国主義斗争でありながら、そこから民族ブルジョアジーの指導する反帝国主義斗争へ移行するいとぐちをふくんでいた、という位置づけが許されることになる。そしてこのたたかひの反封建・反帝国主義という課題は第二次大戦後のナセル革命によって不充分ながら達成されるまで、エジプトの近現代史をつらぬく基本的なモチーフとして追求されてゆくのである。その意味から、ナセル革命とその後のエジプトの進路を考察する上にも、1882年のたたかひが単なる回顧的な視角からでなしに、より精密に究明されるべきであろう。

(1) 「運河株買入れによって電気をかけられた1875年以後のイギリスは、それ以前のイギリスとは全く別の

- ものであった。」 Jenks: *The Migration of British Capital to 1875*, 1925, p.326.
- (2) 入江謙次郎: *独占資本イギリスへの道*, 1962, p.185.
 - (3) Cromer: *ibid.* p.291.
 - (4) レーニン: *帝国主義論*, 宇高沢 p.200.
 - (5) このようなブランドらの限界は、戦後のアラビ裁判に際して死刑の阻止とひきかえに反逆罪によるセイロンへの追放をみとめるという妥協しかかちとれなかったことにも現われている。Blunt: *ibid.* p.474f.
 - (6) Cromer: *ibid.* p.324.
 - (7) 毛里: *前掲論文*, p.21.
 - (8) Blunt: *ibid.* p.141.
 - (9) この階層が「民族の血と信仰の観念を肥大化させることによってようやく指導性をかちえた」と規定されるのも、その階層としての二重性格、指導層としての限界を否定できないからである。中岡三益: *帝国主義とアラブ社会の変容*, 岩波講座世界歴史、近代9, 1969, p.222.

高校における変換を軸とした 図形指導について(その2)

数 学 科

笠野卓夫・木村雅吉・岡田セイ子
玖村由紀夫・木村維男

ま え が き

昨年「高校における変換を軸とした図形指導について」(その1)を研究紀要に発表した。その後数学科で授業をおこない指導内容を検討することを決めた。実践の場でいくつかの内容不足や補充問題の必要性をかかえ、それに対する適切な指導と項目の検討に目標をおいて研究を続けてきた。実践の効果を見るためテスト等の評価と内容の変更を今年度の紀要に発表するが、引き続き今後指導と研究を継続する予定である。

1 研 究 目 標

昨年から、変換という新しい観点に立ち、既習の図形教材をもとにして、次のような目標に向けて研究を進めて来た。

- (1) いままで学習して来た空間や幾何学の特徴を簡潔にとらえる。
- (2) 広い見方でいままでと違った空間や幾何学のあることを認識させる。
- (3) それぞれの変換としての位置づけを理解させ、今後の空間や幾何学への発展への足がかりとする。

2 研 究 方 法

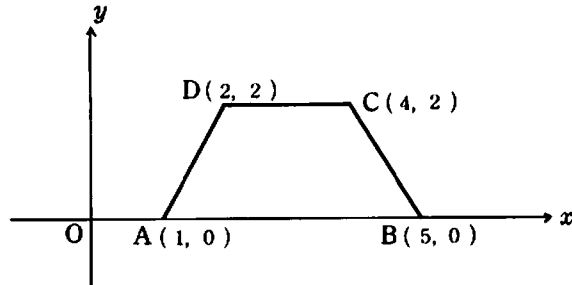
- (1) 2年生について 数ⅡB終了後、2月中旬より約7時間で、昨年度、研究紀要にのせた(その1)の内容をテキストとして授業をした。
- (2) 授業後に変換の理解度を見るため下記のようなテスト(45分間)を3月12日に実施した。
- (3) テストの評価とその結果の考察をし、あわせて授業についての反省をした。
- (4) 次期指導のためテキストに小問、練習問題等を補い、説明を一部あらためた。

3 テスト内容

(1) 次の各要素は何変換によって不変であるか。

- ① 線分の中点 ② 面積 ③ 垂直関係 ④ 平行関係

(2) アフィン変換 $\begin{cases} x' = 2x - 3y \\ y' = x + 4y - 2 \end{cases}$ によって等脚台形 ABCD が移る図をかけ。

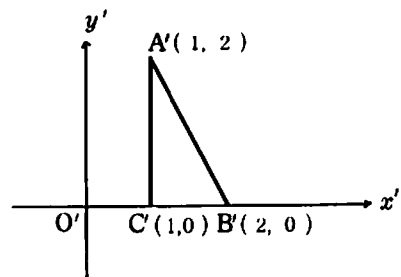
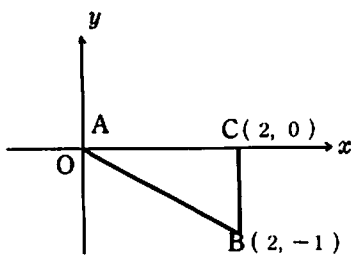


(3) 点 (a, b) を原点のまわりに 45° 回転するとどんな点に移るか、その点の座標をかけ。

(4) 点 (a, b) を原点を通り x 軸に 30° の傾きをなす直線について対称移動するとどんな点に移るか、その点の座標をかけ。

(5) $\triangle ABC$ を $\triangle A'B'C'$ に移す合同変換の式を求めよ。

ただし、 $A(0, 0)$, $B(2, -1)$, $C(2, 0)$, $A'(1, 2)$, $B'(2, 0)$, $C'(1, 0)$ とする。



(6) 線分 ℓ を線分 ℓ' に移す相似変換式を求めよ。ただし、 ℓ の両端の座標は $(1, 0)$ と $(0, 2)$, ℓ' の両端の座標は $(3, -1)$, と $(2, 6)$ とする。

また、この変換によって線分の長さは何倍になるか。

4 テストの結果 (受験者) 男子 71名, 女子 23名, 計 94名

問題	正答率	主な誤答例
(1)	① 76%	○合同変換 相似変換 (12%)
	② 93%	
	③ 90%	○アフィン変換 合同変換
	④ 89%	○合同変換 相似変換
(2)	93%	○四点中一点を計算まちがい
(3)	86%	○計算まちがい (5%) ○公式のまちがい ○座標の回転としている
(4)	30%	○対称移動式 $\begin{cases} x' = x \cos \theta + y \sin \theta \\ y' = x \sin \theta - y \cos \theta \end{cases}$ $\theta = 30^\circ$ として利用したもの (45%) ○公式のまちがい (12%)
(5)	60%	○計算まちがい (18%) ○対称移動の式に $\theta = -45^\circ$ を用いたもの (5%) ○回転の中心をまちがっているもの (6%)
(6)	0%	○相似変換式 $\begin{cases} x' = \alpha x - \beta y + c_1 \\ y' = \beta x + \alpha y + c_2 \end{cases}$ $\begin{cases} x' = \alpha x + \beta y + c_1 \\ y' = -\beta x + \alpha y + c_2 \end{cases}$ を利用しているもの (40%) ○一般式 $\begin{cases} x' = a_1 x + b_1 y + c_1 \\ y' = a_2 x + b_2 y + c_2 \end{cases}$ $a_1^2 + a_2^2 = b_1^2 + b_2^2$ を利用したもの $a_1 b_1 + a_2 b_2 = 0$ の (38%) ○2つ正解したもの (9%) ○1つ正解したもの (20%)
	70%	計算まちがい (9%)

5 考 察

時間的な余裕がなかったため、テスト等に出題された問題の扱いが不十分であった。その為、各変換の内容が消化されず十分に理解されていない。教式の取扱いをもっと複素数ベクトルに関連させて応用する余地が考えられる。したがって各変換毎に例題、小問を設け、理解力、応用力を養う必要がある。

各問毎の反省から、今後の指導の重点についてまとめてみると、

- (1) 変換の包含関係と幾何学的内容の関係
- (2) 点、線、領域の変換についての理解
- (3) 複素数、ベクトル、三角関数との関連
- (4) 公式の利用とその徹底
- (5) 運動から変換への導入と公式の利用
- (6) 変換式の内容の把握

(次のページ以後は、昨年度研究紀要にのせた(その1)の内容に問題を補充し、また説明の一部を書きあらためたものである。)

変換

1 図形と数式の対応

図形の性質を代数的に学習する一方法として図形を点の集合と考え、その点に対して、数又は順序をもった数の組を対応させることを考える。そのためには座標系が導入されなければならない。



まず基本的な図形である直線について、直線のある条件をもった点 (x, y) の集合と考え、その条件を数式 (一次方程式) で与えることにする。

直線 $\longleftrightarrow ax + by + c = 0$

一般の図形について、その図形のある条件をもった点 (x, y) の集合と考え、その条件を点の集合である関係式として数式で表わすことが出来る。

図形 \longleftrightarrow 数式 (座標の関係式)

2 図形の運動と変換

こうして数式で表わされた図形について、個々の図形の性質をしらべるために図形相互の位置関係が大切な要素と考えられる。即ち一つの図形を他の位置へ移すことである。これらの移動については、既に学習した次の

- (1) 平行移動 (2) 回転移動 (3) 対称移動

の三通りがあげられ、任意の移動はこれら3つの組み合わせとして考えることができる。

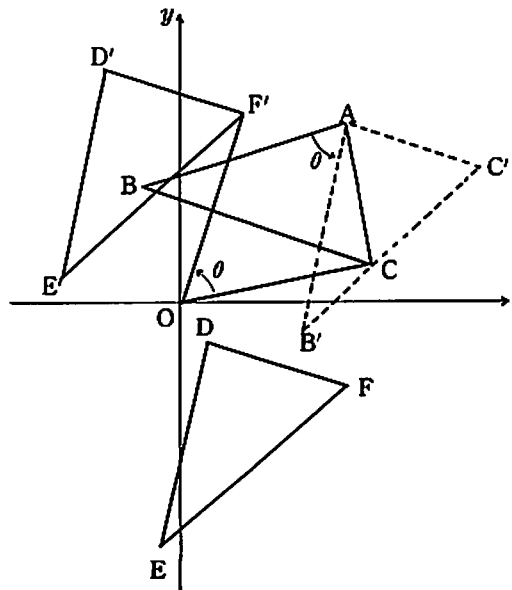
[例題] 図形の任意の運動は、(i) 原点を中心とする回転と平行移動 または (ii) 原点を通る直線を軸とする対称移動と平行移動によって示されることを説明せよ。

[解]

- (i) 同じ向きに合同な二つの三角形 $\triangle ABC$ と、 $\triangle DEF$ が任意の位置にある。

Aを通り、DEに平行に AB' をひき、 $\angle BAB' = \theta$ とする。

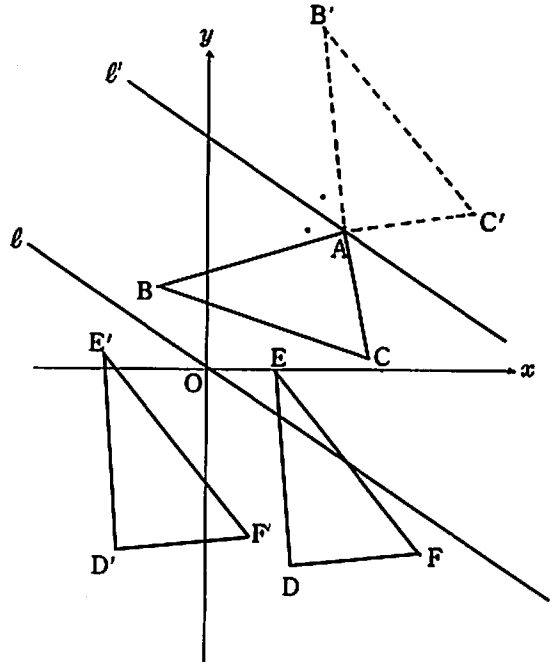
Oを中心として $\triangle ABC$ を θ だけ回転して $\triangle D'E'F'$ とすると、 $\triangle D'E'F'$ と、 $\triangle DEF$ とは各辺平行となり、 $\triangle D'E'F'$ を平行移動して $\triangle DEF$ に重ねることができる。



(ii) 裏向きに合同な二つの三角形 $\triangle ABC$ と $\triangle DEF$ が任意の位置にある。

Aを通り、DEに平行に AB' をひき、 $\angle BAB'$ の二等分線 ℓ' をひく。

Oを通り、 ℓ' に平行な直線 ℓ をひき、 ℓ を対称軸として $\triangle ABC$ を対称移動して $\triangle D'E'F'$ とすると $\triangle D'E'F'$ と $\triangle DEF$ とは各辺平行となり、 $\triangle D'E'F'$ を平行移動して $\triangle DEF$ に重ねることができる。

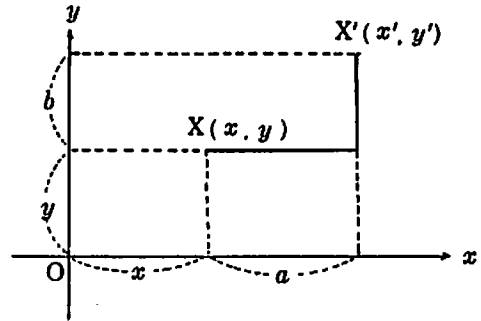


さて、移動は、図形上の点を代表する点の座標の間の関係式としてとらえることができる。すなわち、

(1) 平行移動

すべての点 (x, y) を a, b だけずらして点 (x', y') に移す。

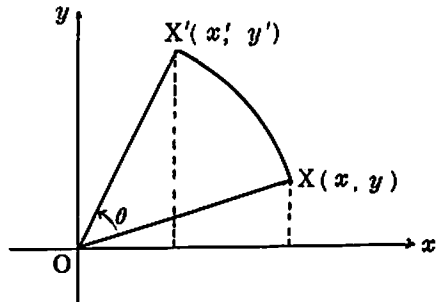
$$\begin{cases} x' = x + a \\ y' = y + b \end{cases}$$



(2) 回転移動

すべての点 (x, y) を θ だけ回転して点 (x', y') に移す。

$$\begin{cases} x' = x \cos \theta - y \sin \theta \\ y' = x \sin \theta + y \cos \theta \end{cases}$$



(3) 対称移動

すべての点 (x, y) を原点を通る直線 ℓ (x 軸と φ の角をなす直線) について対称な点 (x', y') に移す。

$$\begin{cases} x' = x \cos 2\varphi + y \sin 2\varphi \\ y' = x \sin 2\varphi - y \cos 2\varphi \end{cases}$$

(点 X' は点 X を -2φ だけ回転したのち x 軸について対称移動した点にあたる。

$2\varphi = \theta$ とおくと、

$$\begin{cases} x' = x \cos \theta + y \sin \theta \\ y' = x \sin \theta - y \cos \theta \end{cases}$$

一般に(1), (2), (3)の移動やそれらを組合せたもの

$$\begin{cases} x' = x \cos \theta \pm y \sin \theta + a \\ y' = x \sin \theta \mp y \cos \theta + b \end{cases}$$

を運動とよぶことにする。

(この複号は同順である。以下すべて複号同順)

いま、点 $P(x, y)$ を図形 F 上の点を代表する点と考えるとき、 $f(x, y) = 0$ で表わされる図形 F が、運動して F' に移り、 $P(x, y)$ が $P'(x', y')$ に移って

$$(i) \begin{cases} x' = x \cos \theta \pm y \sin \theta + a \\ y' = x \sin \theta \mp y \cos \theta + b \end{cases}$$

これを x, y について解くと、

$$(ii) \begin{cases} x = x' \cos \theta + y' \sin \theta + a_0 \\ y = \pm x' \sin \theta \mp y' \cos \theta + b_0 \\ a_0 = -a \cos \theta - b \sin \theta \\ b_0 = \mp a \sin \theta \pm b \cos \theta \end{cases}$$

となり、 $f(x, y) = 0$ であるから、

$$f(x' \cos \theta + y' \sin \theta + a_0, \pm x' \sin \theta \mp y' \cos \theta + b_0) = 0$$

これを $g(x', y') = 0$ とすると、これが F' の方程式である。

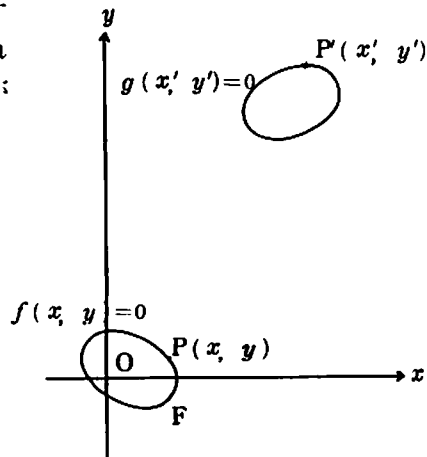
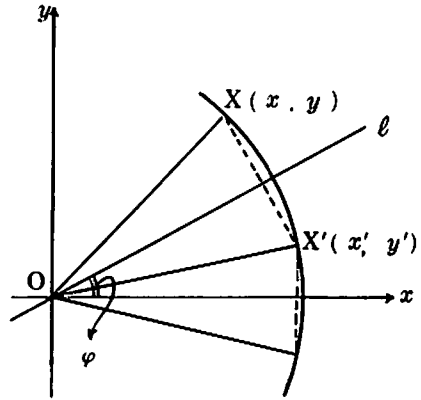
これらの運動は、図形の形、大きさを不変にする移動である。

今二点 $A(x_1, y_1), B(x_2, y_2)$ を考えると、その距離 ℓ は

$$\ell^2 = (x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2$$

これが運動によって $A(x_1, y_1), B(x_2, y_2) \rightarrow A'(x'_1, y'_1), B'(x'_2, y'_2)$ とすれば

$$\begin{cases} x'_1 - x'_2 = (x_1 - x_2) \cos \theta \pm (y_1 - y_2) \sin \theta \\ y'_1 - y'_2 = (x_1 - x_2) \sin \theta \mp (y_1 - y_2) \cos \theta \end{cases}$$



$$\therefore \ell'^2 = (x'_1 - x'_2)^2 + (y'_1 - y'_2)^2 = (x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2 = \ell^2$$

よって二点間の距離は不変である。

従って図形の形、大きさは不変である。

いままで同一座標系での図形の運動を考えてきたが、二つの図形の関係を調べる場合、同一の座標系での移動に対して、解析的に平面全体（座標軸ごと）を移動することが考えられる。

いま、座標軸 xOy を原点 O を点 O' に移す平行移動と、 O' の周りの角 θ だけの回転移動によって座標軸 $x'O'y'$ になったとする。

このとき点 P が座標軸 xOy との相対的位置を保ちながら点 P' へ移ったとすれば、点 P' は座標軸 $x'O'y'$ に関してやはり (x, y) である。したがって P' の座標軸 xOy に関する座標を (x', y') とすれば、 P' は座標軸 $x'O'y'$ に関して座標 (x, y) をもっているから、それらの座標の間には

$$\begin{cases} x' = x \cos \theta - y \sin \theta + a_0 \\ y' = x \sin \theta + y \cos \theta + b_0 \end{cases}$$

なる関係がある。即ち点の運動を表わしている式である。したがって図形 $f(x, y) = 0$ がこの運動でどのような図形に変わるかをみるには、上式を x, y でといた

$$\begin{cases} x = x' \cos \theta + y' \sin \theta + a \\ y = -x' \sin \theta + y' \cos \theta + b \end{cases} \text{ を上式に代入すればよい。}$$

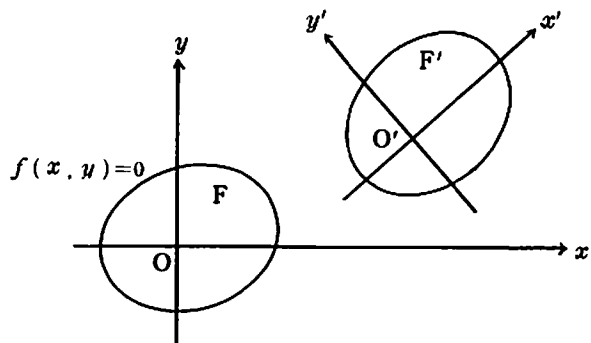
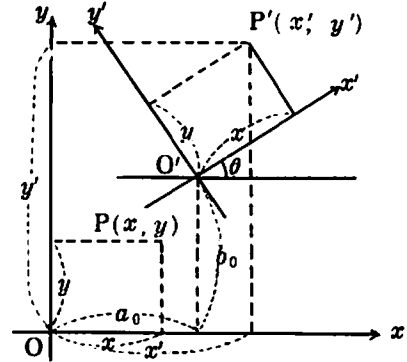
そして x', y' を x, y におきもどしておけばよい。

以上のように x, y 座標をもつ座標系 $O-xy$ のほかに、 x', y' 座標をもつ新しい座標系 $O'-x'y'$ をつくり、 xy 平面上の点の位置を (x, y) で、又 $x'y'$ 平面上の点の位置を (x', y') で表わす。

この場合、もし

$$\begin{cases} x' = f(x, y) \\ y' = g(x, y) \end{cases} \text{ の形で、逆に} \begin{cases} x = F(x', y') \\ y = G(x', y') \end{cases}$$

なる関係が与えられれば、 xy 平面上の1点 $P(x, y)$ には $x'y'$ 平面上の1点 $P'(x', y')$ が対応し、 $x'y'$ 平面上の1点 $P'(x', y')$ には xy 平面上の1点 $P(x, y)$ が対応することを意味している。このように一つの座標系の点、図形を、他の座標系の点、図形に1対1の対応させることを変換と呼ぶことにする。



[例題]

点A(1, 1), B(4, 2), C(3, 4)を頂点とする三角形ABCを, 直線 $y = -\sqrt{3}x$ に関して対称に移動した図形 $\triangle A'B'C'$ の頂点の座標を求めよ。

[解] $y = -\sqrt{3}x$ は原点を通り, x 軸と $-\frac{\pi}{3}$ の角をなす直線であるから, これに対称な点への運動は,

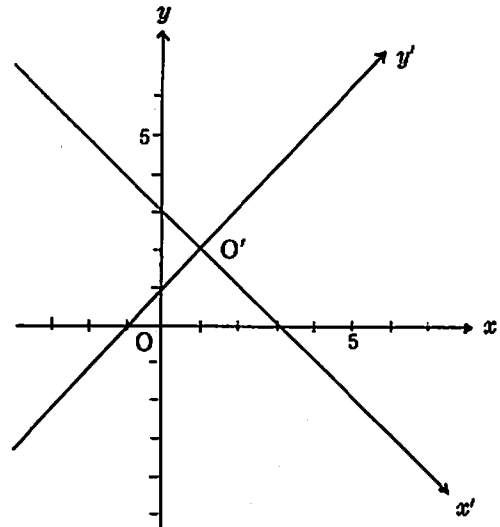
$$\begin{cases} x' = x \cos(-\frac{2}{3}\pi) + y \sin(-\frac{2}{3}\pi) = -\frac{1}{2}x - \frac{\sqrt{3}}{2}y \\ y' = x \sin(-\frac{2}{3}\pi) - y \cos(-\frac{2}{3}\pi) = -\frac{\sqrt{3}}{2}x + \frac{1}{2}y \end{cases}$$

によって表わされる。

$A' \text{ について } \begin{cases} x' = -\frac{1}{2} - \frac{\sqrt{3}}{2} \\ y' = -\frac{\sqrt{3}}{2} + \frac{1}{2} \end{cases}$	$A' \left(-\frac{1+\sqrt{3}}{2}, \frac{1-\sqrt{3}}{2} \right)$
$B' \text{ について } \begin{cases} x' = -\frac{1}{2} \times 4 - \frac{\sqrt{3}}{2} \times 2 = -2 - \sqrt{3} \\ y' = -\frac{\sqrt{3}}{2} \times 4 + \frac{1}{2} \times 2 = -2\sqrt{3} + 1 \end{cases}$	$B' \left(-2 - \sqrt{3}, -2\sqrt{3} + 1 \right)$
$C' \text{ について } \begin{cases} x' = -\frac{1}{2} \times 3 - \frac{\sqrt{3}}{2} \times 4 = -\frac{3}{2} - 2\sqrt{3} \\ y' = -\frac{\sqrt{3}}{2} \times 3 + \frac{1}{2} \times 4 = -\frac{3\sqrt{3}}{2} + 2 \end{cases}$	$C' \left(-\frac{3}{2} - 2\sqrt{3}, -\frac{3\sqrt{3}}{2} + 2 \right)$

問1. 点P(-3, 5)を, 原点を中心として150°回転し, それをx軸方向へ8, y軸方向へ-1平行移動した点P'の座標を求めよ。

問2. 図のように, x軸を直線 $x+y-3=0$ に移し, y軸を直線 $x-y+1=0$ に移すには, どのような運動をすればよいか。



3 合同変換とユークリッド幾何

ユークリッド幾何学で取扱うのは, 上に述べた座標の変換によって不変な図形の性質である。一方図形上の点と一つの実数の組 (x, y) の間に1対1の対応が存在すると仮定して, その点 (x, y) を点 (x', y') に移す式を

$$\begin{cases} x' = x \cos \theta \mp y \sin \theta + a \\ y' = x \sin \theta \pm y \cos \theta + b \end{cases} \quad \begin{cases} x = x' \cos \theta + y' \sin \theta + a' \\ y = \mp x' \sin \theta \pm y' \cos \theta + b' \end{cases}$$

とすれば, この式の a, b, θ にいろいろな値を与えることによって一つの変換の集合を得る。これらの集合の任意の一つの変換によって不変な性質を研究していくのがユークリッド幾何学であり

又これによってユークリッド幾何学の対象になりうる性質をもった図形をいれている空間をユークリッド空間とよぶ。

この空間において、 $\overline{PQ} = \sqrt{(x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2}$ と定義すれば P, Q が座標の変換によって P', Q' に移されたとき、常に $\overline{P'Q'} = \overline{PQ}$ となってユークリッド幾何学の対象となる性質で図形的意味をもつことになる。

ユークリッド平面上のすべての直線を直線にうつす変換の式は一次式であるからこの変換は一般に

$$\begin{cases} x' = a_1 x + b_1 y + c_1 & (a_1 b_2 - a_2 b_1 \neq 0) \\ y' = a_2 x + b_2 y + c_2 \end{cases} \quad \text{と表わされる。}$$

運動は一次変換の特殊な場合であるが運動以外に図形の形、大きさを不変にする変換はない。

(理由) 形、大きさを不変にすることは距離を不変にすることである。今距離を ℓ とすれば、

$$\ell^2 = (x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2 \rightarrow \ell'^2 = (x'_1 - x'_2)^2 + (y'_1 - y'_2)^2 \quad \text{になったとする。}$$

$$\begin{cases} x'_1 - x'_2 = a_1(x_1 - x_2) + b_1(y_1 - y_2) \\ y'_1 - y'_2 = a_2(x_1 - x_2) + b_2(y_1 - y_2) \end{cases}$$

$$\therefore (x'_1 - x'_2)^2 + (y'_1 - y'_2)^2 = (a_1^2 + a_2^2)(x_1 - x_2)^2 + (b_1^2 + b_2^2)(y_1 - y_2)^2 + 2(a_1 b_1 + a_2 b_2)(x_1 - x_2)(y_1 - y_2)$$

よって $\ell^2 = \ell'^2$ になるためには

$$a_1^2 + a_2^2 = b_1^2 + b_2^2 = 1 \quad a_1 b_1 + a_2 b_2 = 0$$

$|a_1| \leq 1, |b_1| \leq 1$ より $a_1 = \cos \theta, b_1 = \sin \theta$ とおける。

これを解いて得られる解は、どれも運動のいずれかになる。

$$\begin{cases} x' = a_1 x + b_1 y + c_1 \\ y' = a_2 x + b_2 y + c_2 \end{cases} \quad a_1^2 + a_2^2 = b_1^2 + b_2^2 = 1 \quad a_1 b_1 + a_2 b_2 = 0$$

を合同変換とよぶ。

[例題] 直交座標において2点 $A(1, 2), B(2, 0)$ を結ぶ線分を2点 $C(3, 1), D(1, 0)$ を結ぶ線分に移す合同変換の式を求めよ。ただし A を C へ、 B を D へ移すものとする。

(解) 合同変換式を $x' = a_1 x + b_1 y + c_1, y' = a_2 x + b_2 y + c_2,$
($a_1^2 + a_2^2 = b_1^2 + b_2^2 = 1, a_1 b_1 + a_2 b_2 = 0$) とすれば

A を C へ、 B を D へ移すのであるから

$$\begin{cases} 3 = a_1 + 2b_1 + c_1 \quad \dots\dots(1) \\ 1 = a_2 + 2b_2 + c_2 \quad \dots\dots(2) \end{cases} \quad \begin{cases} 1 = 2a_1 + c_1 \quad \dots\dots(3) \\ 0 = 2a_2 + c_2 \quad \dots\dots(4) \end{cases}$$

(3)より $c_1 = 1 - 2a_1$ (4)より $c_2 = -2a_2$

これを(1)(2)に代入し、条件式を用いて a_1 を求めれば

$$a_1 = 0 \quad \text{または} \quad a_1 = -\frac{4}{5}$$

$$a_1 = 0 \text{ のとき} \quad a_2 = -1, \quad b_1 = 1, \quad c_1 = 1, \quad b_2 = 0, \quad c_2 = 2$$

$$a_1 = -\frac{4}{5} \text{ のとき} \quad a_2 = \frac{3}{5}, \quad b_1 = \frac{3}{5}, \quad c_1 = \frac{13}{5}, \quad b_2 = \frac{4}{5}, \quad c_2 = -\frac{6}{5}$$

$$\text{よって} \quad \begin{cases} x' = y + 1 \\ y' = -x + 2 \end{cases} \quad \text{または} \quad \begin{cases} x' = -\frac{4}{5}x + \frac{3}{5}y + \frac{13}{5} \\ y' = \frac{3}{5}x + \frac{4}{5}y - \frac{6}{5} \end{cases}$$

問 1.

$$\text{合同変換} \begin{cases} x' = \frac{1}{2}x - \frac{\sqrt{3}}{2}y - 1 \\ y' = \frac{\sqrt{3}}{2}x + \frac{1}{2}y + 2 \end{cases}$$

を行うとき、3点 $A(0,0)$, $B(2,0)$, $C(0,1)$ はそれぞれどのような点に変換されるか。また変換された点を A' , B' , C' とすれば

$$\triangle ABC \equiv \triangle A'B'C' \text{ であることを示せ。}$$

問 2. $\triangle ABC$ を $\triangle A'B'C'$ に移す合同変換式を求めよ。

ただし、 $A(0,0)$, $B(10,5)$, $C(-5,15)$; $A'(1,2)$, $B'(3,13)$, $C'(-14,7)$

4 新しい変換

距離を不変にすることによって角の大きさも不変にする合同変換は、図形の形、大きさを不変にするが、次に新しい変換として、距離が変わる変換を考える。

(1) 相似変換

$$\text{前節の距離 } \ell'^2 = (a_1^2 + a_2^2)(x_1 - x_2)^2 + (b_1^2 + b_2^2)(y_1 - y_2)^2 + 2(a_1b_1 + a_2b_2)(x_1 - x_2)(y_1 - y_2)$$

において $\ell'^2 = k\ell^2$ になるためには

$$a_1^2 + a_2^2 = b_1^2 + b_2^2 \neq 0, \quad a_1b_1 + a_2b_2 = 0$$

$$\text{即ち } \begin{cases} x' = a_1x + b_1y + c_1 \\ y' = a_2x + b_2y + c_2 \end{cases} \quad a_1^2 + a_2^2 = b_1^2 + b_2^2 \neq 0, \quad a_1b_1 + a_2b_2 = 0$$

なる変換を考え相似変換とよぶ。

この場合

$$\frac{a_1}{b_2} = \frac{a_2}{-b_1} = k \quad \text{とおけば} \quad k = \pm 1$$

よって

(イ) $k = 1$ のとき

(ロ) $k = -1$ のとき

$$\begin{cases} x' = \alpha x - \beta y + c_1 \\ y' = \beta x + \alpha y + c_2 \end{cases}$$

$$\begin{cases} x' = \alpha x + \beta y + c_1 \\ y' = \beta x - \alpha y + c_2 \end{cases}$$

$$\text{いずれの場合も条件 } \ell'^2 = (a_1^2 + a_2^2)\{(x_1 - x_2)^2 + (y_1 - y_2)^2\} = (a_1^2 + a_2^2)\ell^2$$

でわかるように、距離は一定倍に拡大または縮小される。よってこの変換の場合は、図形の大きさは変わる。

しかし、上の式で定義された変換によっても、ユークリッド幾何学におけるいくつかの要素は不変である。その例をあげてみよう。

(例) 1. 直線について

今 $\ell_1x + m_1y + n_1 = 0$ を満足する点 (x, y) の集合を直線ということにする。この直線に(イ), (ロ)の変換を行なってみよう。

(イ), (ロ)を逆にといて $(\alpha^2 + \beta^2 \neq 0)$

$$\begin{cases} x = \frac{\alpha}{\alpha^2 + \beta^2} x' + \frac{\beta}{\alpha^2 + \beta^2} y' - \frac{\alpha c_1}{\alpha^2 + \beta^2} - \frac{\beta c_2}{\alpha^2 + \beta^2} \\ y = \mp \frac{\beta}{\alpha^2 + \beta^2} x' \pm \frac{\alpha}{\alpha^2 + \beta^2} y' \pm \frac{\beta c_1}{\alpha^2 + \beta^2} \mp \frac{\alpha c_2}{\alpha^2 + \beta^2} \end{cases}$$

これを上式に代入すれば

$$\begin{aligned} & \left(\frac{\alpha \ell_1}{\alpha^2 + \beta^2} \mp \frac{\beta m_1}{\alpha^2 + \beta^2} \right) x' + \left(\frac{\beta \ell_1}{\alpha^2 + \beta^2} \pm \frac{\alpha m_1}{\alpha^2 + \beta^2} \right) y' \\ & + \left(-\frac{\alpha c_1 \ell_1}{\alpha^2 + \beta^2} - \frac{\beta c_2 \ell_1}{\alpha^2 + \beta^2} \pm \frac{\beta c_1 m_1}{\alpha^2 + \beta^2} \mp \frac{\alpha c_2 m_1}{\alpha^2 + \beta^2} + n_1 \right) = 0 \end{aligned}$$

即ち $\ell_1' x' + m_1' y' + n_1' = 0$ なる形の一次方程式をうる。

但し
$$\begin{cases} \lambda (\alpha^2 + \beta^2) \ell_1' = \alpha \ell_1 \mp \beta m_1 \\ \lambda (\alpha^2 + \beta^2) m_1' = \beta \ell_1 \pm \alpha m_1 \\ \lambda (\alpha^2 + \beta^2) n_1' = -\alpha c_1 \ell_1 - \beta c_2 \ell_1 \pm \beta c_1 m_1 \mp \alpha c_2 m_1 + n_1 (\alpha^2 + \beta^2) \end{cases}$$

よって一つの一次方程式を満足する点 $X(x, y)$ の集合に対して相似変換を施して得られる点 $X'(x', y')$ の集合も、また一つの一次方程式を満足していることがわかる。これによって直線は、相似変換によって定義される相似幾何学の対象となり得る図形の一つであるといえる。

(例) 2. 二直線のなす角について

$$\begin{cases} \ell_1 x + m_1 y + n_1 = 0 \dots\dots\dots ① \\ \ell_2 x + m_2 y + n_2 = 0 \dots\dots\dots ② \end{cases} \quad \text{のなす角を } \theta \text{ とすれば}$$

$$\cos \theta = \frac{\ell_1 \ell_2 + m_1 m_2}{\sqrt{\ell_1^2 + m_1^2} \sqrt{\ell_2^2 + m_2^2}}$$

今 相似変換(1), (2)を施すことによって二直線の式が

$$\begin{cases} \ell_1' x' + m_1' y' + n_1' = 0 \\ \ell_2' x' + m_2' y' + n_2' = 0 \end{cases} \quad \text{になったとするとその二直線のなす角は}$$

$$\cos \theta' = \frac{\ell_1' \ell_2' + m_1' m_2'}{\sqrt{\ell_1'^2 + m_1'^2} \sqrt{\ell_2'^2 + m_2'^2}} \quad \text{となる。}$$

(例) 1. より

$$\begin{cases} \lambda (\alpha^2 + \beta^2) \ell_1' = \alpha \ell_1 \mp \beta m_1 \\ \lambda (\alpha^2 + \beta^2) m_1' = \beta \ell_1 \pm \alpha m_1 \end{cases} \quad \begin{cases} \mu (\alpha^2 + \beta^2) \ell_2' = \alpha \ell_2 \mp \beta m_2 \\ \mu (\alpha^2 + \beta^2) m_2' = \beta \ell_2 \pm \alpha m_2 \end{cases}$$

ここで
$$\begin{cases} \lambda \mu (\alpha^2 + \beta^2) (\ell_1' \ell_2' + m_1' m_2') = \ell_1 \ell_2 + m_1 m_2 \\ \lambda^2 (\alpha^2 + \beta^2) (\ell_1'^2 + m_1'^2) = \ell_1^2 + m_1^2 \\ \mu^2 (\alpha^2 + \beta^2) (\ell_2'^2 + m_2'^2) = \ell_2^2 + m_2^2 \end{cases} \text{ をうるから}$$

$$\cos \theta = \cos \theta'$$

即ち二直線のなす角は相似変換によって不変であることになり、相似幾何学の対象となり得る図形といえる。

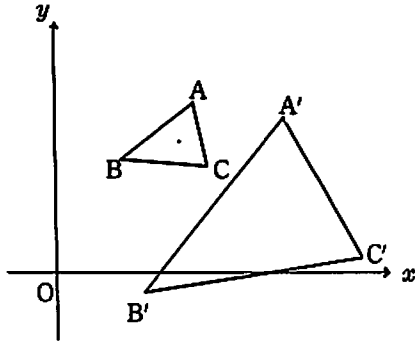
(以上により、この変換では、対応する線分の長さの比は一定であり、対応する二線分のなす角は

不変である。よってこの変換を施して得られる図形はもとの図形と相似である。)

更に(イ), (ロ)については, そのちがいを三角形で図示してみれば

(イ)の場合

(正 向)



特に

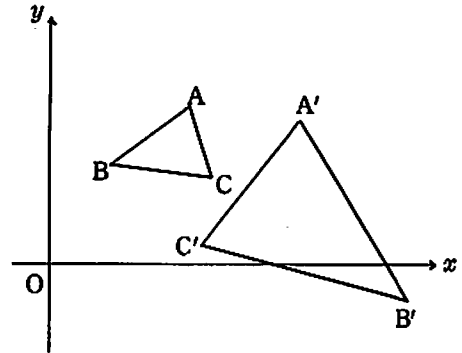
$$k = 1, \alpha^2 + \beta^2 = 1 \text{ のとき}$$

Euclid 幾何学における

回転移動
平行移動 } となる。

(ロ)の場合

(負 向)



特に

$$k = -1, \alpha^2 + \beta^2 = 1 \text{ のとき}$$

Euclid 幾何学における

対称移動となる。

相似変換について, 別な一例を見てみよう。

(例題) 複素平面で z に対し, $z' = \alpha z + \beta$ なる z を対応させるとき, 何変換となるか。但し $\alpha \neq 0$

(解) $z = x + yi, z' = x' + y'i, \alpha = a + bi, \beta = c + di$ とおくと

$$z' = \alpha z + \beta \text{ より}$$

$$\begin{aligned} x' + y'i &= (a + bi)(x + yi) + (c + di) \\ &= (ax - by + c) + (bx + ay + d)i \end{aligned}$$

$$\begin{cases} x' = ax - by + c \\ y' = bx + ay + d \end{cases}$$

即ち 相似変換である。

特に $|\alpha| = 1$ のとき $a^2 + b^2 = 1$ となり, 合同変換である。

(問1) 線分 ℓ を線分 ℓ' に移す相似変換式を求めよ。ただし, ℓ の両端の座標は $(2, 0)$ と $(0, 1)$, ℓ' の両端の座標は $(3, -2)$ と $(2, 5)$ とする。

また, この変換によって, 線分の長さは何倍になるか。

(問2) $p + q + r = 1, p \geq 0, q \geq 0, r \geq 0$ なる関係をもち,

$$\begin{cases} x = p + 3q + 4r \\ y = 2p + 6q + 3r \end{cases} \text{ で表わされる点 } (x, y) \text{ がある。}$$

① 点 (p, q) から点 (x, y) への変換は相似変換であることを示せ。

- ② 点 (x, y) の存在範囲を図示せよ。
 ③ ②で示された図形の周の長さ, 面積は元の図形の何倍か。

(2) アフィン変換

更に一般化し
$$\begin{cases} x' = a_1 x + b_1 y + c_1 \\ y' = a_2 x + b_2 y + c_2 \end{cases} \quad (a_1 b_2 - a_2 b_1 \neq 0)$$

なる変換を考えアフィン変換とよぶ。

今迄と同じ考えから六つの定数に関係する一つの変換の集合を作るが, これらの集合の任意の一つの変換によって不変な点の集りとしての図形の性質を研究していくのがアフィン幾何学である。

この幾何学の対象となる図形の性質の主なものの例をあげてみよう。

(例) 1. 二点 $X_1(x_1, y_1), X_2(x_2, y_2)$ の $m:n$ の内分(外分)点 $X_3(x_3, y_3)$

$$x_3 = \frac{nx_1 + mx_2}{m+n}, \quad y_3 = \frac{ny_1 + my_2}{m+n}$$
 にアフィン変換を施したとしよう。

$$\begin{cases} x' = a_1 x + b_1 y + c_1 \\ y' = a_2 x + b_2 y + c_2 \end{cases} \quad \text{を} \text{と} \text{い} \text{て} \quad \begin{cases} x = \alpha_1 x' + \beta_1 y' + \tau_1 \\ y = \alpha_2 x' + \beta_2 y' + \tau_2 \end{cases}$$

$$x'_3 = \frac{nx'_1 + mx'_2}{m+n}, \quad y'_3 = \frac{ny'_1 + my'_2}{m+n}$$
 を得る。

よって内分(外分)比は不変である。

(例) 2. 直線について

ここで $\ell_1 x + m_1 y + n_1 = 0$ を満足する点 (x, y) の集合を直線としアフィン変換を施すならば(例) 1.と同じく

$$(\alpha_1 \ell_1 + \alpha_2 m_1) x' + (\beta_1 \ell_1 + \beta_2 m_1) y' + (\tau_1 \ell_1 + \tau_2 m_1 + n_1) = 0$$

即ち $\ell' x' + m' y' + n' = 0$ の形をとる。

但し
$$\begin{cases} \lambda \ell'_1 = \alpha_1 \ell_1 + \alpha_2 m_1 \\ \lambda m'_1 = \beta_1 \ell_1 + \beta_2 m_1 \\ \lambda n'_1 = \tau_1 \ell_1 + \tau_2 m_1 + n_1 \end{cases}$$

よって直線は直線に移る。

(例) 3. 二直線の平行性について

二直線 $\begin{cases} \ell_1 x + m_1 y + n_1 = 0 \dots\dots\dots ① \\ \ell_2 x + m_2 y + n_2 = 0 \dots\dots\dots ② \end{cases}$ が平行であることを

$$\frac{\ell_1}{\ell_2} = \frac{m_1}{m_2} \neq \frac{n_1}{n_2}$$
 とするならば, ①, ②にアフィン変換を施して

$$\begin{cases} \ell'_1 x' + m'_1 y' + n'_1 = 0 \dots\dots\dots ①' \\ \ell'_2 x' + m'_2 y' + n'_2 = 0 \dots\dots\dots ②' \end{cases}$$
 に移ったとする。

(例) 1, (例) 2.より

$$\begin{cases} \lambda \ell'_1 = \alpha_1 \ell_1 + \alpha_2 m_1 \\ \lambda m'_1 = \beta_1 \ell_1 + \beta_2 m_1 \\ \lambda n'_1 = \tau_1 \ell_1 + \tau_2 m_1 + n_1 \end{cases} \quad \begin{cases} \mu \ell'_2 = \alpha_1 \ell_2 + \alpha_2 m_2 \\ \mu m'_2 = \beta_1 \ell_2 + \beta_2 m_2 \\ \mu n'_2 = \tau_1 \ell_2 + \tau_2 m_2 + n_2 \end{cases} \quad \text{だから}$$

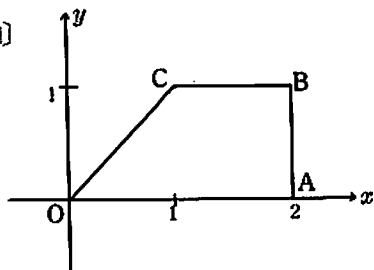
$$\frac{\ell_1}{\ell_2} = \frac{m_1}{m_2} = k \quad \text{とおいてたしかめれば}$$

$$\frac{\ell'_1}{\ell'_2} = \frac{m'_1}{m'_2} \neq \frac{n'_1}{n'_2} \quad \text{をうる。}$$

よって平行性は保持される。

以上(例)としてとりあげた3つの概念はアフィン幾何学の対象となる。

[例題]



図のような四角形OABCにアフィン変換を施したら、3点O, A, Cはそれぞれ(1,0), (5,0), (2,2)に移った。

- ① このアフィン変換の式を求めよ。
- ② この四角形OABCは、どんな四角形に移るか。

(解) ① 求めるアフィン変換の式を

$$\begin{cases} x' = a_1x + b_1y + c_1 \\ y' = a_2x + b_2y + c_2 \end{cases} \quad (a_1b_2 - a_2b_1 \neq 0)$$

とすると

$$(0,0) \rightarrow (1,0) \text{ より } \begin{cases} 1 = c_1 \\ 0 = c_2 \end{cases} \quad \therefore c_1 = 1 \quad c_2 = 0$$

$$(2,0) \rightarrow (5,0) \text{ より } \begin{cases} 5 = 2a_1 + c_1 \\ 0 = 2a_2 + c_2 \end{cases} \quad \therefore a_1 = 2 \quad a_2 = 0$$

$$(1,1) \rightarrow (2,2) \text{ より } \begin{cases} 2 = a_1 + b_1 + c_1 \\ 2 = a_2 + b_2 + c_2 \end{cases} \quad \therefore b_1 = -1 \quad b_2 = 2$$

$$a_1b_2 - a_2b_1 = 2 \times 2 - 0 \times (-1) = 4 \neq 0$$

$$\text{よって } \begin{cases} x' = 2x - y + 1 \\ y' = 2y \end{cases}$$

② B(2,1)に上記アフィン変換を施

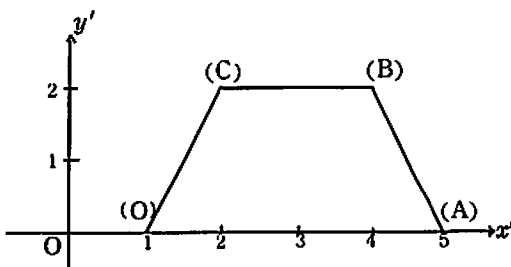
すと、

$$\begin{cases} x' = 2 \times 2 - 1 + 1 = 4 \\ y' = 2 \times 1 = 2 \end{cases}$$

より(4,2)に移る。

故に四角形OABCの移る図形は右図

より等脚台形。



問1. 円 $x^2 + y^2 = r^2$ に変換 $\begin{cases} x' = ax + c \\ y' = by + d \end{cases}$ を施すと、どんな図形になるか。

ただし、 $r > 0$, $a \geq 0$, $b \geq 0$ とする。

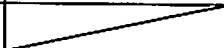
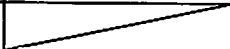
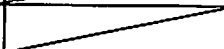
問2. $|x| + |y| \leq 1$ で表わされる図形は

変換 $\begin{cases} x' = 2x + 3y + 1 \\ y' = -x + 2y - 3 \end{cases}$ によって、どのような図形になるか。図示せよ。

5 ま と め

従来のユークリッドの公理的方法は、たとえば合同、相似という量に関する概念が、公理、公準とよばれるものからはじまる論理的な進め方であった。これに対して、以上述べた解析的手法では、図形の性質に関する定理そのものの特徴をもととする分類を重視してきた。すなわち、変換によって、図形がいちような圧縮を受けるときにもなお保持される不変な性質を調べることによって、その定理が、変換を施した後も正しいものとして残るか、或は間違っただけのものになるかという分類をすることができることを示した。

すでに学習したように、変換を施しても、正しいものとして残る性質（不変なもの）のみが、その変換による幾何学の対象となるのである。これまで調べてきた各種変換による幾何学の対象となるものを表にして示してみると次のようになる。

合同変換	相似変換	アフィン変換
直線	直線	直線
二直線のなす角	二直線のなす角	
二点間の距離		
二点間の比	二点間の比	二点間の比
二直線の平行	二直線の平行	二直線の平行

[練 習 問 題]

(1) 次の方程式・不等式は、どのような図形に対応するか。図示せよ。

① $\frac{x^2}{4} - \frac{y^2}{9} = 1$

② $x^2 + y^2 - 8x + 2y - 8 = 0$

③ $3x + 2y = 6 \quad x \geq 0, \quad y \geq 0$

④ $\begin{cases} 3x + 4y \geq 12 \\ 2x - y \leq 4 \end{cases}$

⑤ $\begin{cases} 3x - 2y + 5 > 0 \\ 9x + 4y - 25 < 0 \\ x - 4y - 5 < 0 \end{cases}$

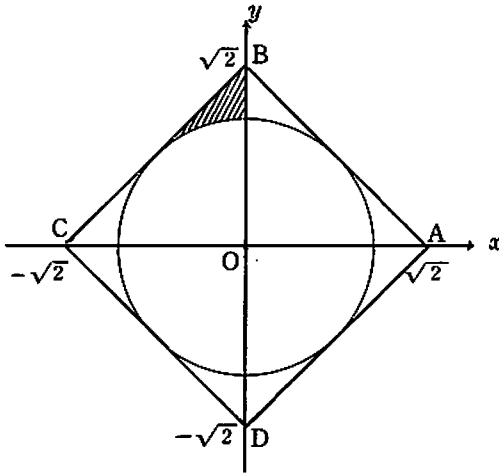
(2) 放物線 $y^2 = 4x$ を原点を中心として $\frac{\pi}{4}$ 回転した図形の方程式を求めよ。

移動後の放物線の、焦点の座標、準線の方程式を求めよ。

また、 $y^2 = 4x$ 上の点 (x_1, y_1) における接線 $yy_1 = 2(x + x_1)$ は、どのように移るか。

- (3) 座標平面上 $A(3, 2)$, $B(0, 0)$, $C(4, 0)$ を頂点とする $\triangle ABC$ がある。
- ① B を中心として、 $\triangle ABC$ を -60° 回転した三角形を $\triangle A'B'C'$ とするとき、 A' , C' の座標を求めよ。
 - ② $\triangle A'B'C'$ を C' を中心として -60° 回転した三角形を $\triangle A''B''C''$ とする。
 $\triangle ABC$ から、 $\triangle A''B''C''$ への変換の式を求め、 B'' は C に重なることを示せ。
 - ③ 四辺形 $AA'A''C$ が平行四辺形であることを証明せよ。
 - ④ $\triangle ABC$ の垂心は $H(\frac{3}{2})$ である。 $\triangle A''B''C''$ の垂心 H'' の座標を求めよ。
- (4) 与えられた一点 A を一つの頂点とし、 A を通らない与えられた直線 XY 上に第 2 の頂点 B を有する正三角形の第 3 の頂点 C の軌跡を変換を使って求めよ。
- (5) 与えられた一点 A を一つの頂点とし、与えられた円 O 上に第 2 の頂点 B を有する正三角形の第 3 の頂点 C の軌跡を変換の考えを使って求めよ。

(6)



図のような正方形 $ABCD$ と、それに内接する円がある。

この図形にアフィン変換

$$\begin{cases} x' = -2x + 2 \\ y' = -y + 1 \end{cases}$$

を施したら、どんな図形が得られるか。図示せよ。

また、図の斜線部分の移る領域に斜線をひけ。

(7) 三角形の次の各点は、何変換によって不変か。

- ① 内心 ② 外心 ③ 垂心 ④ 重心 ⑤ 傍心

原本を見れば判ったかもしれない。又、時間ぎれで、二度三度の確めの解説や、データーの整理の確めがやれず、絶えず心にひつかかかって、まじめの筆もすらすらとは進べなかつたが、一まず、発表する。なお、こんな分析的に芸術の仕事をみてゆくことにも疑問がある。光太郎の推敲過程や態度など問うに及ばない。」という考え方もあろう。光太郎の推敲過程や態度が明白になつたとて、個性も資質も違ふ、詩観の違ふ詩人たちに参考にもならないと考える向もあろう。しかし、とにかく詩稿をみていると、不思議にも、その成立過程の秘密―秘訣ではない―が見えてくるように思つた。興味深く見事な詩の舞台裏もまた、なかなか見応えがあるように思つた。端麗な筆致、流れるような筆致、そこに氣随氣儘でない、ほんとうの心をこめた推敲を見て、時代を超えて生きるに違いない光太郎の詩心のほんとうの姿に触れる思いがした。資質に恵まれながら、資質に溺れない、大人の姿がそこにある。美と真実とをつかもうとした巨人、光太郎の心の克明な影がそこにある。光太郎の生きた詩心を、詩稿に感じるのは私一人ではないと思う。

光太郎の詩作の秘密をのぞきたい……
なんて大それたこと。

詩稿は美しかった、変化があつた。
ただただみとれていた時もたびたび

光太郎と一しよに詩を考えているような……錯覚

——でも少しは わかるんです——
消しがひどくて読めなくて 泣きたいような……

そして猛暑、汗、汗、汗
でも、やっぱり読み通した、その魅力。

心をこめたものはよい。よいものはよい。
秘密は秘密でおわつたが、

光太郎の詩心に 自分なりに触れたよろこび。

はげ頭の赤とんぼのように
うるさいな、また、また、また、また。

で、素晴らしい使い方をしているものについて併せ考えなければ片手落ちで、ごく一部分の考察でしかないが、確かに露わにされていると思う。初案にもどる。(変更、削除、挿入など推敲した上で)

よりよい表現を求めてみたが、気にいらず、やはりもとの方がましだと、もとへもどしたものであるが、熟考した光太郎の心が、詩稿を通して、伝わってくる。それは語・句・文、そのものにも、その配列にもある。字改めにもある。「たふときかな！尊！たふと」「違！たち！違！」など。

「雨にうたるるカテドラル」では「ノオトルダム ド パリのカテドラル！カテドラル、ノオトルダム ド パリ！元へ」とカテドラルの位置を苦心している。「晴れゆく空」では「なま暖かくじとじとぬかるみ！じとじとなま暖かくぬかるみ！元へ」と連用修飾語の位置を気にしている。どちらも初案の方がやはり落ちつく。「笑がこみ上げるから詩を書くのだ！笑へて来る！元へ」(懐ふ)は、笑へてには自然と笑ふ感があるけれど、やはりこみ上げる笑の方が、力のある表現である。具体例を挙げるときりがない。

初案にもどる場合、最も簡単なのは「居心地」⁴「生きもの。だ。」の類で、推敲回数は一三回である。「思ふのは卑しい！思ふ卑しさ！元へ」の類は三回。これは三十三箇所ある。百四十五箇所的大部分は消して、元へもどした場合と、挿入してすぐ消した場合とである。

初案にもどるということが、他の推敲のあり方の一番単純な場合より一回は多く推敲するわけであり、結果としては元の歪阿弥かもしれぬが、過程は曲折があり、それだけ複雑であり、初めの表現の射たものであること、やはり根っからの詩人であること、でも気のすむまで推敲してみることなどを示しているのではなからうか。

C 推敲の態度について

既述のなかに自然触れざるを得ないで書いてしまっている。推敲回数なども態度を示している。最多十四回、最少一回。一回か二回で終わっているものが多いのは、ひらめきが鋭いからである。しかし名人気質であるから気に入るまではトコトンまでもやる場合もあるのである。

「言葉の魅力は子供の頃から強く感じてゐて、小学校時代にも作文は好き……ポオドレエルには殊に驚いた。……此の自己全存在を擲つての作

詩態度にひどく打たれた。曾て日本で見聞してゐた先輩詩人達の作詩態度とまるで違つてゐるのに気づいた。筆のさきや、才力や、感受性だけで美辭麗句を並べたり感懐を述べたりしてゐる事のくだらなさを痛感した。詩とは斯ういふものだ。ポオドレエルに見せられたやうに思つた。……私は日本語の美についてもつと本質的な窮まりのない処に分け入りたい。人に気づかれず路傍に生きてゐる日本語そのものに其の美と力との広大な脈脈のある事を明かにしたい念願はますます強まるばかりである。」(詩の勉強)の光太郎のこぼれが態度の基本である。日常語即詩語、詩は真の言語活動で書かれねばならぬ、詩は言葉の裸身で書かれねばならぬ、さらには詩はほんとの「生」から生まれるという根本詩観に基づいて、詩の推敲はなされるのである。だから美辭麗句は、推敲に際しても、少しも現われていない。適度な生きた表現をひたすら求めているようである。

「詩はもとより高度の感懐から生れるが、その高度の感懐を言葉に形象化するにあつては最も深い智慧を要する。それは計画せられた知能のみによつては果されぬ。詩とは殆ど生理にまでとどく程の、強い、己みがたい内部生命の力に推された絶対不二の具象による発言であつて、ああも言へる、かうも言へるといふ中の選択ではない。まして氣韻氣儘な思ひつきなどでは決してありえない。」(詩の深さ)の光太郎の考えに、その推敲態度は明白である。思ひつきなどといふ浮薄な感じはどれにもない。具体例を紙面の都合で挙げられないが、詩稿を見ていると、一つ一つが絶対不二の具象表現であることに思い至る。あまりにも真剣で、思はず襟を正さずにはいられない。ただ生得の芸術家であるから勘が鋭くて、あれこれ書きながらの推敲と思われものも多いが、詩人の資質が、流れ出るからである。後からの推敲と思われものは、あくまで磨き上げずには置かぬ名人気質の表出である。不可避に詩作する光太郎の人間が、推敲態度に全面に押し出されているのを感じる。

他の詩人の詩稿を見る機会に恵まれれば、その比較において、さらに独特なものを明かにすることができるとも思ふかもしれない。

一夏、詩稿と取り組み、その美しい筆跡に魅せられながら、一方では古文書の解説にも近い仕事に汗を流した。原本ではないから、文字の判断に誤りがあるかもしれないし、どうしても読めなかつた消しのひどいものも、

「検温」の初稿では、「珍奇な体温は何処にもない！大きな熱風はつかまらない」に落ちつくまで、十三回推敲が行われている。珍奇では珍奇すぎて感じが表示できず、かえって大きな熱風が珍奇さを表現している。一行推敲は三十八篇、百三十一行にされている。

一部分の推敲は千二百二十箇所もあり、これについて仔細な具体的検討を要するのは勿論である。同品詞、同成分の場合とはかく、飛躍のあるものが多い。「後庭のロダン」の「まるでちがつた困のちがつた光陰」には「純深」の「それをむざむざ」、「少女立像」の「神殿にいたのしく」、「特別攻撃隊の方々断片」の「ただ言葉なき無限の思にうなだれるのみです。↑仰ぎ見る」などの調子である。前後の詩句から要請されてくることもあって飛躍のある表現に変更された場合、一部分の考察では済まされない。まことに連関的に詩全体の中で推敲がなされている。又、「まもるべし」→「うづまくつて」→「上り」→「終止形から連用形に、同じ中止でも接続助詞を省く場合、連用形から終止形に」と類型に分類することも可能だし、漢語から和語へ「敬開↓敬ひ」、和語から漢語へ「思ひ↓感」などにも整理出来る場合もある。「なかつた↓ない」「類する↓類した」のように「時」の変更もある。他の品詞、他の成分に変更された場合の傾向も考えられる。いずれも美辞麗句ではない日常語に磨きがかけられている。この項は書き続けると際限がないので、割愛する。

二 助詞について

「東洋的新次元」に

東洋の民の吐息は詩となるほかない。

詩は論弁の矛を持たない。

詩はただ訴へる。

東洋の詩人は民の吐息を經身にあびる。

民の悲は平仄の間に具象し

民の暗さはてにをはの不明瞭性となる。

とある。膠着語なる日本語の特徴であるてにをはを、語学的ではなく、言語本質的なものとして、自然に深く感得認識されて、関心を引いたものが詩の言葉となって展開されたものである。文学的によくいえば微妙性。不明瞭には違いない。外国語の中で生活して光太郎は不明瞭性を

つくづく感じたのであろう。

そこで、光太郎は自分の詩にはてにをはを如何に駆使したか、変更、削除、挿入の推敲面から調べてみた。改めたのは百二十五箇所、削除は六十二箇所、挿入は三十四箇所、初案にもどったのは七箇所。ただし、この数は、一行全部推敲の場合、一行削除の場合などの変更等を含まないから実数は上回るものと考えられる。

「冬の送別」で「冬の美は骨格の美こそ」と改めてある。「冬の智慧こそ聖者の智慧。冬の愛こそ靈魂の愛。」と続くのであるから、はをこそと改めて書き合う強さが生じてくる。「母をおもふ」の「立身出世しないおれをいつまでも信じきり、自分の一生の望を乗せたあの困んだ眼。しも、ををもに改めただけで、ぐんとニュアンスがふくらんでくる。やはり神経がゆきとどいている。「新年が冬に來るのはいい。」

(冬)のにを省くと引き繋る。舌足らずの感があるかもしれないが、感じは一段と引き繋る。「へんな貧」の「それでも自分を貧と思へず、！貧とは」と副助詞はの挿入で、「妻なく子なきがらんどうの家に つもるのほ塵と埃と木片ばかり。袖は破れ下駄は割れ、ひとり水をのんで寒風に立つ。それでも自分を貧とは思へず、」の詩句が、鮮やかさを増す挿入が一番手入れの中では少ないが、用いられた場合は随分考えられている。初案にかえる場合、推敲過程は、他の場合が大体一回であるのに、二・三回となる。それだけ熟考したことになる。「非難はたのもしい。」(エビグラム)の場合、はこそはと、もともにもどされている。こそでは少し強調度が高すぎて、気負いすぎていや味になる。「感謝」では最終行の「ああ、君はそれを見せてくれた。」に後に「ね。」を付加し削っている。この場合は二回の推敲によるものといえる。大体、挿入・削除・変更は推敲は一回であるが、まれに五回に及ぶものがあり、「少女の思へる」の「ならないかーのかーのかーのかーのか」である。四回のも一箇所ある。

挿入の場合は、詩稿の書き方からは、後からの推敲によるのしか見えないが、断定は出来ない。削除と変更の場合は書きながらと思われるのと、後の推敲と思われるもの、どちらとも不明のものにと分れる。

光太郎が助詞を明瞭に効果的に、微妙なまでに駆使しようとした意向は、二百二十八箇所の手入れて表明されていると思う。手入れもしない

寂しいパノラマの地理を教えて下さい。」の初めに「もう一度」を補ったのである。正反対の二つの推取を使って成功している。「もう一度」が挿入されて、最後のリフレインが生き、最初、途中のリフレインが微妙なニュアンスを持てるようになっていく。

挿入は簡潔化の反対であるが、印象がぼやけるのでなく、強烈、明確にしている。「或る墓碑銘」の「彼の造形美術は木材と岩石とに還元せり」彼の造型は木材と岩石との構造にまで還元せり。一は「構造にまで」が入れられて、「一生を棒に振つた男」にふさわしくなってくるから不思議である。

挿入も一回の推取のものが大部分であるが、「ミシエル オオクレエルを説く」では「閉ぢようとする心をどうしても明けよう」に「とする」を付加し、「する」を消して「いふ」に、それを消し、「する」にし、五回推取している。この類は二箇所ある。「ゆつくり急がう」の「危険象限をのりきりますか 半円を↓危険象限をのりきりますか この半円を↓あの半円」は三回推取であるが、この類は四箇所ある。もう少し詳細に述べたいが、削除の反対であるから、凡その推察がつくと思うので、紙数制限もあるし、簡略にした。

ウ 表現変更

削除とか挿入付加と単純にいえぬ推取を一応この分類に入れた。

まず、一行を数行にした場合が六篇ある。「鉄を愛す」の場合
「金でない、ギヤマンでない、又煉鉄でもない、」
ギヤマンでない

いふし銀でない、「と三行にして、それぞれにウエイトを持たせている。

二行にしたものは「式典の日に」「講演会で読んだ言葉(二箇所)」「山道の小母さん」「合せ祀らるる靖国の神に」「田植急調子初稿(二箇所)」にある。

反対に二行にまたがって推取し一行にした場合もある。「クリスマス夜の」の「彼の言葉はゆびきならぬ内側から響いてくる

痛いとこに皆触れる」の類が三箇所ある。

「芋銀先生景慕の時初稿」「かんかんたる君子初稿」に一箇所ずつある。

次にことばの入れ替えが、十三箇所ある。(字体の入れ替えは三箇所、前に触れた)「冷然初稿」には二箇所もある。「感情は比重的低いほど」「精神は曲折の度の高いほど」。「無口な船長断片」の「そのD文、」などの簡単なものもある。

表現改めがごとば改めの場合それが何回、一語について行われようとして単純である。特に同品詞、同成分の範囲において行われる場合は単純である。たとえば、「こちら↓こなた」「風貌↓形相」「俺↓私」「小景↓光景」「入れる↓こめる」「ざる↓ない」の類である。単純であるが、たしかに適語にされている。見事なものである。

一行全部が到る所、推取されているのは部分的に取り扱えない。そういうのは一行推取として取り扱った。「冬の言葉」の「この世の少しばかりの擬勢とおめかしとを 冬はてんで問題にしない。」の一節で「冬はてんで問題にしない。↓冬は黙って蹂躪する。↓冬はいきなり蹂躪する。」と改めている。この例は比較的簡単である。「蟬は彫る」では「わたくしは今これを彫る事に一切を投じる」↓「やがてわたくしはこれに一切を投じる」と、やがてを補い、今と彫る事に削除している。「仕事場にて」では「小さな○歯車のネヂ一つでも」が「生けるしるしありとは其のことだ。今日」に改められ、全く変えられている。これは一行削って、新しく一行挿入したと考えるべきかもしれない。又、「はつきり自分でさう信ずる」を「はつきり信じて(木)木を刻む。↓今朝も出かける。↓座は、木。↓座につく」としているのは、一行の趣旨に自分の動きを添えたもので、(木)と座につくでは字確めがされている。「青春のうた」の最終行は「われらが青春のよるこび今窮○なしる所」ルビ省く↓快いかな、われらが青春無限の力。」「新年」の断片に「どうか愛の心の録りますやうに↓信じ合ひ愛し合ふかけ引きのない世の中になりませうやう」とある。決定稿では、「われら一人一人が人間であり得ますやうに。」となっている。どの例も思い切った推取が行われている。紙面の関係で、全詩を掲げなかったが、たしかに一行が生きてきて、さらに全詩を生かしている。

「朋あり遠方に之く」の「朋の健を知る↓朋は丈夫だ。」のように一回の推取のものも二十箇所あるが、大体は二回以上、九回十回と推取しているものもある。

かに点出した。

発表後、大ナタを振ったのは少し前にも述べた。これは一期の作品の四篇百四十三行、二期の作品の五篇十二行と「母をおもふ」の反歌二首で、外の期の作品には見られない。「クリスマス夜の五十七行削除に次ぐのは「ラッコツチイ マアチ」の五十四行である。「クリスマス夜の」は九十行の詩が三十三行に、「ベルリオの一片」は百二十行から六十六行に（「ラッコツチイ マアチ」の部分が残され）、それぞれ約三分の一、二分の一にしてしまったのである。

「水上戯技」は「誰にも説める。誰にも説めないへへののもへじ。」の終り二行が省かれた。飄々としたユーモアのある二行だが、やはりない方がすっきりする。反俗的な、意欲的な、きびきびした、スピードのある、いきいきしたりズムのこの鋭い氷のような詩にはない方が洗練された感じが倍加する。

一部削除については、一語の場合と連語の場合とあるが、都合上、今回は一緒に扱った。連語を一語に分析して考えれば、削除箇所数は更に増加する。総箇所二百八十七、名詞、代名詞、動詞、形容詞、形容動詞、助詞、助動詞、感動詞、接続詞、連体詞、副詞いずれも削除の対象になっている。主語、述語、連体修飾語、連用修飾語、独立語いずれも光太郎の目になわぬものは消される。痕跡を残すものと残さぬものとの差はあるけれど。

それぞれの詩にそれぞれのことばが選ばれているのであるから、同一語が省かれるということはあるが、目立つ語に「やうな」「やうだ」があり、十箇所を数える。例示、たとえ、不確かな断定をあらわす曖昧さをもつ語をやはり排除している。そのものずばりの磨きのかかったものに仕上げた。直喩は隠喩になり、比喩関係が相即して、一層力強く印象的になる。「目つぶしのやうな雨―目つぶしの雨」（雨にうたるカテドラル）のように強烈になる。次に「だが」「さうして」「しかも」など接続詞の省略も、詩を簡潔にし、ひきしめるが十四箇所ある。連体詞も目立つ。「この」「ある」など、十二箇所。このあのと同質のもの、代名詞も十三箇所。「ほんとに」「ただ」のような副詞がそれぞれ三箇所。「なんだか」二箇所、「なんてのは」一箇所。曖昧なことばは削られているのに気づく。断定の助動詞「だ」を省くことで体

は止にしているのは三箇所。「ひとつ」という数詞も三箇所。「今・今は」は四箇所。これらは口ぐせのように書いてしまつて消した感じがしないでもない。

一部分削除の場合、一回の推敲で終つたものが多いが、「まじりして」「~~おん~~いねえ」のように三回のもも七箇所ある。

なお、語の一部を削除したものもある。たとえば「~~おま~~つつかみ」のように接頭語を取り、「~~入~~潮」のように修飾限定部分を省いたものである。三十一例ある。それだけ簡潔になることはいうまでもない。

挿入、付加

削除の反対の挿入もかなりある。

まず一行挿入については、二十五篇三十九行で、削除の三分の一篇、四分の一行で、削除より圧倒的に少い。「レモン哀歌」の「それからひと時」は挿入である。

（前略）智恵子ほととの智恵子となり

生涯の愛を一時にかたむけた

昔山嶺でしたやうな深呼吸を一つして

それからひと時

あなたの機関はそれなり止まつた（後略）

この一行が入れられて、時の経過が示されたのはもちろんだが、それだけではない臨終のイメージが 発露としてくる。やはり効果的といえるであろう。

語の一部の挿入、付加もある。「思つてる―思つてゐる、乗手の―乗手らの、みづから―おんみづから、わたし―わたし」のような、接頭語や接尾語をつけたもの、省略しない方がいい方にしたものは三十九箇所ある。わたくしが、そのうち二篇で十五箇所である。

「魂―靈魂、日本島―日本列島、セキレイ―キセキレイ、磐橋の―磐梯山の」の類は二十三箇所。日本島―日本列島は三篇三箇所あって、あ、又と思う。

他は一語又は連語が各品詞、各成分に亘つて二百七十二箇所挿入されている。

「樹下の二人」は推敲二箇所。一つは「此のがらんと晴れ渡つた北国の木の香に満ち満ちた空気を吸はう。」の削除、「この冬のはじめの物

削除した二行があってもかまわぬようにも感ぜられるが、やはりとった方が、さわやかさが生きてくるように思う。

「冬」の好きな光太郎の「冬の奴」をもう一つあげると、冬の奴がかあんと響く響きをする、思はず誰でもはつとする。

海の潮まで一浪に透きとほる。

なるほど冬の奴はにべもない顔をして、がらん洞な空のまん中へぎりぎり、

狐色のゼムマイをまき上げる。

冬の奴はしろじろとした算術の究理で、魂の弱さを追及し、追及し、

どうにもかうにもならなくさせる。何気なく朝の新聞を流んであても、

凍る爪さきに感ずるものは冬の奴の決心だ。

ゆうべまでの心の風景なんか、てんで鍛くちやな懐気楼。

ああ、冬の奴がおれを打つ、おれを打つ。おれの面皮をはく。

おれを粉々にして雪でうづめる。おれの身を棄てさせる。

冬の奴は、それからがお前は立てといふ。おれはようしと思ふ。

この詩稿は、題と署名と、最終行が欄外に書いてある。ひょっとすると、一行削除した代りに、最終行を書いたかとも思われるし、どうしても最終行が書きたく、しかも二十行時にしたくて削ったのかも、とれる。原稿用紙と行数とは無関係で、一行はみ出して書き、推敲して削ったとも考えられる。また、「それからがお前だといふ。」で一応まとめていたのを、「それからお前に立てといふ」に改めた。そうすると、それをうけて「おれはようしと思ふ。」と書いたのであって、一行削除とは無関係であるとも受取れる。この最終行は光太郎の気魄に満ちていて、

まことに効果的であるから、その書かれ方には興味がある。最終行まで書いて、「それからが……」をそれに応じるように推敲したとも考えられる。「おれを無価値にさせる」の削除を、最終行とは無関係か、関係があるか、どちらともいえないが、とにかくこの削除は利いている。

「打つ」「面皮をはく」と具象性を持たせた表現のあと、抽象性を持つ表現はげしい詩情を弱めてしまう。打つもはくも象徴的心象的表現であるが、やはり「無価値」とは次元が違う。この削除が、書きながらされたか、後からのものか、不明だが、私には書きながらのように思われる。仕方がない。「肅然と一度に」の連用修飾語の推敲は、鮮やかである。「追来―及」は漢字改め。

二例とも一応の決定稿であるから、初稿の例「クチバミ」をあげてみたい。

娘がとぐるをまいておれを見る
それはあんまりきれいな①②③④
患慮本かい

けたかく、さどく、思慮ふかく、
どうもおれには手出しができない。

野末のおれには手出しができない。
町では土田中を売るが

すぎがゆれると秋の日ざしが
金と赤とで頂を装ふ。

おれも彼女をぢじつと見てるが
彼女のヤンキーのシンメトリーは

おれの内部の螺旋状思念の
まんざら無意味でないのを知る

野末におれは位置はとも
極秘の怒りのゆびさき、はじけた下唇も

そのままで。十四行中、四行まで削除である。思慮ふかいは書きながらの削除、次にすぐ生かされている。町ではの行も書きながらの削除か。すぎがの行との続き工合から思わせられる。まんざらの行、野末にの行、これは書きつつか、後の推敲か、はっきりいえない。この四行のない形が、けたかく、さどく、思慮ふかい娘と、光太郎の極秘の怒とを鮮や

と「芒」、字の違いが不思議な心象をもたらしてくる。「薄し芒」は「山麓の二人」の中の書き改めであるが、わたしはもうちぎ駄目になると泣きじゃくる智恵子と光太郎を取りかこむ風景としてのすきは、やはり芒がピタリである。

漢字からかなに、かなから漢字に、漢字改め、ともに同じ意義が根底にありうと思われる。「言葉の事」の中で「人間の心情にはもつと深い、こまやかな、無限の色合があるのに、言葉はそれを言葉そのものの流儀にしか通訳してくれない……書く言葉はすべて人為語である。語す言葉よりも人間の意志と教養の力で変形し易い言葉である。」と述べているが、言葉―書く言葉で表現する詩の字に、細心、克明な心遣いを見せているのは当然かもしれない。無限の色合を少しでも表現しようとする苦心を認めていいと思う。

表記面の推敲は、何といっても単純であるし、推敲回数も一回のが多い。書きながらの即時になされたものが多く、即決でふさわしいものにかえられている。字確めだけは、神経質過ぎるような感じもするが、これは神経質なのではなくて、何事も得心のゆくまでやらねばすまない名匠気質のあらわれとみるべきであらう。

データーを具体的に全部挙げると、全貌が明白になるのである。どういふのはどういう分類に入れたか、私見を理解して頂けるのであるが（考えようでどうにもなるものもある）、繁雑のきらいもあるし、紙数制限もあるので掲げない。

B

表現面について

推敲の核心にふれられるのは、何といっても表現面である。表現をかえること、削除、挿入、それらが一行全体に亘るもの、部分的なもの、いろいろであるが、表記面よりずっと複雑であり、推敲回数も重ねたものが多くなっている。推敲を重ねた末、初案にもどることも多い。以下少し検討してみたが、時間と紙数の関係で十分なことが出来ないことを詫言っておく。

ア 削除

饒舌より、適切なら簡潔な表現の方が、緊密度が高く、詩情の結晶も一層純化される。磨き上げた簡潔美は詩歌の特権である。磨きに磨いたダイヤモンドのような言葉、生きた言葉を光らせるために、余分を省く。

思い切って惜しげもなく一行でも二行でも光太郎は削除する。七十篇の百四十一行に線が引かれている。一部分の削除は二百七十三箇所に及ぶ。雲の紐かい点では、ことばの一部を削除することまでしている。

一行削除の例を短いたので「新茶『古風な東京幻想曲』の「一」をあげる。
新茶の走りも、~~うしろもまたね。~~

なんのかんのと云つてあるうちに
どこもかもまつさをでは振りませんか、ないか。

みんな抜かれてしまつたて、
たまにしかみかけない、

並木の柳も、
すつかり昔の唄を思ひ出して、

唄の通りに燕を飛ばして、
赤い練瓦は見えるものの、

やつぱりいたづらな風に願いて、
緑の中でも、あれごらん、

わけて古風な緑をながすね。
さう言へば、おばあさんのうぶすな様の

相の森のお稲荷さんの、
今日は宵宮だね。

こんど出来たお獅子を見たかね、
新坂町の気負ひだね。

さうかうすると、
ちぎ三社さまが来るね、

お富士さんの麦薨が出るね、
ほんともう五月だね、

五月花ね、
新茶の走りかもう出たね。

この推敲はまず、「出ましたね。」の「まし」を削除、「。」をとり、

「まつさをではありませんか。」を文体を揃えて「ないか。」にかえ、

「抜かれてしまつた。」を「て」に（これは書きながらかもしれない）、第一

一行と第二十二行を消したのではなからうか。さわやかな季節感をもり、

こんだ東京風物詩。のどかで、平和で、昔ながらの江戸情緒も漂うし、

訂正は十三箇所。句点から説点へかえたもの十一、説点から句点へは一、説点の場所訂正は一である。挿入は説点のみで二十四箇所。削除は説点二十一箇所、句点十箇所である。句点を削除して又つけたのは三。詩稿四十四篇に計七十一箇所の句説点の手入れがなされている。神經の行きとどいた推做である。

オ 符号について 句説点以外の符号の訂正、抹消、挿入など三十四篇百二箇所。行間をあける符号が大部分を占める。符号挿入で一番、目をひいたのは「同撰同類」の一付である。これは推做時に付けられた事が詩稿では一目瞭然である。十三付けて、最後の「油俣を伴奏にしての」は抹消してある。まことに効果的な推做段階で付けられたことに心をひかれた。符号は全体として、後から付けた感じが濃厚である。

カ ルビについて ルビのない詩、総ルビの時、バラルビの時について触れない。推做の跡の見受けられるものについてのみ扱い、訂正、削除、付加の場合を考えた。二十九篇、五十七箇所に見られる。「美しき落葉」の「落葉を焚く」のルビを初めは「た」それを「や」に改めているのは印象的である。ルビにも微妙なニュアンスをかますよう配慮されている。

キ 漢字表現をかな表現に 表記とせず表現としたのは、表記を通しての表現意図が感ぜられるからである。漢字からひらがなに改めたのは百二十五箇所。「醋酸」「涅槃」「安穩」と漢語漢訳梵語などは三箇所で、あとは全部和語であり、和語のソフトな語感を生かす心づもりが感ぜられる。この字改めは書きながらすぐされたものと、後の推做段階のもの、どちらとも判明しないもの三種類がある。「枕もと」「車たま」「細海らぎ」「ひるがへらない」など、書きながらでなくてはと思われれるものが二十六箇所、「かへりみ」「すずしい」「ひとり」など、後で書き直された事が歴然としているものが六十八箇所、「掘わり」「あかない」「付ふ」など、どちらともとれるものは三十二箇所である。書きながらの字改めは即時の推做、推做段階では即時のより熟考されたものとも考えられるので、過半数が後の推做過程によることは、字面からくする語感も大事にされたことがわかるのである。

カタカナに改められたのは二箇所。一つは「亜細亜的」アジヤ的「非ヨオロッパ的なる」で、この題は「欧米的」と漢字に直され、詩中の

「亜細亜」が「アジヤ」と改められた。この字の入れ替えは少し光太郎らしくないと思つたが、詩集「記録」では詩稿の鉛筆訂正通りであるが、最終形では「非ヨオロッパ的」と元にもどされている。もう一つは「山荒れる」の「盛岡」モリオカ」である。ラジオの電波の騒音なのだから、推做の、モリオカがピッタリなのである。ひらがな、カタカナ改めはともに推做回数は一回である。

ク かな表現から漢字表現に かなから漢字に改めたのは八十七箇所、前者より約五十箇所少い。しかも書きながらの字改めと思われれるのは、「成る」「方に」「聞き」など七箇所。「思つまる」「惜かし」「本やく」など、後の推做時でと思われるものが六十二箇所。どちらともきめられぬもの「暗れ」「近寄り」「居る」など八箇所である。圧倒的に推做段階でのものが多い。漢語は「ていねい」「丁寧」だけで、あとは全部和語。発想的にはひらがなであつて然るべきものであるが、字面の感じが詩語として漢字がふさわしい場合、改められている。大体一回の推做で終っているが、「一億の号泣」の「われら」は「われら」吾等→われら→吾等→我等」と四回で定着している。

カ タカナから漢字に改められているのは「トーキョー」東京」だけである。「田植急調子」にはひらがなの箇所の後から横に漢字を加え、結局ひらがながルビになった所が十箇所ある。これは漢字へ書きかえの一変形である。

カナ 漢字の表記において、詩「母をおもふ」には「懐のなかふ」ところの中」と表記のいれかえがあるが、妙味のある字改めである。「あのむつとするふところの中のお乳」で、幼時の追憶が不思議に生きてくる。この類のは「もの涙い物すこい」「薄ぎたないうす汚い」がある。うす汚いは如何にも感じがよく出る字面である。

ケ 漢字変更 漢字改めについては詩題で既に触れたが、計九十二箇所。当用漢字で教育されている現在の生徒では思いも及ばぬことで、細かに使い分けられている。「ぬかるみを遣ふのだ」(無限軌道)の「遣い削」「窓」(をちさんの詩)のようなものである。中には間違ひの訂正と思われれるものもある。一回の推做で改められているが、詩「雷歌」の「煙硝」焰硝「焰硝」は二回。「追ふ」と「逐ふ」、「末と裔」、「薄

よりふさわしくなったか、証明しなければなるまい。ただどんなに変ったかでは序の口である。しかしこの作業は、主観的にならざるを得ないし、紙数制限にもひっかかるので、今回は割愛することにした。

7 推敲のなされ方について

推敲に当って、ごく自然に、ケース・バイ・ケースで行なわれており、分類して考えることは、生きた方法ではないかもしれない。どの詩にどのような推敲がなされたか、具体的に個々に追跡することが、大事である。しかし、それは歴大なものになり過ぎて、かえって全貌がつかみ難いかもしれない。そこで、後で、一・二の具体例にはふれることにして、類型を考えてみたのである。

表記面、表現面、態度と三方面から、推敲のなされ方を追究した。

A 表記面について

ア 書き違い訂正 ものを書く場合に、脱字をしたり、つい筆がすべって、次に書くべき字を先に書いてしまったり——思考が字の作業より先に走る、即ち頭の回転が早過ぎて、手の作業が遅れる場合によく起る——するものであるが、光太郎もご多分に洩れず、そういう訂正も見受けられて、微笑ましい。例えば、「一ぱいに」「ささやく」「値ひがきたき」「大洋平洋」など、すぐに気付いて訂正し、下に書きつけている。「勝このうむにあり」などのように、後で入れている感じの場合も勿論ある。詩稿百十一篇に総計百七十一箇所、この中には字を確実に書くためのもも含まれていると思われるが、消した字がよく読めないもので、書き違い訂正に入れてしまったものもあろうと思う。

書き違い訂正は、詩稿を見ていると、書きつづなされたと思われるものが、大部分を占めている。なお、原稿整備のためのもも見うけられる。「あれから大陸の半分には血が流れ血が拭はれ

れ、」の類である。一行に押しこもうとしたが、やはり不可と思って改めたのである。この類も見かける。

後から間違いに気づいたのではないかと思われるのは三箇所、即時か

後からか分明的でないのは十五箇所である。なお、推敲しようとして、書きかけて止めて消したと思われる箇所も六箇所あり、字の横に痕跡がある。推敲の意志を表示、抹消、ということにならう。

イ 確実にするための再表記 見逃せないのは少し曖昧な字体だと光太郎が思った場合、再び書いて直していることである。例えば「小娘」の最終行は「往來を掃いてゐた。」であるが、その「掃」をもう一度正確に横に書いてある。これを最初に、詩稿百十二篇に百九十一箇所もある。漢字にも、ひらがな、カタカナ、ローマ字にも「字確め」はなされている。この字確めにも光太郎が一つの字もゆるがせにしなかった心の反映がある。初めの字も、見た目には少しもおかしくはないのであるから。

かな表記・送りがな・句読点・符号・ルビ・漢字改め・漢字表現からかな表現へ・かな表現から漢字表現へなどにも同じことがいえると思う。ウ かな表記・送りがなについて 推敲回数は一回。全詩稿三頁の「ひょうひょうと吹く風へうへう」を最初のかな表記改めとして、三十九篇、六十八箇所。戦後期がその過半数三十五箇所であることは、そのうち新かなづかいに訂正したのが十八箇所含まれているからで、明治育ちの詩人として、戦後の時流に合わせる努力をしたためである。濁点を後からつけたのが「田植急調子」に一箇所ある。濁点を除いたのも一箇所ある。

送りがなについては、削除した場合と挿入した場合とあるが、三十一篇に見受けられる。「海鳴り」(序曲)を手始めに削除は二十二箇所。挿入は十箇所。「窪へ落ちて窪みへ落ちて」は書きながら送っているもの、「お情だけで」などもこの類である。もちろん後から送ったものもある。削除については、書きながらとも、後からとも判定し難い。書きながらの方が多くにも感ぜられるが、動詞・形容詞からの転成名詞、動詞、形容詞、形容動詞の活用語尾、活用語を含む複合動詞の場合などに、この送りがなの推敲がなされている。

エ 句読点について 符号の中でも句読点には、詩人は深い意味を持たすものである。全部つけない場合、つける場合のつけ方など。草野心平は句点の使い方に独特の深い豊かなニュアンスを持たせて、専ら句点を用いることが目立つ。光太郎には特に型はないが、心配りは感ぜられるので、この項を符号の項から独立させて考えてみた。

は一変すると同時に語的表現になっているが、この型が四題ある。

この方法は簡潔になるから、一部削除と同じ効果があらわれている。一種の体言止表現であるから、余情の面も考えられる。

日本の詩の題は語的一体言による表現が多いが、この傾向が光太郎の推敲の際にもしるびこんでいるように思う。この反対の語的表現から文的表現にされたものはこの型の半分であり、計五題である。このうち、一変したもので、この方法をとったものは四題である。

初案にもどったのは五題、暗愚小伝の目次において二題。推敲はしてみたものの、変り映えがせず、初案の方がやはりよいと考えたものである。この中に推敲回数最高十四回の「明瞭に見よ」(初稿)がある。一応の決定稿も「美ならざるなき―明瞭に見よ」とまだ揺れ動いて、初案に落ちついている結果としては推敲が生きたことになり、苦心の跡は詩稿にありありと示されていて、知られざる簡述とでもいうべきか。「肅然たる天兵―偉大なるかな―肅然たる天兵」などは、偉大なるかなと書きかけ、完了しない間にもう、もとにもどしたことが読みとれるのである。「全学徒起つ」の場合も同じ、変えかけて気にならず、すっかり変えもせず、もとにもどしている。表記については、まずかなから漢字にかえたのは四題。「雪白くつめり」と「雪白く積めり」と一字のことで、随分積雪の印象が違ふ。積めりの方がいかにも沢山降り積っているように感じられる。語感のみならず字感も光太郎は鋭い。

次に漢字からかなにしたものは三題。「挨拶―あいさつ」は確かに柔らかな感じになっている。

漢字改めは四題。光太郎は弟妹達に宿題を出して、その検閲をし、丁寧に直したという。令弟豊岡氏は「兄は、まず勉強して知識を得よ。それには字を正確に覚えねばいけない。」又「子供の時、ある年、千葉の海岸に避暑するのに兄が行かぬ時があった。その際、皆に日記を書いてこいといわれ、帰京後兄が丁寧に字を直したり、注意してくれたりした。」など思ひ出話をされたが、欧米留学中にもこのような事が続いたことを聞き、その中にこもる弟妹に対する愛情の深さにしみじみと打たれた。弟妹たちにきびしく字の注意をする光太郎であるから、自分の使う字について細心の心配りをしたのは当然であろう。「堅氷いたる」という詩がある。「氷」の本字は「冰」なのである。

以上の三つは字選びである。どの詩人でもすることだが、光太郎とて例外ではなかった。これは推敲としては単純である。一語でなく一字もゆるがせにせぬのを単純というのはい過ぎかもしれないが、原題の飾を止めぬ場合と比してである。

書き違ひの訂正、字を確實にするためもう一度同じ字を書いているもの、暗愚小伝の目次における題抹消、それぞれあるのは既述の通りである。これは所謂推敲の部には入らないかもしれないが、無視も出来ないので触れた。書き違ひの訂正や確實に書き直したものは、書きながらの訂正や二度書きがされたものが多い。

決定稿と異稿と題が違っているものについて

一応の決定稿

「あなたはだんだんきれいになる」

「指す人―何をまだ指さしてゐるのだ」

「へんな貧」

「四月の馬場」

「審判子は居る―元素智恵子」

「殖民都市―新州未来―おやさんまゐる」

「山人まゐる―東京悲歌」

異稿

「天の金属」

「指す人」

「貧―穴すまひ」

「風かをる」

「智恵子は居る」

「山人まゐる」

六篇について決定稿と異稿の題は違っている。「あなたはだんだんきれいになる」と「天の金属」、「四月の馬場」と「風かをる」、それぞれ決定稿と異稿との間に飛躍がある。異稿は早い時期のもの、初稿的色彩を持つのであるが、一足飛びに変わっている。その間にもう一度考えた稿の存在もあったかもしれない。「へんな貧」、頭の中で熟し、いきなり決定稿に書きつけられたのかも知れない。「へんな貧」は異稿の「穴すまひ」の初案。「貧」にもどった感がある。「何をまだ指さしているのだ」と「元素智恵子」とはそれぞれ異稿の題を書き、推敲を加えている。「東京悲歌」は異稿の題「山人まゐる」とはまるで違ふ。「殖民都市」とまず題され、推敲途中で、「山人まゐる」が又、浮び上がり、結局「東京悲歌」に決定している。「東京悲歌」は推敲五回として既述したが、本当は「山人まゐる」を初めに、六回とすべきであろう。「へんな貧」も「貧―穴すまひ―へんな貧」と推敲二回とすべきであろう。題の推敲について、生命を吹き込むには、詩との関係において、それが、

○指さす人―何をまだ指さしているのだ。

○死後―無いからいい。○熱風―孤独が何で珍らしい。○天の金風―あなたはだんだんきれいななる。○おはなし―少年に与ふ―一変のものに既述

8. 初案にもどる(5・目次2)

○風にのる智恵子―智恵子飛ぶ―風にのる智恵子

○新殺感謝の歌―新殺感謝祭の歌―新殺感謝の歌

○爾然たる天兵―偉大なるか○―爾然たる天兵

○全字徒起つ―字―戦に―全字徒起つ

○明瞭に見よ―新年加祭―2と8略―明瞭に見よ(推敲回数と過程に既述)

(暗愚小伝目次)。終戦―八月十五日―脱却―脱却―終戦。協力全議会議

9. かな表現から漢字表現に(4)

○はれゆく空―暗れゆく空。○非ヨオロッパ的なる―非欧米的なる

○雪白くつめり―雪白く積めり。○もしもあなたが―若しも智恵子が

10. 漢字表現からかな表現に(3)

○上州川古「醋酸」風景―上州川古「さくさん」風景

○挨拶―あいさつ。○大地麗し―大地うるはし

11. 漢字改め(4)

○マント非排―マント狒狒。○特別攻撃隊の方々に―方々に

○無想の劍―無想の劍。○脱却の歌―脱却の歌

12. 書き違いの訂正(5)

○非ユークリットの夜。○つゆの夜ふけに―つゆの夜ふけに

○お化屋敷の夜。○勝このうにあり―勝このうちにある

○昭南島生誕三周年―昭南島生誕二周年

13. 字を確実に(2)

○新らしき御慶―慶―慶。○われらの祈

14. 抹消(暗愚小伝の目次のみ。9)

○湖中に育ち(2)。○車清戦中。○未米無暎。○不明字のもの4

○水が詩をよみず人死にやけり

一変したものの三十二題と暗愚小伝の目次四題と量的に一番多い。「熱風―

孤独が何で珍らしい」「徑に由らず―冷熱」「世界変貌―生命の大河」と全く改められている。発想の飛躍がある。光太郎の推敲の振幅の大きさを端的

に示している。これは推敲回数とは正比例はしないし、逆比例でもない。回数が多いものにも、少ないものにも一変されたものがある。三十六題の一つ一つの推敲を、詩を読みながら検討してみると、光太郎の心の動きを追体験できるように思う。具体例をあげたいが、紙数の関係上、割愛する。

一部を変えたものは二十四題で、次に多い。「おそろしき空虚―おそろしい空虚」と文語を口語に直しただけのもの、「昭南島生誕三周年―二」のように思い違いの訂正、「のつばな奴は黙つてゐる―の」などの単純、簡単なものもある。「冬の喇叭―言葉」のように一語の推敲で終わったものは八題、「ひとり思へる―少女の思へる」のように一語の推敲につれて助詞を挿入したり、「ミシェル オオクレルを読んで―読む」のように助詞を削除したり、つまり一語と助詞の推敲に及ぶものは九題、「酸素を奪ふ―独り酸素を奪つて」のように「独り」を挿入し、終止形を連用形に、接続助詞を加えたりして、工夫をしたものもある。この類は様式がいろいろであるが、四題ほどある。一部を変更することで、より適切に効果的になっている。「もしもあなたが―若しも智恵子が」のように具体的な表現、漢字表現にしたことが、印象を鮮明にしている。「新しい巨大な火の玉―新しい天の火」は洗練された美しさが加えられた。

一部を削除したものは十三題で、第三位の推敲の型である。すべて、簡潔になり、焦点がしぼられて印象が鮮明になっている。「序曲の前詞―序曲」「鉄の燭台を愛す―鉄を愛す」など。説明を要しない。

挿入したものは八題、これは削除と反対に長くなっている。拡大することによって、ぼやけるといふのでなく、「月と手―月にぬれた手」のように限定する語の挿入によって、印象的にしている。「黄をさらさう―天日の下に黄をさらさう」は「天日の下に」を入れることによって、われわれ黄色人種の黄をさらす心の強さが強調されている。だから長くしたというのではない。

削除と挿入と両方あるものは二題、卑近美派は過程を進らなければ、単なる語の挿入に見える。

文的表現から語的、体言的表現にかえたものは六題、一変したもので、この方法によるものは四題、計十題である。

「ひとり坐す―孤坐」式が五題、「智恵子は居る―元素智恵子」は体言二語にしたと同時に「は居る―元素」に改められている。「徑に由らず―冷熱」

○子らのために→講演会で説んだ詩→講演会で説んだ言葉
○われらが勤勞→外に出て学ぶ→勤勞報國

○山口風物→山口いろいろ→山口より

○もしもあなたが→若しもあなたが→若しも智恵子が

○月と手→月にぬれた手(字確め)

○時代戯○→火星からの電話→かんかんたる君子

○新しい巨大な火の玉→新しい火団→新しい天の火

1 回。残り全部(七十六篇の題と暗愚小伝の目次題十)

○詩を書いた後から題を書いたもの。八篇(夏書十題中)

以上であるが、例えば「月と手」を「月にぬれた手」と比べてみると、推敲の素暗しさに心を打たれる。しかも一回でアイデアは閃いたのである。具体的に如何に変えられていったかを迎れば、説明しなくとも一目瞭然である。次にどんな推敲方法で、どんなになったか考えてみると、

1. 一変したものの(32・目次4)

○そんなに鼠が→猫。○偶作→なにかし九段。○死後→無いからいい

○朝のおどろき→約束。○或日→結婚。○熱風→孤独が何で珍らしい

○怪に由らず→冷然。○「測陰」に寄す→悪魔の貞操に寄す

○おはなし→少年に与ふ。○生→或日の記。○五月→初夏到来

○貧→穴ずまひ。○悠久なる速度→落日。○風かをる→四月の馬場

○神明の氣→危急の日に。○子らのために→講演会で説んだ言葉

○「軍神につづけ」→みなもとかへるもの。○学徒出陣→四人の学生

○日本の母を訪ねて→山道の小母さん。○敵前にあり→覆滅彼にあり

○飛行機を思ふ→貴さ限りなし。○春喧まさに来らんとす→陽春の賦

○今はお兄さん達がやる→神潮特別攻撃隊。○おちいさん→日清戦争

○四年目→新年。○回心→あの頃。○美ならざるなき→明瞭に見よ

○殖民都市→東京悲歌。○天の金風→あなたはだんだんきれいになる

○時代戯○→かんかんたる君子。○世界変貌→生命の大河。○脱却→終戦

(場末酒場→暗愚。最低どん底→源始源泉。終戦→どん底。日露戦争→彫

2. 一部変えたもの(24)

○ミシエル オオクレルを説んで→説む。○冬の喇叭→言葉

○死にきり→死ねば。○酸素を奪ふ→酸素を奪つて

○のつぽな奴は黙つてゐる→の。○機械ぢやない→機械、否、然り

○藤島先生の画集に題す→武。○地誌第一課→地理の書

○国花桜→ぼくらの花桜。○大東亜神と俱にあり→われら

○美しき一念→逞。○ひとり思へる→少女の。○一億の品性→必勝

○われらが勤勞→勤勞報國。○合せ祀らるる神國の神に→婦

○盤の道→根元。○おそろしき空虚→(目次も)

○吹雪の夜に→の。○山口風物→より

○児童会館建設のうた→建てましよう吾等の児童会館

○もしもあなたが→若しも智恵子が。○智恵子は居る→元素智恵子

○新しい巨大な火の玉→新しい天の火。○昭南島生誕三周年→二

3. 一部を削除したもの(13)

○序曲の前詞。○鉄の舞台を愛す。○人生遠視(序にかます)

○或手紙に添へて。○若葉の中は下。○小ま源始にあり

○上州川古「醋酸」風景。○式典の日にあたりて。○幾千万の少女よ

○軍神特別攻撃隊の方方に。○独居自炊(或る行實をりけたもの)

○暗愚の道。○岩手県開拓の小人に寄す

4. 挿入(8)

○比興→街上比興。○黄をさらさう→天日の下に黄をさらさう

○事変四周年を越す→事変はもう四周年を越す

○月と手→月にぬれた手

○夜を寝ねざりし暁に→夜を寝ねざりし暁に書く

○大決戦に入る→大決戦の日に入る。○まりうた→まりつきうた

○泰西詩人に与える滑稽詩→東洋を弄ぶ或種の泰西詩人に与える滑稽詩

5. 削除と挿入(2)

○或る家庭の素描風日常詩→素描風なる日常詩

○卑近派→卑近派不用→卑近美派

6. 文的表現から語的表現に(6・4)

○ひとりり坐す→孤坐。○仕事場に坐す→仕事場にて

○寒夜書を読む→寒夜読書。○ビルマの独立をたたふ→ビルマ独立

○熱烈の年が来る→熱鉄烈火の年。○智恵子は居る→元素智恵子

(○徑に由らず→冷然。○風かをる→四月の馬場。○「軍神」につづけ→
も変し
に既述

詩稿四百七十三篇中、題についてならんらかの手入れのあるものは百。暗愚小伝の目次の題の推戯は二十を数える。一期は四篇、二期は十一篇十八、三期は十三篇、四期は二十二篇、五期は三十篇、六期は二十篇三十である。二期の十一篇十八というのは、「夏書十題」のうち八篇に後から題がつ付けられ（うち二つは推戯されている）、それを考慮に入れると十八になるのである。六期の場合には「暗愚小伝」の群詩のそれぞれの題と目次の題の推戯が十一あるから二十篇三十となる。延数、百十七の題で、大体25パーセントに及ぶ。

この中、「非^③エネクリットの」「つゆの夜ふけに」「お化屋敷の④夜」「勝このうぐにあり」などの書き違い訂正、暗愚小伝目次中の三つの書き違い訂正と思われるもの、「新らしき御慶」の「慶」の二度書、「われらの祈」のように字確めをしたのなどは、所謂推戯の部には入らないとしても、百八題である。

まず推戯の回数であるが、前記の十四回が最多で、次が九回の「落日」である。原題は「悠久なる速度」、永遠・宇宙・悠久の想と速度との結びつきの中でゆれ動き、一変して作者の位置を示す窓となり、時をあらわす夕ぐれ時となり、又悠久の速度にもどり、落日に落着している。「明瞭に見よ」の推戯十四回中十二回は初稿に於てであり、「落日」も初稿である。次が六回で「独居自炊」の副題である。副題にさえ、何度も手入れをし、そして結局は抹消の線を入れている。いろいろ考えても必要なしと思えば、惜し気もない。五回は「なにごし九段」「山道の小母さん」「東京悲歌」の三題。四回は「ぼくらの花桜」「貴き限りなし」「終戦」の三題。三回は「地理の書」「覆滅彼にあり」「全学徒起つ」「新年」の四題。二回は二十題あり、残り七十六篇の題と「暗愚小伝」の目次題十が一回の推戯である。

回数も回数であるが、どのように推戯されたか、効果的か、光太郎の心がどのようにこめられ、ゆれ動いて、決定題に至ったかが大切であることはいうまでもない。詩を読んで、題の推戯回数とその過程を見ると、これらは明らかになるように思うので、詩は書く余地がないが、回数と過程とを掲げる。

推戯回数と過程
 12回。明瞭に見よ！新年加祭！新年加餐！新年出○！新年！新年言！新年正視！新年安危！美ならざるなき！明瞭に見よ。新年無題、新年珍重、可能のために、（初稿）

9回。悠久なる速度！永遠の速度！悠久の速度！宇宙的速度！窓！窓による！窓に立ちて！夕ぐれ時！悠久の速度！落日
 6回。或る行貨をうけたる日！日を削除！全部削除 別に。昭和十七年四月或る行貨をうけたるころ！或る賞賜をうけたるころ！或る賞賜をうく！全部削除（独居自炊の副題）
 5回。偶作！名人！○！観戦！茶面！なにごし九段
 ○日本の母を訪ねて！山道のおばさん！山道のをばさん！山道の於婆さん！山道の小母さん
 ○頑民都市！新婦去来！おつさんまある！山人まある！東京に来て！東京悲歌

4回。岡花桜！桜花！われらの桜！ぼくらの桜！ぼくらの花桜
 ○飛行機を思ふ！飛行兵を思ふ！貴き限りなし！**（具目）**！貴き限りなし
 ○終戦！八月十五日！脱落！脱却！終戦（目次）

3回。地誌第一課！地理の書！地理への書！地理の書
 ○敵前にあり！大敵覆滅！大敵制伏！覆滅彼にあり
 ○全学徒起つ！**（字）**！**（戦）**！全学徒起つ
 ○四年目！やつぱり！ことほがう！**（四）**！新年
 2回。そんなに猫が！猫！猫（字確め）
 ○卑近派！卑近派不用！卑近美派
 ○酸素を奪ふ！酸素掠奪！独り酸素を奪つて
 ○比興！興！街上比興

○機械ぢやない！機械の**（井格）**！機械、否、然り
 ○或る家庭の素描風なる日常詩！素描風日常詩！素描風なる日常詩
 ○上州川古！「酢酸」風景！ルビとる！上州川古「さくさん」風景
 ○風にのる智恵子！智恵子飛ぶ！風にのる智恵子
 ○履霜堅氷至る！堅氷至る！堅氷いたる
 ○新らしき御慶！慶の字確め二回
 ○生！些事！或日の記

○五月！初夏来る！初夏到来
 ○軍神特別攻撃隊の方々に！特別攻撃隊の方々に！特別攻撃隊の方々に

韻のは浄書を思わせるし、草書的に書き流されたものは天衣無縫なるものを感ぜさせる。どちらかという楷書の浄書のものが多いようである。

一箇所手入れのあるものの中の、筆の勢で書き損じたものの訂正や、字を確実にするために、書き直したものなどは、推敲された跡の残されていない詩の方に入れてもよく、それは二十一篇ほどある。これを加えると九十篇ほどが推敲の痕跡がないことになり、全詩稿の二割弱になる。完全なものへの志向が一段と強かった光太郎であるから、完全な見事な詩稿が多く残されていることも、もつともな現れなのである。

5 手入れのある詩稿について、その推敲箇所数検討

手入れのある詩稿と書いたのは、厳密な意味における推敲には入れにくいような、字の訂正とか字確めの類も、見逃すことが出来ないからである。実状は前掲の表の通りである。最少はもちろん一。最多は六十二箇所、これは「序曲」の詩稿推敲箇所数である。数えようによつてはもつと数が増すかもしれないのである。これは初稿と銘うたれていないものではないが、原稿用紙三枚に亘つて、十二分に推敲されて、初稿並である。各種の推敲の仕方が駆使されている。書きながらも、一応書いた後でも縦横に推敲されている。次に多いのは前記の「田植急調子」の初稿である。序曲は速い筆勢の草書、田植急調子は楷書的に明確に書かれている。

一箇所推敲の詩が一番多くて、六十五篇、二箇所が六十三篇、三箇所が五十九篇、四箇所が四十六篇、五箇所が四十七篇、六箇所が三十七篇、七箇所が十七篇と漸減している。一応の決定稿であるから、当然のことと思う。

推敲箇所の検討には、その詩の長さや語彙数などとの関係を明白にすべきなのであるが、これは後日にゆづつた。なお、どんなに推敲したが、推敲回数はどうかなどについても連関して考えねばならないのであるが、これらについては後にふれることにする。

一箇所推敲の場合は、殆どが一回推敲であり、単純な改め方が多い。字を確実にと書き直したものの、「一日」「いゝる」の類は九篇。うっかり書き違えたものを訂正したものの、「白〇墨」「無垢く」の類は十篇。漢字からかな表記に変えたもの、「あかない」「すずしい」の類は四篇。かなから漢字表記

にしたものの、「くはへ―街へ」の類は二篇。漢字改め、「懐ふ―想ふ」「最後―最期」の類は三篇。新かなづかいにしたものは一篇「燃えてゐる」。助詞について「万象の―を」の変更や「原小中」の削除の類は五篇。挿入は「卑近派」「日本列島」の類四篇。削除は「木下まもたぢり」。ことば改めの「ていねい―いっしん」「驚―駭鳥」「すつかり奇麗になつた―砂利の出た」の類は二十篇。一番推敲らしい推敲の場合がやはり多い。句読点削除と濁点削除もある。

二回推敲に及んでいるのは四篇である。「見せてくれた―みせてくれたね―見せてくれた。」と初案にかえたものの、「空へ来て―空へ出て来て―空へやつて来て」と、挿入し、その語をかえたもの、「酸素を奪ふ―酸素掠奪―独り酸素を奪つて」と動詞終止形表現を体言表現に、さらに中止の表現に語を加えたもの、「比興―興―街上比興」と、削除し、初案にもどり語を加えたもの、以上四篇の場合で、あとの二つは題の推敲である。

二箇所推敲の場合も、一箇所の場合と似ている。「樹下の二人」は「木の香に満ち満ちた空気」のうち「満ち」を削除し、「この冬のはじめの」に「もう一度この冬の……」ともう一度を加えるだけである。「惹」では「寝こんで―寝込んで」「造型なんじ小影が」と、どちらも、かなを漢字に改めている。後者はかゝ書きかけ、げとは脱けずに、影と書いたのである。単純な推敲であるが、いずれも印象鮮明、効果的であると思う。

三箇所以上の推敲については、簡単なものだが箇所が多いもの、複雑なものも箇所も多いもの、簡単なものと複雑なものも両方が一篇の中にあるものと――この場合はその比率がいろいろである――分類しうる。この分類については、今回は略す。

6 題に手入れのある詩稿について

詩の題が詩の肝心要であることはいうまでもない。テーマの核とでもいえるものが付けられる場合も、何気ない印象語が題とされる場合も、詩人の心の結晶がそこに光るものである。光太郎もやはり細心の心くばりを払っている。推敲回数が一度の場合について一番多いのは題であり、推敲回数が多いのも題で、「明瞭に見よ」は初稿で十二回、定着稿で二回、計十四回も推敲を重ね、結局は初案にもどっているが、揺れ動き揺れ動きしている。

もの」の題を消して「少女に」の詩は書かれている。

貴重な資料となる初稿や異稿、断片は、その使い方が幸して、残ったものもあろうと思われる。用紙は何であれ、書きたくなくなった時に時を移さず書いた光太郎の姿勢を、散文などの反故を用いたところに感じる。

貧をうたいあげた詩も多いのであるが、原稿用紙にこと欠いたとは思われない。書きたくなくなった時、原稿用紙がきれていた場合、反故も気にせず利用したのもあったと受けとりたい。

3 初稿・異稿・断片の残されている詩稿について

用紙の項で一寸ふれたが、決定稿的詩稿(以後A)とその初稿又は異稿、断片(B・C)二つある場合はB・Cが残っているのは、推敲過程追跡にとって貴重な資料を恵んでくれたのであり、まことに興味深い。これらの残っているのは、戦後の詩に多い。分布は次のようである。A・Bの横の数字は推敲箇所数。

I期 猫 A₉・B₃(異稿)・Abraham Lincoln (A₄[ハイイ字]・B₄)

[国字異稿]

II期 首符 A₀・B₉(初稿)、無口な船長 A₆・B₃(異)・C₃(断片)

あなたはだんだんきれいになる A₁・B₁(異・天の金風)

エビグラム A₃・B₁(異・エビグラム三つ 浄書?)

何をまだ指さしてゐるのだ A₉・B₇(異・指さす人)

II期 上州川古「さくさん」風景 A₀・B₁₃(初)

冷然 A₃・B₁₃(初) C₅(異・提要)、友よ A₀・B₀(断片)

IV期 卓上の七月 A₂・B₈(断)、検温 A₀・B₁₁(初)

こどもの報告 A₁₀・B₇(異)、芋銭先生景慕の詩 A₅・B₁₇(断)

へんな貧 A₃・B₃(異・穴すまひ)

V期 四月の馬場 A₁・B₁₀(異・風かをる)、みかきにしん A₁・B₁₂(初)

特別攻撃隊の方々に A₁₉・B₁₀(断)、われら文化を A₀・B₃(異)

昭南島生誕二周年 A₄₈・B₂₅(断)、勝このうちにあり A₅・B₂₄(初)

VI期 雲 A₀・B₁₂(初)、絶壁のもと A₂・B₃₂(初)

田植急調子 A₃₄・B₅₈(初) C₁₃(異)、暗愚小伝 A₂・B₇(異・初)

蔭先生に感謝す A₁・B₈(断)、脱卻の歌 A₇・B₁₀(断)

人体飢餓 A₂・B₁₃(断)、新年 A₀・B₄(断) C₁₁(断)

元素智恵子 A₅・B₆(異・智恵子は居る)、クチバミ A₃・B₁₄(初)

金田一國士頌 A₁・B₃(初)

開拓に寄す A₉・B₃(異・浄書) C₃₇(断)

大地うるはし A₈・B₁₅(初)、人間拒否の上に立つ A₈・B₂₁(断)

明瞭に見よ A₁・B₁₀(初)、かんかんたる君子 A₁・B₁₄(初)

東京悲歌 A₁₁・B₀(異・最初の定着形)、餓鬼 A₁・B₁₀(早期の異)

新しい天の火 A₄・B₁₆(初) C₃(断)、開拓十周年 A₄・B₃₃(初)

開びやく以来の新年 A₃・B₅(異)、生命の大河 A₃・B₂₆(初)

お正月の不思議 A₃・B₂₄(異) C₁₂(初・断)

A B Cと残るものは七篇、A Bは三十七篇、計四十四篇、一割弱である。

初稿は概して、推敲が多くなされている。初稿・異稿の推敲数が少ない場合、断片であることが多いし、一応の浄書であることもある。一応の決定稿の方が多く推敲されているのなどもあるが、会心の作になるまではやめない光太郎の癖があり、一定の型でくれないところに妙味がある。初稿段階の推敲は随分思いついた感のものが多し。詩の長さにもよるから、推敲箇所数のみでは決定的なことはいえないが、推敲箇所数の最多なのは、以上の中では、「田植急調子」の初稿である。

断片・初稿・異稿・一応の決定稿・発表誌・各詩集について、具体的に追跡してみると、光太郎の詩作の秘密の一部にふれ得ると思うのであるが、これは後に取り扱いたい。

4 推敲の跡の残されていない詩稿について

推敲の跡の残されていない詩稿は六十九篇である。この分布は前掲の表の通りである。これらは、本当に「一気呵成」に書かれたものと、初稿で一応まとまったのを浄書したものと、二通りあるように思われる。楷書的に端整な筆

1 筆蹟などの面について

書に興味を持ち、晩年には書展の計画さえ持った光太郎であるから、その詩稿は見事なものである。字体、筆勢、筆写様式などいろいろあって、ペン字の法帖を見る思いがすると同時に、そこに光太郎の書いた時の心の反映が感ぜられて、眺めていると興がつかない。用紙の樹目を重んじた書方にも人柄がある。

字体を大別すると、楷書に近いもの（以後楷書的と書く）、草書に近いもの（草書的）、草書といえよう。そしてそれぞれに度合があつてさまざまである。

筆勢は丹念に端然と認められているもの、早く流れるような書き方のもの、これらの中間のものと大別できよう。

浄書的な詩稿は、端然と楷書的に書いてあるものが多いようであるし、初稿の多くは流れるような草書である。詩情の流れるままに筆がすべっている。推敲も、自由自在になされている。書きながら推敲し、書いた後で推敲し、速い速度を字面は感じさせる。詩集「記録」や「をぢさんの詩」などに収められた詩稿は、総ルビのものが多く、美しくていねいに入れられ、読者へのサービス、特に子供への限らない愛情がこめられているようである。

推敲は、インク、赤インク、鉛筆、赤鉛筆、背鉛筆、墨などで書きこまれている。インク以外は、一応作成した後の推敲を意味していると思われる。書き改めてある場合、初案がわかる場合と、わからないほど消してある場合とがあつて、わかる場合は、推敲の過程がはっきりするが、わからない場合は、それが一字ぐらゐの場合、書き損じの訂正が多いようであるが、二字以上はとにかく初案がひどく気に入らなかつたのではなからうかと思うより外、致し方がないように思う。光太郎は一字もゆるがせにはしなかつたようである、すこしでもアイマイだと自分が感じたと思われればもう一度書き直している。現在見て、おかしいとは思われない字が含まれていて、それが大部分を占めていることは、いかに光太郎が気に入るまで仕事をしたか、その一端がのぞいているようである。

様式は題を書いて一行あけて、書く、というのが大部分であるが、一行あけない場合もあるし、題が欄外に書かれている場合もあり、題を得かぬ初稿、断片などもある。題が欄外の場合は、題が後から書かれた公算が大きいと思

う。

ほとぼしる詩情についてゆこうとする速い筆勢、詩稿に少しのアイマイさを残さないようにとの心づかい、美しく端正な字体、どれにも光太郎の人柄と、その時の心境が鮮やかにあらわれている。

2 用紙について

原稿用紙がほとんどであるが、「山林」の初稿がB4判のザラ紙一枚、「石くれの歌」が全紙半紙のワラ半紙の一部に書かれている。字体は草書、発想時の心のリズムが、手当り次第の用紙を使ったのにもあらわれている。「一億の号泣」は野紙の両面に書かれ、終戦時、即日即刻に作られた迫つた心境が、ここにもある。「新年断片、大地うるはし初稿、お正月の不思議断片、生命の大河初稿」は原稿用紙の半面を横にして樹目を無視して書いてあり、初稿段階の気持が表明されている。「非常の時に、報告初稿」は原稿用紙の両面を使っている。原稿用紙の裏面を使ったのは「重大なる新年、帝都初空襲、わが詩をよみて人死に就けり」、同じ詩の初稿の裏は「猫、首狩、上州川古「さくさん」風景、検温、新しい天の火断片」、同詩断片の裏は「友よ、無口な船長」の二枚目に使われている。同詩の題名や署名を書いただけの裏は「不許士商入山門、脱卻の歌（二枚目）」、「芋銭先生景慕の詩」は二枚目が同詩の一行だけを書いた反故の裏、三・四枚目は同詩の初稿断片の裏である。同詩の異稿の裏は、「卓上の七月」の二枚目に用いている。「冬の子供」は一行ずつ書いたものの裏、「後庭のロダン」は一・二枚目は無口な船長の異稿の裏、三枚目は反故の裏。「美を見る者」はエビグラム異稿の裏。「或る日」は何をまだ指さしてゐるのだからの異稿の裏、「似顔」は一艘の船が二艘になる事の題名と署名を書いたものの裏と、冷熱の初稿・異稿の裏。「発足点」はこどもの報告異稿の裏。「みかきにしん」は四月の馬場異稿の裏。「与謝野夫人晶子先生を弔ふ」の二枚目は戦後報道戦士にささぐの最初二行の反故の裏。「感激をかくさず」はあなたはだんだんきれいになるの異稿の裏。「南洋眼前にあり」は昭南島生誕二周年の断片の裏。「この年」は元素智恵子の異稿の裏である。訳詩反故の裏面使用は「消滅（三枚目）、存在」、散文反故の裏面は「旅にやんで、梅酒、雷電の夜（二枚目）」、「まつた」を知らず、開拓十周年。「明瞭に見よ」は反故の裏である。「清くして苦々

詩 作 年 次	I	II	III	IV	V	VI	計
	1916 ~ 1923	1924 ~ 1928	1929 ~ 1936	1937 ~ 1941	1941 ~ 1945	1945 ~ 1955	
詩 数	29	82	48	95	134	85	473
初稿・異稿	2	4	4	5	4	18	37
断片のあるもの	0	1	1	0	0	5	7
計	2	5	5	5	4	23	44
手入れのない詩稿	3	10	14	11	17	14	69
題のみ手入れのあるもの	0	1	2	1	0	0	4
一箇所手入れのあるもの	4	16	7	9	16	13	65
二 " "	2	12	7	18	13	11	63
三 " "	3	14	7	9	10	16	59
四 " "	5	8	4	8	10	11	46
五 " "	2	8	6	8	12	11	47
六 " "	1	5	0	10	13	8	37
七 " "	1	1	0	6	4	5	17
八 " "	1	1	1	3	6	7	19
九 " "	4	5	1	4	3	3	20
十 " "	1	3	2	7	10	6	29
十一~十五 " "	1	4	3	5	12	15	40
十六~二十 " "	0	1	0	1	8	4	14
二十一~二十五 " "	1	0	1	0	4	4	10
二十六~三十 " "	1	0	0	0	2	3	6
三十一~三十五 " "	1	0	0	1	0	3	5
三十六~四十 " "	0	0	0	0	0	1	1
四十以上 " "	1	0	0	0	1	1	3
最多数	62	16	23	32	49	58	
題の手入れのあるもの	4	11	13	22	30	20	100
		[1(8)]				[1(11)]	[2(19)]
書違い訂正	16	23	9	32	44	53	177
書入れ消したものを	0	0	0	2	2	5	9
字々確実に	12	20	22	41	44	54	193
かな表記訂正	1	4	1	8	19	36	69
送りがな	0	2	0	3	3	2	10
挿入 削除	1	2	1	9	6	3	22
句読点改め	1	4	4	25	16	21	71
符号	0	3篇17	9篇17	9篇21	7篇22	6篇23	34篇102
ルビ	0	1	5	8	24	19	57
漢字からひらがなへ	3	5	9	32	39	44	132
カタカナへ	0	0	1	0	0	1	2
ひらがなから漢字へ	2	8	2	22	36	21	91
カタカナ	0	0	1	0	0	0	1
漢字変更	4	10	7	17	32	22	92
一行	6篇12行	8篇9行	2篇3行	11篇28行	16篇26行	27篇63行	70篇141行
削除	一部分 39	26	14	39	69	100	287
ことばの一部分	6	1	0	5	15	5	32
発表後	4篇133行	5篇12行					9篇145行
一行	6篇9行	0	2篇3行	6篇14行	7篇8行	4篇5行	25篇39行
挿入	一部分 16	27	14	26	71	93	272
ことばの一部分	3	4	2	6	10	5	30
二行を一行に	2篇4行	0	0	1篇1行	0	1篇1行	4篇6行
表現	一行と数行に 1篇1箇所			1篇1箇所	3篇4箇所	1篇2箇所	6篇8箇所
韻序の入れかえ	0	3	2	4	1	3	13
変更	一行推敲 3篇8行	13篇20行	6篇10行	13篇16行	20篇34行	23篇43行	78篇131行
一部分推敲	60	101	68	145	330	416	1120
初案にもとる	18	19	10	24	37	37	145
削除	9	5	2	12	20	16	64
助詞	挿入 2	3	4	4	9	12	34
変更	8	17	3	21	26	51	125
初案へ	1	1	0	0	3	2	7

量に削減した詩もあって、「クリスマスの夜」では、実に五十七行に線が引かれていたが、九篇で、百四十三行に及んでいる。細部の推敲はもちろんのことである。詩稿に残っている改作が、とうとう生かされなかった例もある一例をあげると、「女性はみんな母である」の七行、八行間に挿入された「母は有つるかな」の一行は、結局は活字にはならなかった。

とにかく、「高村光太郎全詩稿」四百七十三篇を通過すると、ある程度、光太郎の詩推敲のあとを追跡することができる。発表誌・出版された詩集の詩の異同の検討と併せ行らば、今回は「なまのもの」「オリジナリティ」に限定した。

推敲の跡を追求するに当って、まず次のような点が考えられる。

1. 筆蹟などの面について
 2. 用紙について
 3. 初稿・異稿・断片の残されている詩稿について
 4. 推敲の跡の残されていない詩稿について
 5. 手入れのある詩稿について、その推敲箇所検討
一箇所、二箇所、三箇所……箇所が多いもの
 6. 題に手入れのある詩稿について
 7. 推敲のなされ方について
- A 表記面について
- ア 書違い訂正 イ 確実にするための再表記
ウ かな表記・送りかな エ 句読点 オ 符号
カルビ キ 漢字表現をかな表現に
ク かな表現から漢字表現に ケ 漢字変更
- B 表現面について
- ア 削除
イ 挿入、付加 十一 一行に亘って
ウ 表現変更 十二 部分的に
- エ 特に助詞について オ 初案にもどる
- C 推敲の態度について

以上の観点から考えてみた。

手入れの箇所については、唯推敲のみでなく、一篇の詩の長さ、語数を考えないと、科学的ではないかもしれないが、今回は見送った。しか

し、そういう緻密な操作をしなくても、大体のすがたは明らかになったように思う。細密な日本画ではなく、あらいタッチのデッサンに過ぎないが。このデッサンに自信が持てたら、細密な仕上げもやってみたいと思っている。又一方では、詩という芸術作品をコンピュータ式に処理するのは味気ないような感じで、細かな分析はやりたくなかった面もあることを白状しておく。

表現面の推敲について、一行推敲として扱った場合、すべての推敲のタイプが、ケース・バイ・ケースであらわれている。それを一括して扱った。部分的推敲の場合、主語、述語、連体修飾語、連用修飾語、独立語などに分類してみたが、非常に複雑になるし、まず全詩の語彙の分類が必要ともなるので、今回は大づかみの処理について述べることにする。

なお、代表的な詩の推敲追跡も必要と思う。初稿、異稿、断片などの残されているものについて、ないものについて、それぞれ推敲過程を詩稿は興味深く物語ってくれるのである。紙数が許せば、是非やりたい。

「国美はし」「真珠湾特別攻撃隊」の二篇は散文形式で書かれているので、検討から省いたこと、詩稿を六期に分けて扱ったが、それは高村光太郎全詩稿の区分に従ったこと（一期は道程以後、二期は猛獣篇時代、三期は猛獣篇以後の時代、四期は日中戦争時代、五期は太平洋戦争時代、六期は戦後）、助詞についての項を特設したので、他のデータの中には入れなかったことをお詫言しておく。どうしても判読できなかったものは○であらわした。

次頁の表は、前記の3.4.5.6.7について教量的に処理したものである。3.4.5.6.7の項をお読み下さる際にもご参照下さい。

なつて、詩心にびつたりたる表現を求めての徹夜、夜更しとなったものと思はれる。

「高村光太郎全詩稿」が二玄社から発行された。全詩稿の存在によって、天衣無縫、ただ作りっぱなしでなかつた詩もあることが明白になった。全詩稿といつても、詩集「道程」と、それ以前の時代の詩、百六十七篇の詩稿は残っていない、四百七十三篇である。

全詩稿のあとがきで、北川太一氏は「いつか詩作の方法について質問したとき、高村さんは『僕に詩のノートなんか無い。はじめはその辺の紙切れかなんかに書きつけて置くんです。それがだんだん形をとってくる。最後に書くときは、二三分でできちゃうな』と言われたことがあるが、詩は『不可避』の過程によって、先づ高村さんの心に発想される。それは時に何年も温められ、徐々に形をとり、ときには短時間で醗酵する。晩年、あんなに詳細なプランを語っていた詩『東京エレジイ』が、とうとうそのメモすら残されず、人々を失望させたりもするし、事物に蝕発されて、即日即時に詩が生まれた例を、いくつもあげることができる。」と、光太郎の作詩の態度の真面目を伝えている。さらに、「頭の中であれ、紙の上であれ、ほぼ成案が熟すれば、あとは一気に原稿用紙に写される。もちろんまだ必ずしも決定稿ではない。さらに推敲は加えられ、そしてそれらは手控えの草稿として、手もとに残され、蓄積される。雑誌などにはそこから新たに浄書され、ほとんど消しのない見事な筆蹟の原稿が送られることになるのである。」と。

詩稿を見てみると、この言は裏書される。即日即時の詩と思われるものもあるし、永年胸中にあためて、作りだされたらしいものもある。前記の「提督戦死」などは間髪をいれずの作詩であり、戦時中の詩集「記録」の詩は、そのほとんどが即日即時のものと思われる。「戦意愈々昂し」には「十九年五月五日古賀提督殉職の発表あり 午後五時までに作り『よみうり』」木村氏に渡す。明朝掲載の筈の記入があるし、「大詔渙発」には「十六年十二月八日、九日決定」と書きこみがあり、宣戦の詔勅の下つた日にすぐ書かれていたし、終戦の「一億号泣」には「二十年八月十六日午前中」とあり、十五日の終戦の玉音放送後直ちに書かれたものであることが明白である。有名な「独居自炊」の詩稿には「或る行貨を受けたる」が副題的に（ ）付で書かれ、消してあり、詩の後に（ ）付で「昭和十七年四月 或る行貨をうけたるころ―或る賞賜をうく」と推敲して消してある。この書きこみ

はどちらが先か不明であるが、とにかく賞——四月に詩集「道程」により第一回芸術院賞を受けた日に作詩したことが明確に詩稿に残されている。「或る日」は秩父官結婚祝賀の詩であるが、昭和三年九月二十八日、御成婚の日には作られている。

永年胸中にあためたための好例は「雨にうたるるカテドラル」である。明治四十一年、二年頃のバリの体験を、大正十年に詩に表現したのである。明治三十九年、ニューヨークで苦学中の体験を、「白熊」は大正十年に「象の銀行」は大正十五年二月七日に詩に結晶させている。ロダンに感動したのはじめは、明治三十五年、六年頃であるが、「後庭のロダン」が詩作されたのは大正十二年十二月九日である。大正二年九月の上高地でのアクショントが「狂奔する牛」となったのは大正十四年六月十七日である。フランスの生活を題材にした「感謝」は大正十五年四月九日の作である。親友であった萩原守衛が亡くなったのは明治四十三年だが、詩「萩原守衛」は昭和十一年八月二十八日作である。「何をまだ指さしてゐるのか」は明治四十五年犬吠碑に遊んだ時に会った白痴を描いた詩であるが、昭和三年九月十六日作である。道程の「犬吠の太郎」の詩をうけた詩ではあるが、大正十五年頃大倉喜八郎の首を作ったが、「似顔」の詩になったのは昭和六年二月六日。智恵子と二人で磐梯山の奥山に登つたのは昭和八年八月のことだが、「山麓の二人」は昭和十三年六月二十日の作である。智恵子の亡くなったのは昭和十三年だが、「荒涼たる掃宅」は昭和十六年六月十一日作。例をあげれば、きりが無い。詩の内容と作成時とを追跡すれば、これらは明らかに。

草野心平との対談の中に「いよいよ纏めようという時に、頭に出てきた時に、また非常な熱中の仕方をするな。……だから、だからややつたらだら出来ちゃうつていうことはないんだ。」の言葉があるが、これにも光太郎の詩作の様子が伺われるのである。即日即時の詩も、永年心にあためた詩も、いざ詩作の時は非常に熱中して纏めたと思われる。前記の「殆ど徹夜す」「徹夜す」なども「教世観音を刻む人」や「陽春の賦」に限らなかつたのではなからうか。

熱中してさつと出来上つた手控えの草稿は、発表後作成順に整理されていて、それが全詩稿出版を可能にした。なお、詩稿は発表後も改作をした形跡が残っている。詩集によって、違いのあることの追跡検討でこれは明白になることであるが、詩稿にも推敲の跡がとどめられている。例えば、発表後大

「高村光太郎」ノート その五

詩稿検討—推敲について

井 田 康 子

はじめに

高村光太郎は、詩を「不可避」に書く。「詩は無限なものだから何処からでも生まれる」のであり、ほんとの「生」から、詩精神がひらめき、その魂の深さが、詩の深さとなり、日常語の生きた言葉が詩語である、という詩観が根底にある。不可避に詩作する生地そのものから詩人である。詩作に当って、即時即刻、詩情のほどばしるままのがあるのは当然である。「提督殿死」の詩稿には「昭和十八年五月廿一日午後三時、朝日新聞の為に発表、即日即刻つくる」と心覚えが書かれているように、山本五十六提督殿死の報に接するや即刻作つたのである。多少の推敲はあつたとしても（最後一期一つ）、心からあふれる言葉のままであつたと推測できる。これほどでなくとも、自然の流露のままが詩となつた場合が多いのは、「不可避」の詩人としての特権であるが、しかし、いざ詩作となると、「わが詩の鋭角いまだ成らざるを奈何せん」（雪白く積めり）の場合もあつたし、「雪の頃からかかつてある詩が、桜が散つてもまだ出来ない。この悪婦につかまつて おれは一步も前進できない。……悪婦の吐息は昼夜を分たず おれをもとめて離さない。」（悪婦）のように、詩作のとりこになつて、つまり表現に苦心した時もあるたようである。

「詩は私の一面だけで彫刻はもう一つの面である。だから二つを一緒にして見て頂かないと、私といふものがわからないと思ふ。一人の人間のすることだから別々なものでなくて、有機的なつながりのあるものですよ。」との光太郎の言葉通り、彫刻の安全弁として詩作した光太郎ではあるが、彫刻において「勉強すればする程仕事はのび」（へんな貧）と、会心の作が出来るまでは作りかえ作りかえした芸術家氣質が、詩作では影を潜めてしまふとは思

われない。彫刻よりは気楽に作り、発表した気持も推測出来るが、ただただ安全弁として、不可避の心やりに書きちらしたのではないようだし、詩精神のひらめきで、一気呵成に書き上げ、そのまま推敲もせず終つたものばかりでもないようだ。

「生きた言葉をつかむ悦びは、その事が既に創造の悦びに傾し、生きた血肉の同義語に外ならない」（生きた言葉）と述べ、「私は日本語の美についてもつと本質的な窮まりない処に分け入りたい。人に気づかれず路傍に生きている日本語そのものに真の美と力との広大な脈のある事を明かにしたい。念願はますます強まるばかりである。」（詩の勉強）、又、「言葉は生きものであるから、自分で使つてゐながらなかなか自分の思ふやうにならず、打てる言葉に左右されて思想までが或る限度をうけ、その言葉のはたらきの埒外へうまく出られない場合が多い。人間の心情にはもつと深い、こまかい、無限の色合があるのに、言葉はそれを言葉そのものの流儀にしか通訳してくれない。」（言葉の事）と述べ、「自分の思つたことをそのまま正直に現はす、其所に本當の詩が生れます。真剣勝負なのです。」（春になつて）、「言葉は作者自身の内から確かな選択と自覚とを以て出て来たものでなければ生きない。……凡詩語といふ特別な用語があるやうに思ふ者もあるが、それは考方が逆で、表現の緊密が極まれば其が即ち詩語となるのである。」（応募詩選評）などにかがわれる光太郎の詩語に対する考え方は光太郎の心から生まれたもので、教えられたものでも、勉強して得たものでもない。自然発生的性格を持つている。このような詩語を求めて苦心したことは当然だと思ふ。「教世観音を刻む人」の詩稿に「昨夜殆ど徹夜す」と書きつけてあるし、「陽春の賦」にも「昭和十九年二月二十三日夜徹夜す」とあり、「敵ゆるすべからず」にも「昭和十九年二月廿四日夜三時半」の記入があるのは、詩作のとりこに